

埼玉県ふじみ野市

# 市内遺跡群 10

2014年3月

ふじみ野市教育委員会

ふじみ野市埋蔵文化財調査報告 第11集

埼玉県ふじみ野市

# 市内遺跡群 10

2014年3月

ふじみ野市教育委員会



## はじめに

ふじみ野市は平成17年10月の合併により新たな歴史を歩みはじめました。

市内には、権現山古墳群や福岡河岸記念館、復元大井戸跡や旧大井村役場庁舎など、多くの文化財が存在し、2万数千年前の旧石器時代から現代までの長い歴史をみることができます。それぞれに特色のある地域の歴史も、一つの大きな流れとして捉えると、改めてこの地域の繋がりや関係の深さを感じます。そして、現在のふじみ野市も歴史的に大きな画期にあるといえます。

ふじみ野市は、都心から30km圏内という立地条件にあるため、昭和30年代ごろから急激な開発の波が押し寄せ、企業の工場や研究所の進出、住宅の建設ラッシュ、大規模都市基盤整備事業が計画・実施されました。人口の増加も伴って周辺の自然・社会の環境は大きな変化をしてきました。そして今、合併により更なる変貌を遂げようとしています。

今回、市内で発掘調査された成果を一冊の冊子にまとめることが出来ました。発掘調査の成果は、近年の開発ラッシュに伴う店舗や住宅建設によるものが主体です。長い歴史の中で繰り返し住まいの地として利用されるということは、いつの時代でも、ふじみ野の地が住み良い土地であることの証明ともいえます。

本書は、民間の開発事業者からの委託を受けて実施した、「市内遺跡発掘調査」の成果を記録した報告書です。将来にわたってこれらの資料を、地域の文化・歴史を学ぶ糧として広く皆様方に活用していただければ幸いです。

おわりに、土地所有者、開発関係者の皆様には多大なご負担と、ご協力を賜りました。地域の文化財保護・保存についてのご理解をいただいたことに対し深甚なる敬意と感謝を申し上げます。

また、調査から本書刊行に至るまで、文化庁・埼玉県教育委員会生涯学習文化財保護課・市関係各課・調査関係者の多くの皆様から、ご指導やご協力をいただきました。誌上をもって厚くお礼と感謝を申し上げます。

ふじみ野市教育委員会  
教育長職務代理者 高山 稔

## 例　　言

1. 本書は、埼玉県ふじみ野市内に所在する遺跡群の2010（平成22）年度の試掘調査と発掘調査の報告書である。
2. 2010（平成22）年度に行った試掘調査および整理作業は、総経費10,082,430円に対し、国庫（5,000,000円）、県費（2,500,000円）の補助金の交付を受け、2010（平成22）年4月1日から2011（平成23）年3月31日まで実施したものである。

### 3. 調査組織

調査主体者	ふじみ野市教育委員会	文化財保護調査担当者	高崎直成（～2013.3.31）
担当課	生涯学習課文化財保護係	庶務担当	鍋島直久
教育長	矢島秀一（2010.3.19～2014.3.18）	庶務担当	国分英良
教育長職務代理者	高山 稔（2014.3.19～2014.3.31）	柳澤健司	
生涯学習部長	高梨貞太郎（2010.4.1～2012.3.31）	岡 健二（2013.4.1～）	
綾部 謙（2012.4.1～2013.3.31）	発掘調査員補	越村 篤	
教育部长	高山 稔（2013.4.1～）	嘱託員	藤牧守絵（2003.4.1～2012.3.31）
生涯学習課長	綾部 謙（2009.4.1～2012.3.31）	配島結華（2012.4.1～2013.3.31）	
坪井信枝（2012.4.1～）	臨時的任用職員	高橋京子	
生涯学習課主幹兼上福岡歴史民俗資料館長			
坪田幹男（2013.4.1～）			
文化財保護係長	坪田幹男（2007.4.1～2011.3.31）		
橋本鶴人（2011.4.1～2013.3.31）			
高崎直成（2013.4.1～）			

4. 本書作成の作業分担は事実報告及び遺構の執筆を高崎、遺物の執筆を笹森健一（ふじみ野市文化財保護審議会委員）が行った。また図版作成の一部と石器実測の一部を㈱東京航業研究所に委託した。報告書作成全般にわたり、鍋島、越村の協力を得た。

本文・挿図割付：高橋けい子 遺物接合・復元：中田藤子 土器実測・拓本：石垣ゆき子 石器実測：大久保明子  
遺構・遺物トレイス：小林登喜江 遺構写真：坪田幹男、鍋島直久、高崎直成、越村篤 遺物写真：大久保明子  
図版作成：石垣ゆき子、須藤さち子、高橋けい子、丹治つや子、鈴木千恵子、青山奈保美 松平静

5. 各遺跡の調査から報告書刊行にいたるまで下記の諸氏・機関より御指導・ご協力を賜った。（敬称略）

会田明、阿部常樹、天ヶ嶋岳、荒井幹夫、上田寛、越前谷理、大久保淳、大柴英雄、岡田賢治、加藤秀之、梶原勝、梶原喜世子、神木繁嘉、國見徹、隈本健介、小出輝雄、酒井智晴、笹森健一、佐藤啓子、佐藤良博、塙野賀一、鈴木清、田中信、丹治剛、角田史雄、中村愛、原口雅樹、早坂廣人、比嘉洋子、平野寛之、藤波啓容、堀善之、松本富雄、柳井章宏、和田晋治、埼玉県教育局生涯学習文化財課、上福岡歴史民俗資料館、大井郷土資料館

6. 発掘調査ならびに整理作業参加者は下記の皆様である。記して厚く感謝の意を表したい。

〈発掘調査参加者〉（敬称略）明石千とせ、新井和枝、飯塚泰子、壹岐久子、井上晴江、井上麻美子、岩城英子、臼井孝、金子君子、川中ひろみ、菊口繁子、小林こずい、西城満朗子、坂本民子、佐久間ひろ子、佐竹里佳、篠崎忠三、杉本佳久、鈴木勝弘、関田成美、高貝しづ子、沼澤岩男、野岡由紀子、比嘉洋子、福田美枝子、増沢勝実、山内康代、米田昇三、若林紀美代

〈整理作業参加者〉（敬称略）青山奈保美、石垣ゆき子、大久保明子、小林登喜江、鈴木千恵子、須藤さち子、高橋けい子、丹治つや子、中田藤子、松平静

## 凡 例

1. 本書の遺構・遺物挿図の指示は以下のとおりである。

(1) 錄尺は原則として以下のとおりとしたが例外的に変更したものもある。

遺構配置図 1:300 または 1:500 遺構平面図・遺物出土状況図 1:60, 1:30 炉などの詳細図 1:30

土器実測図・土器拓影図 1:4 石器実測図 1:4, 2:3, 1:6 銭貨 1:1

(2) 遺構断面図の水系高は海拔高を示す。明記していないのは同図版中の前遺構の海拔高に同じ。

(3) 遺構図における screen-tone の指示、遺物出土状況のドットの指示。

擾乱 地山(ローム) 焼土 粘土 コンクリート 煤 赤彩

土器 ● 石器 ★ 黒曜石・チャート▲ 磚 ○

(4) 土器断面図は、■が織維含有、●が雲母粒を含有する縄文土器を表わす。

(5) 遺構・遺物実測図中の(▲三角マーク)は図の接続、結合を示す。

2. 住居跡名は、遺跡内の通し番号である。整理作業時に遺構名称を変更したものについては、新旧の名称を表等に記している。

3. 本文中の各表内におけるカッコ( )付の数値は残存値を示す。

4. 本報告にかかる出土品及び記録図面・写真等は一括してふじみ野市教育委員会上福岡歴史民俗資料館に保管してある。



埼玉県ふじみ野市  
市内遺跡群 10 目次

はじめに	i	II 西ノ原遺跡第 145 地点	67
例　言	ii	III 西ノ原遺跡第 146 地点	70
凡　例	iii	IV 西ノ原遺跡第 147・148 地点	72
目　次	v	V 西ノ原遺跡第 149 地点	87
挿図目次	vi	第 11 章 神明後遺跡の調査	89
表　目　次	viii	I 遺跡の立地と環境	89
写真図版目次	ix	II 神明後遺跡第 42 地点	89
		III 神明後遺跡第 43 地点	89
第 1 章 遺跡と調査の概要	1	第 12 章 浄禪寺跡遺跡の調査	92
I 調査に至る経過	1	I 遺跡の立地と環境	92
II 立地と環境	3	II 浄禪寺跡遺跡第 33 地点	92
III 市内の遺跡	4	第 13 章 小田久保遺跡の調査	94
第 2 章 北野遺跡の調査	8	I 遺跡の立地と環境	94
I 遺跡の立地と環境	8	II 小田久保遺跡第 9 地点	94
II 北野遺跡第 19 地点	9	第 14 章 本村遺跡の調査	96
第 3 章 川崎遺跡の調査	10	I 遺跡の立地と環境	96
I 遺跡の立地と環境	10	II 本村遺跡第 123 地点	98
II 川崎遺跡第 32 地点	14	III 本村遺跡第 124 地点	98
第 4 章 滝遺跡の調査	24	IV 本村遺跡第 125 地点	100
I 遺跡の立地と環境	24	V 本村遺跡第 126 地点	100
II 滝遺跡第 17 地点	24	VI 本村遺跡第 127 地点	100
第 5 章 松山遺跡の調査	37	写真図版	103
I 遺跡の立地と環境	37	抄　録	119
II 松山遺跡第 51 地点	41		
III 松山遺跡第 52 地点	41		
IV 松山遺跡第 53 地点	45		
V 松山遺跡第 55 地点	46		
第 6 章 東久保遺跡の調査	51		
I 遺跡の立地と環境	51		
II 東久保遺跡第 69 地点	51		
第 7 章 駒林遺跡の調査	52		
I 遺跡の立地と環境	52		
II 駒林遺跡第 11 地点	52		
III 駒林遺跡第 12 地点	54		
IV 駒林遺跡第 13 地点	54		
V 駒林遺跡第 14 地点	56		
VI 駒林遺跡第 15 地点	57		
第 8 章 東中学校西遺跡の調査	58		
I 遺跡の立地と環境	58		
II 東中学校西遺跡第 34 地点	58		
第 9 章 東久保南遺跡の調査	61		
I 遺跡の立地と環境	61		
II 東久保南遺跡第 38 地点	61		
第 10 章 西ノ原遺跡の調査	63		
I 遺跡の立地と環境	63		

## 挿図目次

第 1 図	ふじみ野市の位置と周辺の地形	4
第 2 図	ふじみ野市遺跡分布図 (1/30,000)	6
第 3 図	北野遺跡の地形と調査区 (1/4,000)	8
第 4 図	北野遺跡第 19 地点遺構配置図 (1/300)、土層図 (1/150)、ピット (1/60)	9
第 5 図	川崎遺跡の地形と調査区 (1/4,000)	10
第 6 図	川崎遺跡遺構分布図 (1/2,500)	12
第 7 図	川崎遺跡第 32 地点遺構配置図 (1/300)、土層図 (1/150)	14
第 8 図	川崎遺跡第 32 地点 H65 号住居跡・掘方 (1/60)	16
第 9 図	川崎遺跡第 32 地点 H65 号住居跡遺物出土状況図 (1/60)、竈・掘方 (1/30)	17
第 10 図	川崎遺跡第 32 地点 H66 号住居跡・掘方 (1/60)	18
第 11 図	川崎遺跡第 32 地点 H66 号住居跡遺物出土状況図 (1/60)、竈・掘方 (1/30)	19
第 12 図	川崎遺跡第 32 地点 H67 号住居跡・遺物出土状況図 (1/60)	20
第 13 図	川崎遺跡第 32 地点土坑・ピット (1/60)	21
第 14 図	川崎遺跡第 32 地点出土遺物 (1/4)	23
第 15 図	滝遺跡の地形と調査区 (1/4,000)	24
第 16 図	滝遺跡遺構分布図 (1/2,000)	26
第 17 図	滝遺跡第 17 地点遺構配置図 (1/300)、土層図 (1/150)	27
第 18 図	滝遺跡第 17 地点 H23・H25 号住居跡・掘立柱建物跡 (1/60)	29
第 19 図	滝遺跡第 17 地点 H23・H25 号住居跡遺物出土状況図 (1/60)、微細図 (1/30)	30
第 20 図	滝遺跡第 17 地点 H24・H26 号住居跡ピット・遺物出土状況図 (1/60)、微細図 (1/30)	31
第 21 図	滝遺跡第 17 地点 H27 号住居跡 (1/60)、集石土坑 (1/30)、井戸・土坑・ピット (1/60)	32
第 22 図	滝遺跡第 17 地点ピット・掘立柱建物跡 (1/60)	33
第 23 図	滝遺跡第 17 地点溝 (1/80)	34
第 24 図	滝遺跡第 17 地点出土遺物 (1/2・1/4)	36
第 25 図	松山遺跡の地形と調査区 (1/4,000)	37
第 26 図	松山遺跡遺構分布図 (1/3,000)	40
第 27 図	松山遺跡第 51 地点遺構配置図 (1/300)、土層図 (1/150)、ピット (1/60)	41
第 28 図	松山遺跡第 52 地点遺構配置図 (1/300)、土層図 (1/150)、落とし穴 (1/60)	42
第 29 図	松山遺跡第 52 地点溝 (1/60)、出土遺物 (1/4)	43
第 30 図	松山遺跡第 53 地点遺構配置図 (1/300)、土層図 (1/150)、穴蔵・溝 (1/60)	44
第 31 図	松山遺跡第 53 地点出土遺物 (1/4)	45
第 32 図	松山遺跡第 55 地点遺構配置図 (1/300)、土層図 (1/150)	46
第 33 図	松山遺跡第 55 地点 H40 号住居跡・掘方・遺物出土状況図 (1/60)	47
第 34 図	松山遺跡第 55 地点 H40 号住居跡竈・掘方・遺物出土状況図 (1/30)	48
第 35 図	松山遺跡第 55 地点掘立柱建物跡・土坑・溝 (1/60)	49
第 36 図	松山遺跡第 55 地点 H40 号住居跡・土坑 1 出土遺物 (2/3・1/4)	50
第 37 図	東久保遺跡の地形と調査区 (1/4,000)	51
第 38 図	東久保遺跡第 69 地点調査区域図 (1/300)	51
第 39 図	駒林遺跡の地形と調査区 (1/5,000)	52
第 40 図	駒林遺跡第 11・12 地点遺構配置図 (1/300)、土層図 (1/150)、ピット (1/60)	53
第 41 図	駒林遺跡第 13 地点遺構配置図 (1/300)、土層図 (1/150)、土坑・ピット (1/60)	55
第 42 図	駒林遺跡第 14 地点遺構配置図 (1/500)、土層図 (1/150)、土坑・溝状土坑 (1/60)	56
第 43 図	駒林遺跡第 15 地点遺構配置図 (1/300)、土層図 (1/150)、土坑 (1/60)	57
第 44 図	東中学校西遺跡の地形と調査区 (1/4,000)	58

第 45 図 東中学校西遺跡第 34 地点遺構配置図 (1/300)、土層図 (1/150) ······	60
第 46 図 東久保南遺跡の地形と調査区 (1/4,000) ······	61
第 47 図 東久保南遺跡第 38 地点調査区域図 (1/300)、土層図 (1/60) ······	62
第 48 図 西ノ原遺跡の地形と調査区 (1/4,000) ······	63
第 49 図 西ノ原遺跡遺構分布図 (1/2,000) ······	65
第 50 図 西ノ原遺跡第 145 地点遺構配置図 (1/300)、土層図 (1/60) ······	67
第 51 図 西ノ原遺跡第 145 地点溝・ピット (1/60) ······	68
第 52 図 西ノ原遺跡第 145 地点溝 (1/60) ······	69
第 53 図 西ノ原遺跡第 146 地点遺構配置図 (1/300)、土層図 (1/150) ······	70
第 54 図 西ノ原遺跡第 146 地点溝 (1/60)、出土遺物 (1/4) ······	71
第 55 図 西ノ原遺跡第 147・148 地点遺構配置図 (1/300)、土層図 (1/150) ······	73
第 56 図 西ノ原遺跡第 147 地点 172 号住居跡・遺物出土状況図 (1/60) ······	74
第 57 図 西ノ原遺跡第 147 地点 172 号住居跡・炉・掘方・集石土坑 (1/30)、土坑・ピット (1/60) ······	75
第 58 図 西ノ原遺跡第 147・148 地点遺構外遺物出土状況図 (1/80) ······	76
第 59 図 西ノ原遺跡第 147 地点ピット・溝 (1/60) ······	77
第 60 図 西ノ原遺跡第 148 地点ピット・溝 (1/60) ······	78
第 61 図 西ノ原遺跡第 148 地点 75 号住居跡・土坑・ピット・遺物出土状況図 (1/60) ······	79
第 62 図 西ノ原遺跡第 148 地点土坑・ピット (1/60) ······	80
第 63 図 西ノ原遺跡第 147 地点 172 号住居跡・集石土坑・土坑・ピット出土遺物 (1/4) ······	83
第 64 図 西ノ原遺跡第 147 地点遺構外出土遺物 (2/3・1/4) ······	84
第 65 図 西ノ原遺跡第 148 地点 75 号住居跡・土坑 4 出土遺物 (2/3・1/4) ······	85
第 66 図 西ノ原遺跡第 148 地点ピット・遺構外出土遺物 (1/4) ······	86
第 67 図 西ノ原遺跡第 149 地点遺構配置図 (1/300)、土層図 (1/150)、溝 (1/80) ······	88
第 68 図 神明後遺跡の地形と調査区 (1/4,000) ······	89
第 69 図 神明後遺跡第 42・43 地点遺構配置図 (1/300)、土層図 (1/150)、溝状土坑・ピット (1/60) ······	91
第 70 図 浄禪寺跡遺跡の地形と調査区 (1/4,000) ······	92
第 71 図 浄禪寺跡遺跡第 33 地点遺構配置図 (1/300)、土坑 (1/60) ······	93
第 72 図 小田久保遺跡の地形と調査区 (1/4,000) ······	94
第 73 図 小田久保遺跡第 9 地点調査区域図 (1/300)、土層図 (1/150) ······	95
第 74 図 本村遺跡の地形と調査区 (1/5,000) ······	96
第 75 図 本村遺跡第 123・124 地点遺構配置図 (1/400)、土層図 (1/150)、土坑 (1/60) ······	99
第 76 図 本村遺跡第 125・126・127 地点遺構配置図 (1/300)、土層図 (1/150・1/60) ······	101

## 表 目 次

第 1 表 過去 3 年間の調査件数と面積一覧表	1
第 2 表 2010(平成 22)年度埋蔵文化財調査一覧表	2
第 3 表 2010(平成 22)年度立会い調査一覧表 1(埋蔵文化財包蔵地内)	3
第 4 表 2010(平成 22)年度立会い調査一覧表 2(埋蔵文化財包蔵地外)	3
第 5 表 ふじみ野市遺跡一覧表	7
第 6 表 繩文時代中期時期細分対比表	7
第 7 表 川崎遺跡調査一覧表	11
第 8 表 川崎遺跡古代住居跡一覧表	13
第 9 表 川崎遺跡第 32 地点 H65 号住居跡ピット一覧表	15
第 10 表 川崎遺跡第 32 地点 H66 号住居跡ピット一覧表	15
第 11 表 川崎遺跡第 32 地点 H67 号住居跡ピット一覧表	15
第 12 表 川崎遺跡第 32 地点遺構一覧表	21
第 13 表 滝遺跡調査一覧表	25
第 14 表 滝遺跡古代住居跡一覧表	25
第 15 表 滝遺跡第 17 地点井戸一覧表	35
第 16 表 滝遺跡第 17 地点集石土坑一覧表	35
第 17 表 滝遺跡第 17 地点土坑一覧表	35
第 18 表 滝遺跡第 17 地点ピット一覧表	35
第 19 表 滝遺跡第 17 地点出土遺物観察表	35
第 20 表 松山遺跡調査一覧表	38
第 21 表 松山遺跡古代住居跡一覧表	39
第 22 表 松山遺跡第 52 地点出土遺物観察表	42
第 23 表 松山遺跡第 53 地点出土遺物観察表	45
第 24 表 松山遺跡第 55 地点土坑一覧表	50
第 25 表 松山遺跡第 55 地点掘立柱建物跡ピット一覧表	50
第 26 表 車林遺跡第 11 地点ピット一覧表	54
第 27 表 車林遺跡第 13 地点土坑一覧表	54
第 28 表 車林遺跡第 13 地点ピット一覧表	54
第 29 表 東中学校西遺跡調査一覧表	59
第 30 表 東久保南遺跡調査一覧表	62
第 31 表 西ノ原遺跡調査一覧表	64
第 32 表 西ノ原遺跡住居跡一覧表	66
第 33 表 西ノ原遺跡第 147 地点 172 号住居跡ピット一覧表	81
第 34 表 西ノ原遺跡第 147 地点集石土坑一覧表	81
第 35 表 西ノ原遺跡第 148 地点 75 号住居跡ピット一覧表	81
第 36 表 西ノ原遺跡第 148 地点土坑一覧表	81
第 37 表 西ノ原遺跡第 147・148 地点ピット一覧表	81
第 38 表 神明後遺跡調査一覧表	90
第 39 表 神明後遺跡第 43 地点遺構一覧表	90
第 40 表 清淨寺跡遺跡調査一覧表	93
第 41 表 小田久保遺跡調査一覧表	95
第 42 表 本村遺跡調査一覧表	97

## 写真図版目次

写真図版 1	北野遺跡第19地点、川崎遺跡第32地点(1)···	103
写真図版 2	川崎遺跡第32地点(2)···	104
写真図版 3	川崎遺跡第32地点(3)···	105
写真図版 4	滝遺跡第17地点(1)···	106
写真図版 5	滝遺跡第17地点(2)···	107
写真図版 6	滝遺跡第17地点(3)···	108
写真図版 7	松山遺跡第51・52・53地点(1)···	109
写真図版 8	松山遺跡第53地点(2)・55地点(1)···	110
写真図版 9	松山遺跡第55地点(2)、東久保遺跡第69地点、駒林遺跡第11・12地点···	111
写真図版 10	駒林遺跡第13・14・15地点···	112
写真図版 11	東中学校西遺跡第34地点、東久保南遺跡第38地点、西ノ原遺跡第145・146地点···	113
写真図版 12	西ノ原遺跡第147地点(1)···	114
写真図版 13	西ノ原遺跡第147地点(2)・第148地点(1)···	115
写真図版 14	西ノ原遺跡第148地点(2)···	116
写真図版 15	西ノ原遺跡第148地点(3)・第149地点、神明後遺跡第42・43地点···	117
写真図版 16	淨禪寺跡遺跡第33地点、小田久保遺跡第9地点、本村遺跡第123・124・125・126・127地点···	118



## 第1章 遺跡と調査の概要

### I 調査に至る経過

埼玉県ふじみ野市は、首都圏 30 km 圏内の県南西部に位置する。2005(平成 17)年 10 月 1 日に、上福岡市と大井町が合併して誕生した。面積 14.67 km<sup>2</sup>、人口は 2012(平成 24)年 12 月現在 108,825 人である。旧上福岡市地域では明治・大正時代頃までは畑作と稻作、旧大井町地域では畑作を中心とする農村地帯であった。また、近世以降は川越街道(大井宿)や新河岸川(福岡河岸)、東武東上線(上福岡駅)などの交通網が発達した交通の要所でもあった。

昭和初期の太平洋戦争時には、旧福岡村に通信施設や旧日本陸軍造兵廠東京工廠福岡工場(火工廠)が建設され、戦後の昭和 30 年代以降には各市町で中・小の宅地開発や大規模な団地が誕生し人口が急増した。また企業の工場や研究所も多数進出してきた。昭和 60 年代以降、旧大井町地域では大規模な土地区画整理事業が進み、埋蔵文化財の発掘調査も行われた。現在は上福岡駅周辺の再開発と、ふじみ野駅周辺の民間開発が活発に行われている。

ふじみ野市では平成 17 年から国庫・県費の補助を受けて、「市内遺跡群発掘調査事業」(旧上福岡市、旧大井町では昭和 53 年度から合併まで)として試掘・確認調査及び個人住宅建設に伴う発掘調査を実施してきた。また民間の開発に伴う本調査も原因者と協議の上、協定書並びに契約書を締結し原因者負担のもと、市教育委員会が主体となって本調査を実施している。

埋蔵文化財の調査は、府内関係各課と連絡調整を行い、農業委員会事務局からの農地転用許可申請段階、

建設課(民間の指定確認検査機関含む)への建築確認申請段階、都市整備課からの開発行為の事前申請段階等でそれぞれチェックされる。その後、教育委員会では開発主体者または土地所有者から「埋蔵文化財包蔵地の開発事前協議書」(以下「埋蔵文化財事前協議書」)の提出を受けて事前協議を行った。埋蔵文化財包蔵地内及びその縁辺部の申請に対して遺跡地図と照合のうえ、現地踏査を実施し現地の状況を確認の上、遺跡に影響を及ぼすとみなされる開発行為に対して申請者に連絡をして協議を行った。

協議後、文化財保護法第 99 条第 5 項にもとづき、民間・公共事業を問わず確認調査については全て公費で対応し、埋蔵文化財包蔵地の詳細な範囲の把握を積極的に実施している。また専その個人の用に供する住宅(個人住宅)の建設に伴う発掘調査についても、教育委員会が発掘調査主体者となって調査を実施した。

2010 年度の試掘及び発掘調査は第 2 表のとおりで、国庫・県費補助事業対象の調査は 23 件である。また、試掘調査の結果、個人住宅建設に伴う本調査 5 件、民間開発に伴う本調査 4 件を行った。開発面積は 36,671 m<sup>2</sup> で、そのうち実質調査面積は試掘 4,159(本調査面積 1,840) m<sup>2</sup> である。過去 3 年間の調査件数と調査面積を第 1 表にあげてみる。

今後、中小規模の再開発を含む民間開発の増加が見込まれる中で、埋蔵文化財の保存及び活用と、調査体制の強化が求められるところである。

第1表 過去 3 年間の調査件数と面積一覧表

件数・内訳 年度	試掘件数	個人住宅 本調査件数	原因者負担 本調査件数	調査原因の内訳
2008(平成 20) 年度	38 件	8 件	4 件	個人住宅 24、共同住宅 1、分譲住宅 5、分譲及び店舗 1、モデルルーム 1、道路築造 2、寄宿舎 2、ブル 1、公園整備 1
	18,016	3,208	2,592	
2009(平成 21) 年度	35 件	7 件	8 件	個人住宅 17、(内 1 件は前年度継続)、共同住宅 4、分譲住宅 5、宅地造成 5、老人福祉施設 1、地下調査 1、個人住宅兼共同住宅 1、個人住宅兼店舗 1
	13,121	3,715	3,365	
2010(平成 22) 年度	33 件	5 件	4 件	個人住宅 14、共同住宅 3、分譲住宅 7、宅地造成 5、小学校増築 1、公園工事 1、事務所建築 2
	36,671	1,075	2,245	

第2表 2010(平成22)年度埋蔵文化財調査一覧表

	遺跡・ 地点名	申請地住所	開発面積 (m <sup>2</sup> )	試掘面積 (m <sup>2</sup> )	個人住宅本調査面積 (m <sup>2</sup> )		原因	試掘期間	調査措置
					民間開発本調査面積 (m <sup>2</sup> )	本調査専用			
1 北野 19	北野 2-182-1・2、1820-4		476.4	74.0			共同住宅	12/1-2	試掘調査
2 川崎 32	川崎字宮脇140の一部		396.0	166.5		163.0	個人住宅	2/24～3/2 3/4～25	試掘調査、本調査
3 鷹 17	(鷹3丁目3-6.3-144)		331.0	197.0			分譲住宅	5/6～31、6/17-18	試掘調査
4 松山 51	松山2丁目6-22-23、28の一部		360.0	60.0			分譲住宅	5/10～13	試掘調査
5 松山 52	築地2丁目2-1		694.0	322.0			分譲住宅	8/26～9/3	試掘調査
6 松山 53	築地3丁目1-11		205.0	90.0			個人住宅	9/10～21	試掘調査
7 松山 54	築地3丁目1-6、76～83		539.5	230.0		80.0	宅地造成	9/21～10/1 10/4～11/5	試掘調査、本調査。市内遺跡群9揭露。
8 松山 55	松山2丁目4-24の一部		226.4	62.0		226.0	個人住宅	1/17	試掘調査、本調査
9 東久保 68	ふじみ野2丁目18-13		791.0	306.0		300.0	分譲住宅	11/22～26 11/29～12/8	試掘調査、本調査。市内遺跡群9掲載。
10 東久保 69	ふじみ野2丁目22-2の一部、3、5の一部、6、7		17,276.3	32.0			小学校増築	3/28	試掘調査
11 脚林 11	脚林区画整理事業27街区2+10等地、11等地の一部		689.5	73.0			個人住宅	4/12～21	試掘調査
12 脚林 12	脚林字新田前258-2(28街区12等地)		115.0	30.0			個人住宅	7/14	試掘調査
13 脚林 13	脚林字3丁目722-1,3-4		927.0	96.0			共同住宅	7/27～29	試掘調査
14 脚林 14	脚林字新田前285～287、288-2-3(22街区)		2,000.0	348.0			公園工事	9/1～8	試掘調査
15 脚林 15	大字脚林字新田前266-3(24街区12等地)		115.0	10.0			個人住宅	2/16～17	試掘調査
16 東中学校西 34	ふじみ野3丁目10-6		1,032.0	135.0			宅地造成	2/2～2/3	試掘調査
17 東久保 南 38	ふじみ野4丁目9-11,12		177.0	9.0			個人住宅	10/13	試掘調査
18 西ノ原 145	うれし野2丁目4-1,4-10		4,938.0	564.0			農協事務所、農産物直売所	7/23～8/25	試掘調査
19 西ノ原 146	組1丁目16-3		246.0	86.0			分譲住宅	10/8～10/13	試掘調査
20 西ノ原 147	組1丁目16-8の一部		135.0		135.0		個人住宅	12/8～12/16 12/17～1/19	試掘調査、本調査
21 西ノ原 148	組1丁目16-8の一部		211.0		211.0		個人住宅	12/8～12/16 1/19～2/1	試掘調査、本調査
22 西ノ原 149	うれし野2丁目4-7		625.0	114.0			農協事務所、農産物直売所	2/7～2/10	試掘調査
23 神明後 41	苗園字神明後298-1,299-1の各一部		486.4	400.0	286.0		共同住宅	5/25～6/7 6/15～7/21	試掘調査、本調査。市内遺跡群9掲載。
24 神明後 42	苗園字神明前380-3		312.0	44.0			宅地造成	6/1～6/2	試掘調査
25 神明後 43	苗園292-14		107.0	42.0	10.0		個人住宅	10/20～10/22 10/22	試掘調査、本調査
26 苗園東久保 26	苗園字東久保637-3,34		429.0		429.0		分譲住宅	6/1～6/11 7/2～7/23	試掘調査、本調査。市内遺跡群12掲載。
27 淨 神 寺 路 33	苗園字神明後340-21		76.0	1.2			個人住宅	8/6	試掘調査
28 小田久保 9	大井字小田久保1185-1		536.0	91.5			個人住宅	3/8	試掘調査
29 本村 123	市沢2丁目7-2		619.6	218.0			宅地造成(4区画)	7/5～7/9	試掘調査
30 本村 124	市沢2丁目6-1		428.0	80.0			宅地造成(3区画)	7/8～7/12	試掘調査
31 本村 125	大井2丁目12-17		143.0	40.0			個人住宅	9/6	試掘調査
32 本村 126	大井2丁目12-2		611.0	126.0			個人住宅	10/4～10/6	試掘調査
33 本村 127	大井2丁目12-5, 16, 18		417.0	112.0			分譲住宅	11/4～11/8	試掘調査
合計			36,671.1	4,159.2	745.0	1,095.0			

第3表 2010(平成22)年度立会い調査一覧表1(埋蔵文化財包蔵地内)

遺跡・地点名	申請地住所	面積 (m <sup>2</sup> )	田 回	試掘期間	備考
1. 鳥居	鳥久保2丁目8番7	69.7	個人住宅	5/6 立会	施工前駆け出し、から層が粘土化(耐水性)遺構物確認なし、 しら鼠糞付合
2. 鳥居	鳥久保2番27	130.7	個人住宅分譲	12/13 立会	遺跡街南側への駆け出に位置し、遺構物確認困難性少、 し事立会
3. 北野	北野2丁目6番6	109.1	個人住宅	8/23 立会	地表面下 40 cm で砂層・遺構物なし、削重工事 6/9 立会確認、地盤上 6 m 約 30 cm、広く埋没遺構物なし、 し事立会
4. 銀林	銀林3丁目722-13,4	33.5	個人住宅	6/9 立会	事立会
5. 鶴ヶ瀬	南行2丁目798-14	194.5	分譲住宅	8/30 立会	既存住居跡古糞。既存に幅約 40 ~ 80 cm 付生され遺構の 可能性あり、し工事立会
6. 鶴ヶ瀬	鶴ヶ瀬1丁目62番6	115.0	個人住宅	11/10 立会	通りあり、し事立会
7. 鈴沢	鈴沢1丁目43	138.0	個人住宅	10/15 立会	地表面下 60 cm で砂層・遺構物なし、工事立会
8. 西ノ原	西ノ原1丁目3-2, 3-4, 1-2	1,337.0	自転車駐場整備	7/22 立会	削重範囲 40 ~ 60 cm 約 5 m、し事立会
9. 東久保西	3-5-2 久野2丁目10番2の一階、10番3	158.7	個人住宅	10/4 立会	既存の柱脚遺構付近から遺構の可燃性少ない、工事立会
10. 東久保	大井町67-1	231.0	通路整備	12/1 立会	削除はなし、し事立会
11. 本村	大井2丁目12-11	236.0	高床 (戸)	7/14, 28 立会	無屋上屋、7/14 市園町の面より築造に立会、遺構確認 面まで 40 ~ 80 cm、既存物質 30 cm
12. 和山	本郷409-2	709.0	分譲住宅	7/20 立会	分譲地付木構築の柱脚遺構付近、周辺面より遺構確認 可能性なし、し事立会
13. 和山	6番1丁目2番26	107.9	個人住宅	11/22 立会	既存建物解体時立会、地山 2m 以上深く削除し物置物投棄の 跡あり、遺構物確認なし、し事立会
合計		3,745.5			

第4表 2010(平成22)年度立会い調査一覧表2(埋蔵文化財包蔵地外)

遺跡・地点名	申請地住所	面積 (m <sup>2</sup> )	田 回	試掘期間	備考
1. 1,000 m <sup>2</sup> 以上	大井武蔵野1362番8,10	1,202.0	田中	9/9 立会	もやい者の白立会発掘
2. 1,000 m <sup>2</sup> 以上	大井武蔵野1382-7,9	2,802.4	田中	11/9 立会	黒土 50 cm その下の 0.05~1.77 m に 40 cm の断面
3. 1,000 m <sup>2</sup> 以上	鶴ヶ瀬3丁目3番9	1,374.0	川端	9/9 立会	川上での深さ 5 ~ 60 cm
4. 1,000 m <sup>2</sup> 以上	鶴ヶ瀬3丁目3番9-4,9	1,171.4	川端	11/9 立会	日没 350 cm 幅 300 cm の作る断面
5. 1,000 m <sup>2</sup> 以上	鶴ヶ瀬 2 丁目 166-12, 167-1, 175-11, 1940-8,10, 1942-14, 45,47	24,120.0	食道堀改築	7/20 立会	川上での深さ 5 ~ 60 cm の断面
6. 1,000 m <sup>2</sup> 以上	鶴ヶ瀬 3 丁目 309-1 の一部	1,021.3	変遷所新田工事	7/7 立会	川上部厚さ 3 m 企画削除確認されず
7. 1,000 m <sup>2</sup> 以上	鶴ヶ瀬 3 田中模型事業 食道堀 9 例 C1 例	1,186.0	川中	9/1 立会	川中立会
8. 1,000 m <sup>2</sup> 以上	鶴ヶ瀬 3 丁目 179-1,22	4,034.5	川中立会及び平地面積	6/1 立会	川中立会
9. 1,000 m <sup>2</sup> 以上	鶴ヶ瀬 3 丁目 179-1,28	3,410.6	川中立会及び平地面積	6/1 立会	川中立会
10. 1,000 m <sup>2</sup> 以上	鶴ヶ瀬市字金 29 番 2	1,983.8	保育所	9/9 立会	川上での深さは確ね 4 ~ 50 cm、川下立会確認。特に初期 なし。
合計		41,906.1			

## II 立地と環境

ふじみ野市は埼玉県の南西部に位置し、市内には国道254号バイパス、東武東上線、川越街道（国道254号線）、関越自動車道といった、交通の幹線が北西から南東方向に平行して存在する。市内の開発はこうした幹線沿いや、東武東上線に沿って存在する。市内の開発はこうした幹線沿いや、東武東上線に沿って存在する。市内には畠地や田園風景も多くみられる。

ふじみ野市を地形的にみると、武蔵野台地と荒川低地に大きく分かれ、旧大井町域は武蔵野台地縁辺部に位置し、旧上福岡市域は台地縁辺部から荒川低地の沖積地に広がる。

武蔵野台地は古多摩川が形成した扇状地で、扇頂部で標高180 m、扇端部は標高15 ~ 20 mで比高差10 m前後の急斜面となって荒川低地と接している。台地には柳瀬川、黒目川、石神井川等の中河川が荒川低地へ向かって流れ、深い谷と冲積地を形成し、河川に沿って多くの遺跡が分布している。他にも多数の小河川が流れ、台地縁辺を鋸歯状に開析することが多いが、中には急崖もなく、緩斜面のまま低地に接していくことがある。この緩斜面はもともと低位の段丘面で、低位台地と呼ばれる。旧大井町地域を南北方向の断面図で

見ると、北と南に高台が続き、その間に低位台地（大井台）がある。この大井台の中を3本の河川が東流し、河川の流域に遺跡が集中している。中でも砂川堀は挟山丘陵に流れを発する中河川で、本来大井台はこの砂川の段丘面と捉えることができる。また、福岡江川や富士見市との境を流れるさかい川、浄禪寺川などの小河川は市内に湧水源をもつ。湧水源は浅い窪地から発しており、こうした窪地の形成は從来から伏流水が再湧出したことによるものと、雨水からの流出によるものとの二通りが考えられている。

荒川低地は、荒川により形成された沖積地で、ふじみ野市の北東部から東部にかけて広がる。荒川の支流であった新河岸川は川越市周辺に水源を発しその流れはふじみ野市、富士見市、志木市、朝霞市を経て東京都にまたがる。武蔵野台地縁辺部を縫うように流れ、不老川、九十川、福岡江川、砂川堀、柳瀬川、黒目川、越戸川、白子川などの支川と合流し、現在は東京都北区で隅田川に合流する。低地部は平坦にみえるが、荒川や新河岸川の河川改修等で取り残された沼や、氾濫できた旧河道（埋没河川）、自然堤防、後背湿地などの地形が存在する。

### III 市内の遺跡

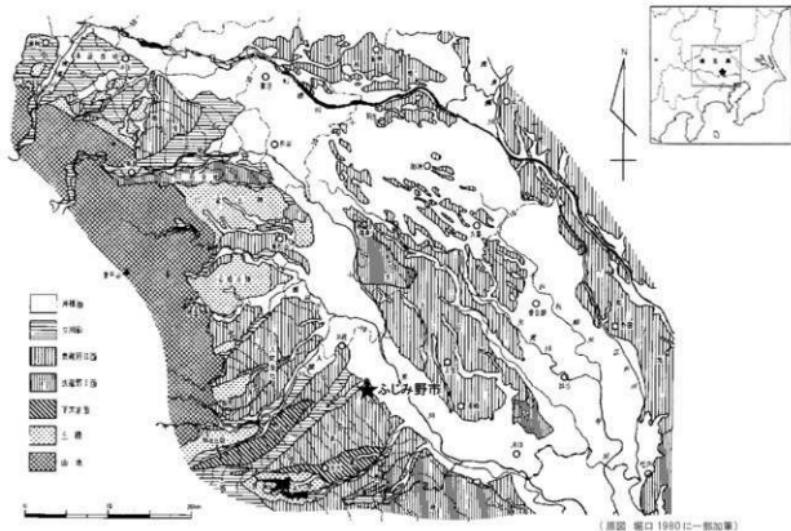
ふじみ野市の遺跡分布をみると、台地上の中小河川沿いと荒川低地部を望む縁辺部、低地部分に分かれ。市内の主な遺跡を時代順に河川ごとに概観する。【旧石器時代・縄文時代】市の北側を流れる川越江川では、右岸高台に鶴ヶ岡外遺跡、鶴ヶ岡遺跡、八幡神社遺跡（川越市）が位置し、縄文時代中期の集落である西遺跡へ続く。鶴ヶ岡外遺跡では旧石器時代の石器群と礫群が出土し、八幡神社遺跡では縄文時代中期の住居跡などが検出されている。

藤間江川・川越江川が新河岸川に合流する部分、荒川低地に張り出した舌状台地上に、川崎貝塚として著名な川崎遺跡が立地する。本遺跡ではローム層中からではないが旧石器時代の石器が出土し、縄文時代早期から後期の住居跡などを検出する。新河岸川は川崎遺跡を回り込み、低地部で台地東縁を沿うように流れ。台地東端は急峻を成し、崖線上には縄文時代中期のハケ遺跡、学史上著名な前期集落の上福岡貝塚が形成され権現山遺跡へと続く。台地の南端、市立福岡中学校周辺はかつて「熊野山」と呼ばれ、湧出した水が丘上から流れ落ち滝となっていたため「滝地区」の名称が付いたとされる。清水は長宮氷川神社の裏手（北側）を北に流れていたが現在は道路となっており、新

河岸川との合流部でその面影を残すのみである。滝遺跡、長宮遺跡はこの小河川に対峙して立地し、滝遺跡では前期の遺構と遺物を、長宮遺跡では前期関山期の集落跡が確認されている。

川越江川の1km南には福岡江川が流れ、新河岸川へ注ぐ。福岡江川の湧水地周辺域に縄文時代中期前半の集落である亀居遺跡が存在し、対岸にも中期前半の江川南遺跡がある。この2遺跡と鶴ヶ舞遺跡では、旧石器時代立川ローム第IV層の礫群と石器群を検出している。さらに市立亀久保小学校周辺では福岡江川に注ぐ埋没谷がみられ、東久保遺跡、亀久保堀跡遺跡、東久保西遺跡、東中学校西遺跡で旧石器時代から縄文時代中期の遺構と遺物が確認されている。川越江川最下流の新河岸川との合流部域には、前期集落の鷺森遺跡が存在する。

福岡江川の900m南には、富士見市との境にさかい川が流れ、3km下流で砂川堀と合流する。流域には縄文時代中期の拠点集落である西ノ原遺跡の他、10遺跡が存在する。旧石器時代の遺跡は西ノ原遺跡、中沢前遺跡、中沢遺跡・外記塚遺跡（富士見市）で立川ロームⅢ層～X層の遺物が確認されている。縄文時代中期～後期の集落は時代を追うごとに、上流から下流域へ集落の拠点を移していく傾向がみられる。



第1図 ふじみ野市の位置と周辺の地形

さかい川の800m南に、都市下水道と化した砂川堀が流れる。砂川流域は大きく3ヶ所の地域で遺跡分布がみられる。砂川最上流域の狹山丘陵部、伏流水となりはじめる中流域、一旦地中に姿を消したあと再び湧水してくる下流域である。下流域のふじみ野市地域では、砂川右岸が段丘となり5~6mの急崖を形成する。この高台上には縄文時代中期の拠点集落である東台遺跡があり、旧石器時代の遺跡も西台遺跡から東台遺跡まで連続と続く。一方砂川左岸の低位台地では、市内で最古の時期であるA T降灰前(立川ローム第VII層)の石器を本村遺跡の微高地上から検出する。縄文時代中期には上流の小田久保遺跡で小規模な集落がみられ、本村遺跡では炉穴、落とし穴が散在する。

【弥生・古墳時代】荒川低地を流れる新河岸川の自然堤防上に、弥生時代後期の環濠集落である伊佐島遺跡が立地する。新河岸川右岸、舌状台地崖線上の東端に立地する権現山遺跡は、縄文時代から中世までの複合遺跡で、縄文時代の住居跡も存在するが、主体は遺跡北東部と北西端に築造された古墳群と、古墳時代前期から奈良・平安時代にかけての集落跡である。北東部に築造された古墳時代前期の古墳群(埼玉県指定史跡権現山古墳群)は、方墳11基の他に古墳時代初期の前方後方墳(2号墳)1基である。また権現山古墳群北西端の台地縁辺部には、古墳時代中期の古墳群(通称権現山北古墳群)3基がある。他に古墳時代の集落は川崎遺跡と上福岡貝塚、滝遺跡で確認されている。

【飛鳥・奈良・平安時代】7世紀には、前述の舌状台地の西側、川崎遺跡の南西隣に川崎横穴墓群、さらに南約1.5kmの台地南側の崖線に、富士見台横穴墓群が存在する。集落は川崎遺跡、滝遺跡、松山遺跡、長宮遺跡など一段低い段丘面に展開し、川崎遺跡は10世紀前半まで、滝遺跡、松山遺跡は9世紀後半ごろまで続く。

8世紀代には前述の他、ハケ遺跡、上福岡貝塚、権現山遺跡、神明後遺跡、東久保南遺跡などで住居跡を検出する。8世紀中葉から9世紀前半まで、砂川堀右岸の台地縁辺部に東台遺跡の大規模な製鉄遺跡が現われ、周辺の遺跡でも木炭窯などが確認されている。さらに9世紀以降10世紀までは伊佐島遺跡、東台遺跡、西ノ原遺跡などで住居跡を検出している。またハケ遺跡からは銅帯金具が、川崎遺跡からは瓦塔片と布目瓦などが出土しており注目される。

【中世】駒林遺跡では14世紀代に造立された板碑の

下に、藏骨器が埋納された葺石墳墓を検出した。また本遺跡を囲む壠跡状の溝覆土層中から、茶罫跡などが確認されている。長宮遺跡、松山遺跡、本村遺跡などでは13~16世紀代の遺物を伴う遺構を検出する。特に本村遺跡では遺構を多数検出し、15世紀以降中世集落が発展したと思われる。16世紀後半から17世紀前半では川崎遺跡、長宮遺跡、松山遺跡、神明後遺跡、淨禪寺跡遺跡などで屋敷地とみられる遺構を検出し、「新田」といった地名と共に開発の歴史を偲ばせる。特に城山遺跡は荒川低地の自然堤防上に立地し、周囲を方形に堀跡で囲む中世から近世の居館跡と思われる。

また、松山遺跡、駒林遺跡、亀久保堀跡遺跡、神明後遺跡では時期不詳の長大な壠跡が検出されている。

【近世】近世以降の遺跡は、多数の遺跡で遺物などが確認されている。主な近世遺跡の分布は中世村落から続く集落跡や、街道沿いの宿場や新河岸川の河岸跡、寺院跡などにみられる。中でも、川越街道沿い大井宿の範囲にある大井氏館跡遺跡、大井戸上遺跡や大井宿遺跡、亀久保村地蔵院の江川南遺跡、旧苗間村の寺院跡である淨禪寺跡遺跡、長宮氷川神社周辺の長宮遺跡、新河岸舟運で栄えた福岡河岸の福田屋などでまとまった遺構と遺物が確認されている。また豊森遺跡で、近・現代の盛土の中から陶磁器が多数出土しているが、埋め立ての為に他から持ち込まれた可能性がある。

近世以降では、昭和初期の旧日本陸軍の軍需工場である東京第一陸軍造兵廠川越製作所(通称造兵廠「火工廠」)の跡地で、防爆土壁・防空壕・水溜・消火栓・排水沟などの遺構や遺物が、近年の調査で確認されている。



第5表 ふじみ野市遺跡一覧表

No	遺跡名	主な時代	遺跡番号
1	鶴ヶ岡外道路	旧石器、縄文早期の集落跡	30-036
2	鶴ヶ岡道路	旧石器、縄文早期・中期の集落跡	30-047
3	西道跡	縄文中期の集落跡	25-001
4	北野道跡	縄文中期・奈良、平安の集落	25-002
5	川崎横六墓群	古墳後期の横穴墓	25-004
6	川崎道跡	旧石器、縄文前期・中期、古墳前期・中期、奈良・平安の集落跡	25-003
7	ハケ道跡	縄文中期の集落跡、奈良・平安の集落跡	25-005
8	上福岡貝塚	縄文前期・古墳前中期・奈良・平安の集落跡	25-006
9	権現山道跡(古墳群)	古墳前期の集落跡・古墳群、縄文中期・奈良・平安の集落	25-007
10	瀧道跡	縄文中期・古墳前期・中期・奈良・平安、近世の集落跡	25-008
11	西原道跡	縄文の散分布地	25-025
12	長宮道跡	縄文前期・中・近世の集落跡	25-009
13	亀居道跡	旧石器、縄文中期・中期の集落跡	30-030
14	鶴ヶ舞道跡	旧石器、縄文中期・奈良・平安の集落跡	30-046
15	富士見台墓	古墳後期の横穴墓	25-011
16	福道跡	古墳後期の横穴墓	25-023
17	松山道跡	奈良・平安、中・近世の集落跡	25-010
18	天神道跡	古墳中期の散分布地	25-018
19	城山道跡	中・近世の散分布地	25-019
20	川袋道跡	奈良・平安の散分布地	25-020
21	江川南道跡	旧石器、縄文中期・中・近世の集落跡	30-007
22	江川東道跡	奈良・平安、近世の集落跡	30-045
23	東久保道跡	旧石器、縄文中期・近世の集落跡	30-009
24	亀久保駆道跡	中世の駆道跡	30-006
25	東久保西道跡	旧石器、縄文早期・中期・近世の集落跡	30-042
26	桐林道跡	近世の船着場・中世の墳墓	25-013
27	福岡新田道跡	縄文時代の散分布地、中・近世寺院	25-015
28	鷲森道跡	縄文前中期の集落跡	25-017
29	伊佐島道跡	古墳前期・平安の集落跡	25-021
30	東中学校西道跡	縄文早期・中期・近世の集落跡	30-008
31	東久保南道跡	旧石器、縄文早期・中期・近世の集落跡	30-032
32	西ノ原道跡	旧石器、縄文早期・中期・後期・奈良・平安～近世の集落跡	30-001
33	中沢前道路	旧石器、縄文早期・中期・近世の集落跡	30-044
34	神明後道路	旧石器、縄文早期～後期・奈良・平安～近世の集落跡	30-041
35	苗間東久保道路	旧石器、縄文早期～後期	30-020
36	淨淨寺跡道路	旧石器、縄文早期～中期・中・近世の集落跡・近世寺跡跡	30-022
37	小田久保道跡	旧石器、縄文早期～中期・中・近世の集落跡	30-040
38	大井宿道跡	近世～近代の宿場跡	30-010
39	大井氏館跡道跡・大井戸道跡	旧石器、縄文前期・中期・中・近世の集落跡	30-037
40	本村道跡	旧石器、縄文早期～後期・中・近世の集落跡	30-034
41	西台道跡	旧石器、縄文中期・奈良・平安、近世の集落跡	30-039
42	大井戸上道跡	旧石器、縄文前期・中期・近世の集落跡	30-014
43	東台道跡	旧石器、縄文早期～後期・奈良・平安～近世の集落跡・製鉄道跡	30-024
44	大井宿木戸跡	近世～近代の宿場跡	30-048
45	石塔畠	中世の散分布地	30-027

第6表 繩文時代中期時期細分對比表

本書	2011	安孫子昭一 鈴木・山本 1988 1988	植木 弘 ③ 1994	黒尼和久 ④ 1995	谷井 他 ⑤ 1982	考古学協会 ⑥ 1981
①	②	③	④	⑤	⑥	
貉沢・阿玉台1b古	貉沢・阿玉台1b古	貉沢・阿玉台1b		1a 中 1a 新 1b 2a 古 2a 新 2b 3a	阿玉台1b前Vb 阿玉台1b前Va Vb VI VII	Ⅺ期 阿玉台出現期 Ⅹ期 (勝坂最古段階) Ⅸ期 (勝坂盛時段階) Ⅷ期 (勝坂終末)
鷹巣I古・新古・阿玉台1b新 勝坂I新・新道古・阿玉台1b古	勝坂第I様式 II様式 III様式 IV様式	勝坂I様式 II様式 III様式 IV様式 葉	中 半 葉			
鷹巣II古・藤内古・阿玉台1b新 勝坂II新・藤内新	V様式 VI様式	V様式 VI様式	勝 後	3b 古 3b 新		
勝坂遺古・井戸原・阿玉台1b古 勝坂遺新・阿玉台1b新			坂	3b 古 3b 新		加曾利E I古
加曾利E I古	加曾利E I様式	加曾利E I直前	a b	1a 1b 1c		
			c	E 1 2 3 4	IXa IXb X	加曾利E I新
加曾利E I新	古相 中相 新相	加曾利E 2様式	加曾利E I式	2a E 2b	加曾	
				2c 古 2c 新 3a 3b 3c	利 E 式	X I X IIa X IIb
加曾利E II	古相 中相 新相	加曾利E 3様式	加曾利E II式	1 2 3		加曾利E II
				E 3 3b 3c		X III
加曾利E III		a 加曾利E 4様式	加曾利E III式	1 2		加曾利E III
加曾利E IV		b		E 4		X V
				4		加曾利E IV

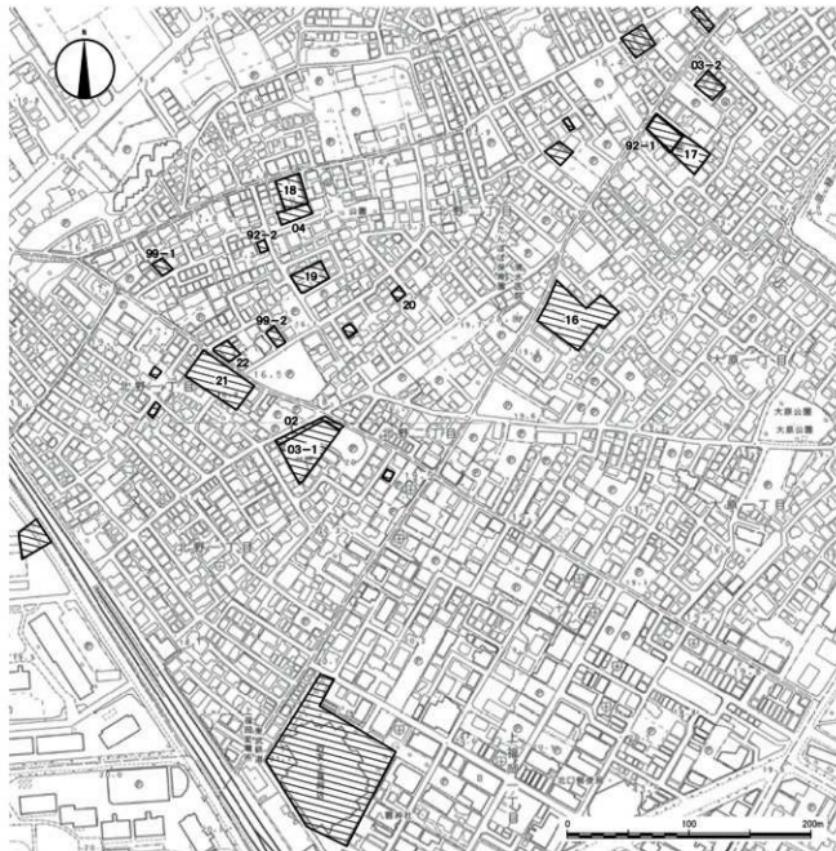
## 第2章 北野遺跡の調査

### I 遺跡の立地と環境

北野遺跡は、藤間江川に面した標高17～18mの台地縁辺にあり、開析した小支谷を囲うように立地する南北250m、東西650m以上の遺跡である。上福岡駅まで600mに位置する利便性のため、昭和30年代から宅地開発され、ほとんど空き地は残っていない。

周辺の遺跡は、1km上流に縄文集落の西遺跡、下流に旧石器時代から縄文、古代、中近世にわたる複合遺跡の川崎遺跡、川崎横穴墓群がある。

1965年の分布調査、1970年代後半の宅地開発で縄文時代早～中期の土器片が採集され、1980年以来24ヶ所で試掘調査が行われている。縄文時代中期と平安時代の住居跡各1軒、中世以前とみられる溝等を検出、縄文時代中期深鉢土器の顔面把手等も採集されている。



第3図 北野遺跡の地形と調査区 (1/4,000)

## II 北野遺跡第19地点

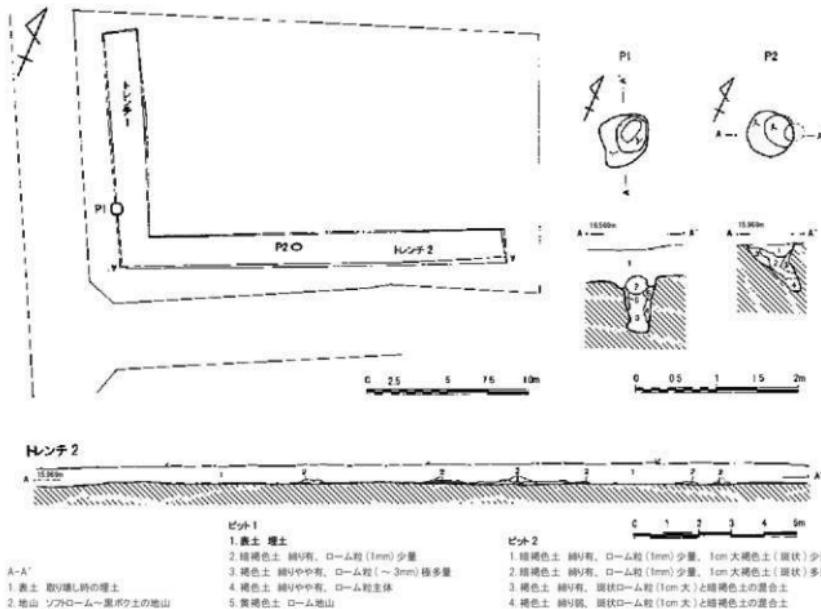
### (1) 調査の概要

調査は共同住宅建設に伴うもので、原因者より「埋蔵文化財事前協議書」が2010年11月17日付けでふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は遺跡の中央部に位置するため、申請者と協議の結果、遺構の存在を確認するために試掘調査を実施した。

試掘調査は2010年12月1日～2日に行った。幅約2mのトレンチをL字形に1本設定し、重機で表土除去後、人力による表面精査を行い、ピット2基を検出した。遺構確認面までの深さは約60cmである。旧石器時代の確認調査は行っていない。写真撮影・全測図作成等記録保存を行ったうえ埋め戻し、調査を終了した。

### (2) 遺構と遺物

【ピット】ピットは2基検出した。いずれも覆土の様子から縄文時代と思われるが、出土遺物はない。P1は平面楕円形、確認面径75×60cm、底径30×15cm、確認面からの深さ71cmである。P2は斜向ピットで深さ60cmまで掘ったが、完掘はしていない。確認面径60×60cmである。



第4図 北野遺跡第19地点遺構配置図(1/300)、土層図(1/150)、ピット(1/60)

### I 遺跡の立地と環境

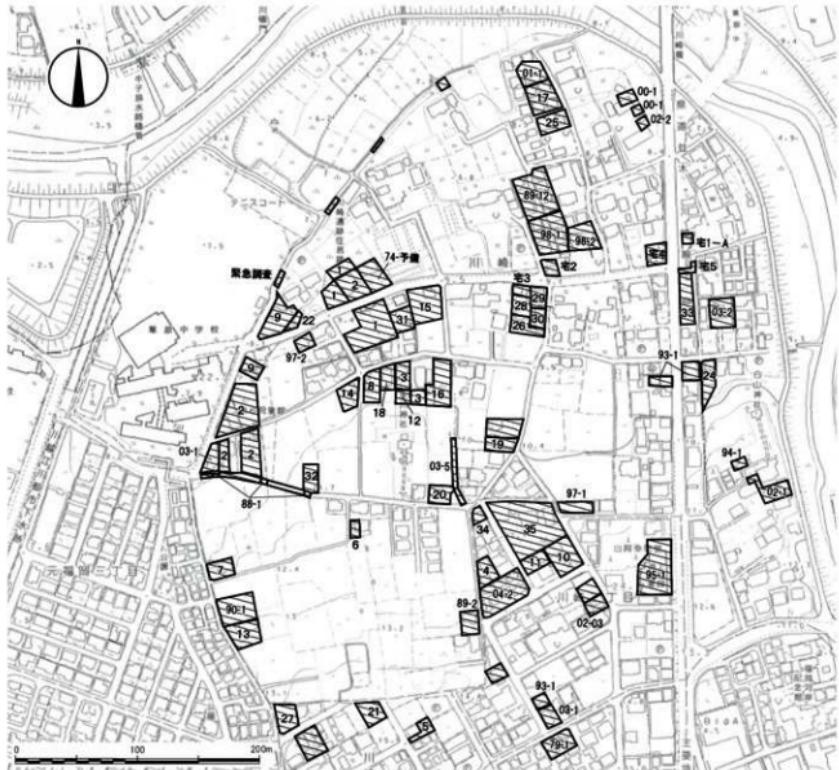
川崎遺跡は、武藏野台地の北東端、荒川低地に舌状に突き出た武藏野段丘面の、いわゆる川崎台に立地している。台地の北側を東流してきた藤間江川は舌状台地の西側で新河岸川に合流し、かつては台地の先端より北東方向へ大きく蛇行していた新河岸川は、現在は台地東縁をなめるように流れている。

台地の幅は400～500m、台地の基部から先端へ1kmにわたり緩やかに傾斜しており、標高は最南部で18m、最北部では8mを測る。遺跡の範囲は南北600m、東西500m以上ある。虫食い状に宅地開発されるが、畠も良く残っている。

周辺の遺跡は、舌状台地の西側基部の急斜面上部に

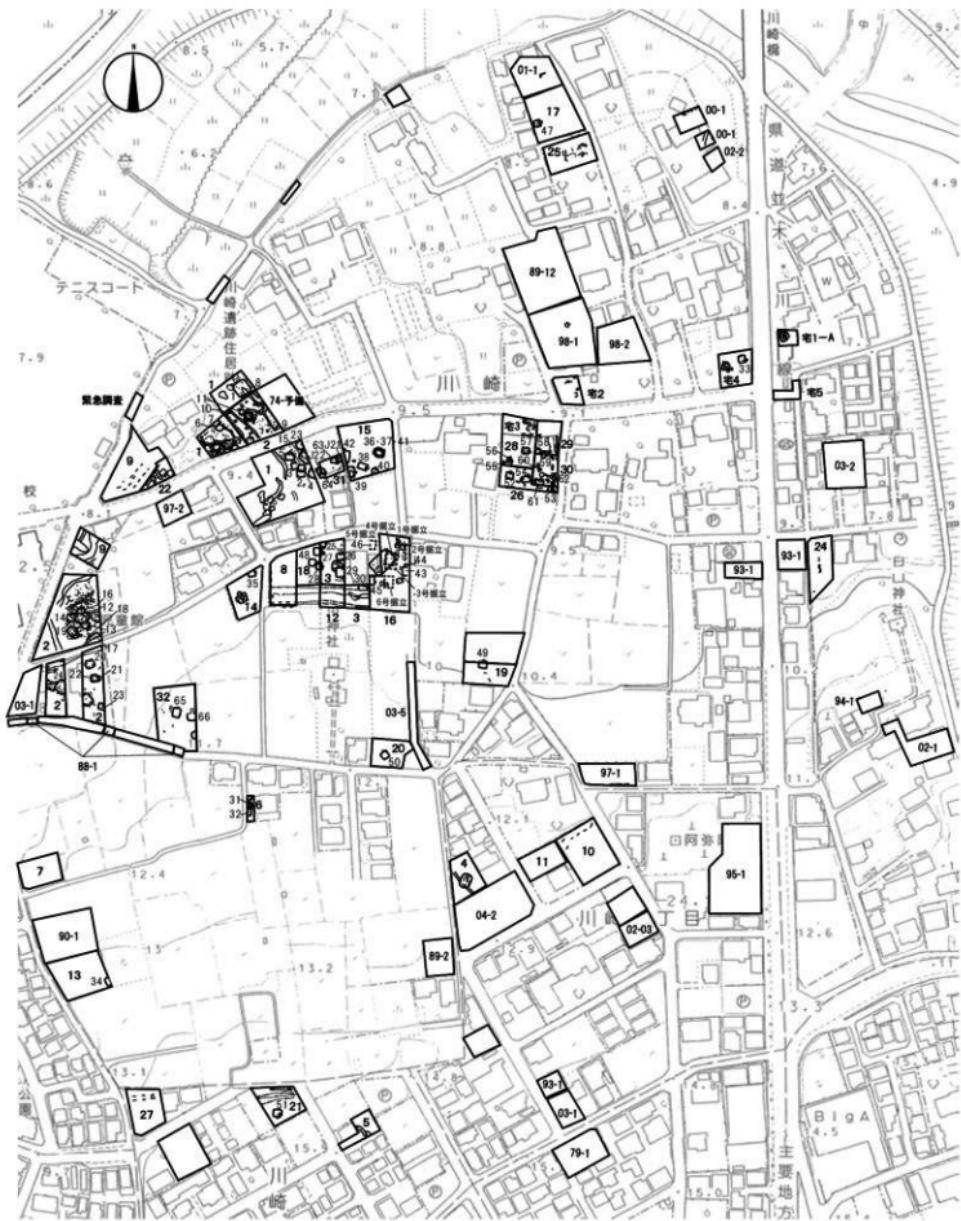
川崎横穴墓群が隣接し、東側に縄文時代、古墳、奈良・平安時代のハケ遺跡がある。

1917(大正6)年頃、台地の先端部で貝層が確認され1928(昭和3)年の調査では川崎貝塚として報告された。1967年以降宅地開発等に伴う緊急調査が増加し、1980年以来2013年12月末現在40ヶ所で調査を行っている。主たる時代と構造は、縄文時代早期の炉穴、早期から前期及び後期の住居跡、古墳時代住居跡、飛鳥時代住居跡、奈良時代住居跡、平安時代住居跡・掘立柱建物跡、中世以降の溝跡、地下式坑である。またローム層中からではないが、旧石器時代の遺物も出土している。



第7表 川崎遺跡調査一覧表

所理：上福岡市教育委員会理敵文化財の調査報告書、上虞調：上福岡市虞連調査会報告書、牧要：上福岡市牧員委員、市内：ふじみ野市市内虞連部報告書



第6図 川崎遺跡遺構分布図 (1/2,500)

第8表 川崎遺跡古代住居跡一覧表（単位cm）

住居 番号	調査年度	調査名	調査年	平面形( ) は確定	規模	剖面 方VVF	設置場 K	方VVF 面積 cm <sup>2</sup>	周 囲	主軸方位	時期	備考	文献
1	1974	第1次LN1/2	史跡	横丸方形	760 × 720 × 40	印	東南部	40 × 50	○	N-60-E	3世紀後半	吉田文化財	川崎遺跡第1次発掘
2	1974	第1次LN3/4	史跡	半円形	390 × 220 × 40	K	東北	○	○	○	○	○	○
3	1974	第1次LN5/6	史跡	横丸方形	760 × 720 × 40	K	東北	40 × 50	○	N-73-E	4世紀前半	○	○
4	1974	第1次LN7	史跡	△形	350 × 350 × 40	K	東	80 × 90	○	N-83-E	SC 中量	○	○
5	1974	第1次LN12/4	史跡	横丸形	470 × 340 × 50	K	北	120 × 75	○	N-7-E	10世紀前半	○	○
6	1974	第1次LN5	史跡	△形	320 × 300 × 40	K	北	40 × 49	○	N-42-E	SC 1世紀前半	○	○
7	1974	第1次LN28	古跡本體	長方形	× 300	K	北	50 × 60	○	N-69-E	SC 3世紀前半	○	○
8	1974	第1次LN71	東北・西側本體	△形	× 600								○
9	1975	第1次LN75	部分	長方形									川崎遺跡第2次発掘
10	1975	第1次LN82	部分	長方形									○
11	1975	第2次LN2	史跡	横丸方形	250 × 250 × 13	K	東	50 × 80	○	N-15-E	周辺	○	○
12	1975	第2次LN7	史跡	△形	720 × 720	K	北	○	○	N-32-E	6C 垂溝	○	○
13	1975	第2次LN9/4	史跡	△形	380 × 350	K	東	60 × 70	○	N-64-E	6C 前半	○	○
14	1975	第2次LN65	史跡	長方形	450 × 370	K	北	100 × 85	○	N-11-E	10C 2世紀前半	○	○
15	1975	第2次LN19	14世紀初期名	△形		K	東						○
16	1975	第2次LN14	史跡	長方形	370 × 260	K	北	90 × 60	○	N-4-E	史跡がたったまま	○	○
17	1975	第2次LN12	南側本體	長方形	700 ×	K	北						新跡車
18	1975	第2次LN3	17世紀と大きく重複し不明										○
19	1975	第2次LN6	史跡	横丸方形	410 × 420	K	北東		○	N-5-E	6C 後半	○	○
20	1975	第2次LN2	史跡	長方形	410 × 330	K	北	120 × 120	○	N-29-W	○	○	○
21	1975	第2次LN3	史跡	長方形	350 × 280	K	東	70 × 60	○	N-87-E	10C 2世紀前半	22世紀初頭	○
22	1975	第2次LN4	部分	△形	330 × 320	伊	北側本體						五輪
23	1975	第2次LN20	3/5	長方形	× 350	K	北		○	N-23-E	9C 2世紀前半	砾出土耕跡	○
24	1975	第2次LN21	ほぼ同様	長方形	580	K	北	50 × 70	○	N-43-W	南北	○	○
25	1977	第2度1号住居	南東隅のみ	(長方形)		K	東	途中で断続的	○				川崎遺跡第3次
26	1977	第2度2号住居	史跡	長方形	350 × 330	K	北	70 × 70	○	○	周辺	○	○
27	1977	第2度3号住居	(長方形)	長方形	350 × 400	K	東	170 × 110	○	○	周辺	○	○
28	1977	第2度4号住居	(長方形)	長方形	350 × 320	K	東	120 × 90	○	○	周辺	○	○
29	1977	第2度5号住居	4/5	正方形	440 × K	K	北	155 × 90	○		9C 4世紀前半	傾斜	○
30	1977	第2度6号住居	1/2	(方形)	415 × K	K	北				傾斜	○	○
31	1978	第3度1号住居	△形			K	北		○	N-2-E	9C 2世紀前半	○	○
32	1978	第3度2号住居	1/3		340 ×	K	北	140 × 80	○	N-1-E	9C 1世紀前半	傾斜昌多い	○
33	1984	昭和43年春3号	史跡	正方形	340 × 340	K	東	120 × 100	○	N-3-E	9C 3世紀前半	傾斜昌多い	○
34	1989	昭和43年春4号	1/2		290 ×	K	北		○	○	周辺	○	○
35	1989	昭和43年春5号	1/2		340 ×	K	東		○	N-100	9C 1世紀前半	傾斜昌多い	○
36	1991	第14度1号住居	南北	長方形	390 × 285	K	北東		○	○	9C 2世紀前半	傾斜昌多い	○
37	1991	第15度1号住居	南北	長方形	380 × 380	K	東		○	○	9C 1世紀前半	○	○
38	1991	第15度2号住居	史跡	長方形	265 × 430	K	南東		○	○	9C 前半	○	○
39	1991	第15度3号住居	南北	長方形	580 ×	K	東		○	○	9C 末~9C 前半	○	○
40	1991	第15度5号住居	3/4		280 ×	K	北		○	○	9C 前半~中	○	○
41	1991	第15度6号住居	正方形		420 × 270	K	北		○	○	9C 前半	○	○
42	1991	第15度7号住居	1/2	正方形	570 × K	K	北		○	○	9C 1世紀前半	傾斜昌多い	○
43	1994	第16度1号住居	1/2		450 ×				○	○	9C 前半~後半	傾斜	○
44	1994	第16度2号住居	比較的のみ						○	○	9C 前半~後半	○	○
45	1994	第16度5号住居	2/3		440 ×	K	東		○	○	9C 前半~後半	○	○
46	1994	第16度6号住居	かのののみ			K	東		○	○	9C 前半~中	○	○
47	1994	第16度1号住居	2/3	長方形									○
48	1994	第16度2号住居	西側のみ	長方形									○
49	1994	第16度3号住居	史跡	長方形									○
50	1994	第16度4号住居	南北	南北2階									○
51	1994	第16度5号住居	南北	南北2階									○
52	1994	第16度6号住居	南北	南北2階									○
53	1996	第17度1号住居	史跡	長方形	400 × 400	K	東		○	○	9C 前半	豊原土器	傾斜昌多い
54	1996	第17度2号住居	史跡	長方形	300 × 300	K	東		○	○	9C 前半	傾斜昌多い	○
55	2001	第18度1号住居	1/2		360 ×	K	北		○	○	9C 前半	傾斜昌多い	○
56	2005	第20度1号住居	史跡	長方形	320 × 350	K	北西		○	N-45-E	7C 前半~中	内進耕跡	○
57	2006	第21度1号住居	史跡	長方形	410 × 365 × 10	K	東	145 × 120	○	N-10-E	○	内進耕跡	○
58	2006	第22度1号住居	史跡	南北2階								内進耕跡	○
59	2006	第23度H34号住居	史跡	△形	349 × 316 × 33	K	北	95 × 93	○	N-16-E	9C 前半	○	○
60	2006	第24度H35号住居	史跡	△形	349 × 316 × 20	K	北	70 × 70	○	N-16-E	9C 前半	○	○
61	2006	第25度H36号住居	史跡	△形	420 × 370 × 20	K	北	98 × 71	○	N-4-E	9C 前半	○	○
62	2006	第26度H37号住居	史跡	△形	390 × (223) × 15	K	北	88 × 64	○	N-19-E	9C 前半~後半	○	○
63	2006	第27度H38号住居	史跡	△形	(424) × 325 × 2	K	北		○	N-18-E	○	○	○
64	2006	第28度H39号住居	史跡	△形	367 × 295 × 24	K	東	108 × 90	○	N-102-E	9C 前半~後半	○	○
65	2008	第29度H40号住居	史跡	(△形)	(214) × (205) × 10	K	東	165 × (65)	○	N-99-E	9C 前半~後半	○	○
66	2008	第29度H43号住居	史跡	△形	370 × 372 × 12	K	北	71 × 90	○	N-16-E	9C 前半	○	○
67	2008	第30度H45号住居	史跡	△形	294 × 323 × 26	K	東	141 × 85	○	N-104-E	9C 前半	○	○
68	2008	第30度H47号住居	史跡	△形	415 × 414 × 21	K	北	88 × 140	○	N-16-E	9C 前半	○	○
69	2008	第30度H48号住居	△形		375 × (105) × 17	○	○	N-5-E	9C 前半	○	○	○	

## II 川崎遺跡第32地点

### (1) 調査の概要

調査は個人住宅建設に伴うもので、原因者より「埋蔵文化財事前協議書」が2010年12月9日付でふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は遺跡の西側に位置し、近隣地では古代住居跡を検出している。申請者と協議の結果、遺構の存在を確認するための試掘調査を実施した。

試掘調査は2011年2月24日に、調査区に幅約1.5mのトレーナー5本を設定し、重機による表土除去後、人力による表面精査を行った。その結果、現地表面から約40cmの深さで平安時代の住居跡を確認した。再度協議の結果、工事による掘削が遺構に影響を与えるため、補助事業の対応で本調査を行った。

本調査は3月4日から3月25日まで行った。本調査の結果、9世紀の住居跡3軒、土坑3基、ピット5基を検出し、写真撮影・全測図作成等記録保存を行ったうえ埋め戻し、本調査を終了した。

### (2) 遺構と遺物

#### ① H 65号住居跡

【位置・形状】調査区の中央部に位置する。4m東にH 66号住居跡、10m南東にH 67号住居跡がある。平面形態は長方形で主軸方位はN-27°-Eである。規模は主軸が南北4.6m×東西3.55m、確認面からの深さ35cmである。竈を含めた主軸長は4.95mである。【竈】住居跡北壁の中央やや東寄りに構築される。煙道は後世の壊乱(イモビツ)で壊される。竈は灰色の粘土で構築され、天井部は崩落し袖の一部が残る。竈内部の底面に焼土面が残る。

焚口から奥壁までの長軸113cm、袖部の最大幅132cmである。焚口幅90cm、竈内部は幅69cm、奥行き90cmで床面からの深さは約5cmである。

竈の右側(東)は地山ではなく暗褐色土が堆積している。竈は暗褐色覆土を掘削したうえで、焼土塊が混入した粘土と灰色粘土で袖部を構築している。掘り方は住居東壁と連続しており、住居構築時に掘りすぎたか、当初の竈構築予定として掘った箇所を埋め戻したうえで竈を構築したと思われる。また、暗褐色覆土の上面は硬化していることから、棚状に使用していた可能性もある。

【入口・階段状遺構】東壁際中央に硬化面のある段が2段ある。出入り口部分と思われる。また、東壁の一



第7図 川崎遺跡第32地点遺構配置図(1/300)、土層図(1/150)

部は段状面と同一面まで掘削されている。規模は奥行き75cm・幅48cmである。一段目はわずかな高まりで床面より3cmほど高く、平坦面の奥行き33cm・幅45cm。二段目は平坦面の奥行き35cm・幅32cm、床面からの高さ21cmである。硬く締まった黒褐色土で構築され、平坦面はローム塊が混入し特に硬い。

遺構の下は土坑状の窪みがあり、ロームを含む黒褐色土で埋め戻されている。規模は145×80cm、床面からの深さ17cmである。

【貼床・周溝】周溝は住居の西・南壁際と東壁際の一部に巡り、上幅12~30cm、下幅5~14cm、深さ5cmである。

貼床は床面全体に5~18cm厚で薄く貼られる。床面は住居北東から中央部の竈前から階段状遺構にかけて特に硬化する。

【掘り方】ほぼ平坦だが、竈前から中央部と東側にかけて20cm前後掘られた後、埋め戻されている。

【遺物出土状況】遺物はほぼ全面に散在するが、東壁の階段状遺構より北側にかけてやや集中する。

【時期】10世紀。

#### ② H 66号住居跡

【位置・形状】調査区の中央東側に位置する。4m西にH 65号住居跡、6m南にH 67号住居跡がある。北西部分は構成の攪乱で壊される。平面形態は方形で主軸方位はN-99°-Eである。規模は主軸が東西4.2m×南北3.65m、確認面からの深さ50cmである。竈を含めた主軸長は4.35m以上である。

【竈】住居跡東壁の南寄りに構築される。煙道は調査区域外になる。竈は灰色の粘土で構築され、天井部は崩落し袖の一部が残る。竈内部の底面に焼土面が残る。

焚口から調査区内の奥行き49cm、袖部の最大幅105cmである。焚口幅40cm、竈内部は幅54cm、床面からの深さは約6cmである。

竈の中央に礫が立脚状態で残存していた。支脚と思われる。

【ピット】5基検出した。P 1とP 2は南壁から20cmの距離にあり、P 1は西壁から90cm、P 2は東西壁のほぼ中央に位置する。P 1とP 2の中心間の距離は85cmである。P 3は北壁中央、P 4は北東隅に位置する。いずれも深さ10cm前後と浅い。

【貼床・周溝】周溝は住居の北・西・東壁際の一部に巡り、北東隅と西壁中央から南壁にはない。上幅15

~28cm、下幅5~10cm、深さ5~9cmである。

貼床は床面全体に2~8cm厚で薄く貼られる。

【掘り方】ほぼ平坦だが、竈前から南側にかけては壁際が10cm前後浅く掘られた後、埋め戻されている。【遺物出土状況】遺物はほぼ全面に散在するが、竈内にやや集中する。

【時期】8世紀後半~9世紀初頭。

#### ③ H 67号住居跡

【位置・形状】調査区の南東部に位置する。10m北西にH 65号住居跡、6m北にH 66号住居跡がある。東側は調査区域外であるため、主軸方位は不明だが、平面形態は方形で南北壁の方位はN-0°-Eである。規模は南北3.3m、調査区域内の東西2.2m、確認面からの深さ30cmである。竈は調査区域内では検出しなかった。

【ピット】2基検出した。P 1は北側中央、P 2は南西隅にある。

【貼床・周溝】周溝は住居の北・西・南壁際に巡る。上幅15~25cm、下幅5~15cm、深さ4~7cmである。

貼床は床面全体に2~5cm厚で薄く貼られる。床面は住居中央が硬化する。

【遺物出土状況】遺物は中央から南側に散在する。

【時期】10世紀。

#### ④ 土坑

3基検出した。土坑1と土坑2は縄文時代。

第9表 川崎遺跡第32地点H65号住居跡ピット一覧表(単位cm)

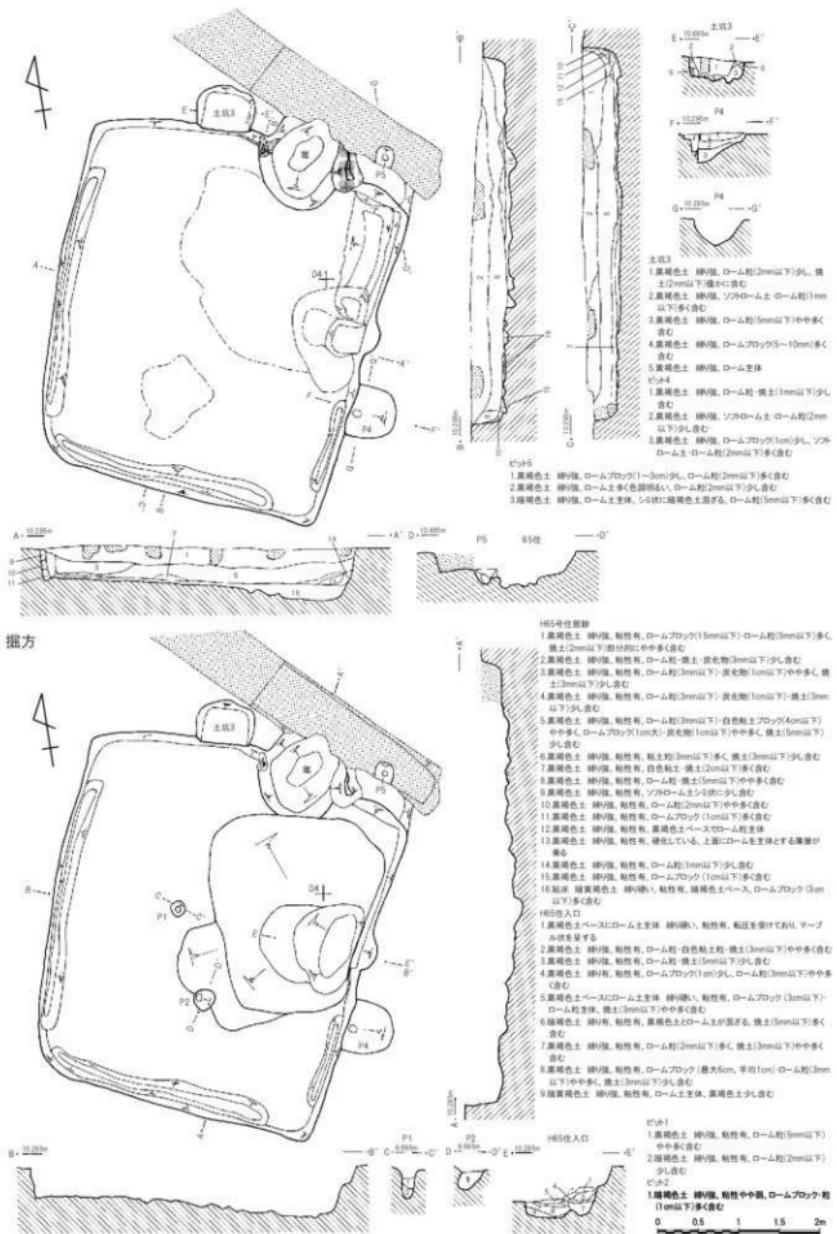
No.	平面形態	確認面	底面	深さ	備考
P1	方形	18×17	8×6	37.9	
P2	円形	27×24	8×8	54.3	
P4	不明	(65)×(61)	10×9	35.6	
P5	不明	24×(23)	8×7	23.3	

第10表 川崎遺跡第32地点H66号住居跡ピット一覧表(単位cm)

No.	平面形態	確認面	底面	深さ	備考
P1	方形	26×23	14×12	7.6	
P2	円形	29×22	12×9	23.5	
P3	ひょうたん形	67×53	27×14	15.4	
P4	楕円形	60×42	39×26	13.6	
P5	不明	25×(8)	7×3	4.9	

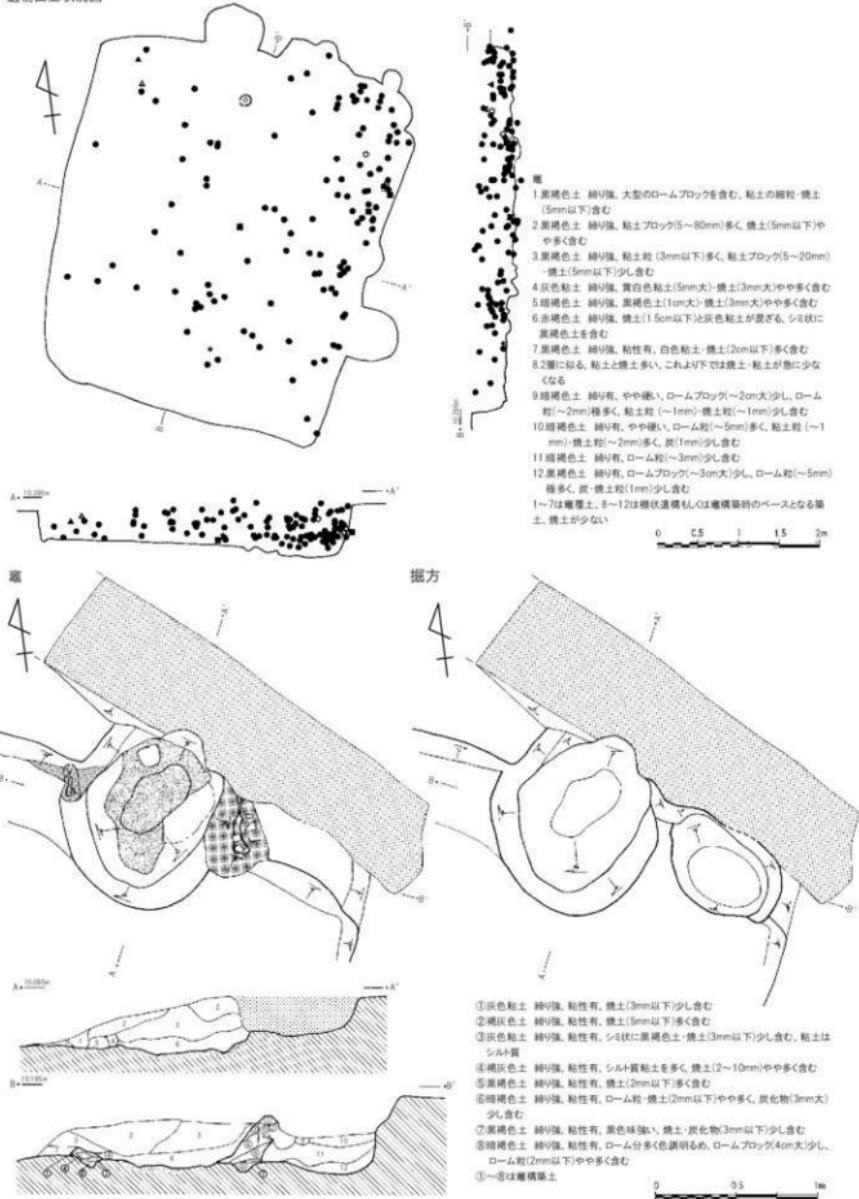
第11表 川崎遺跡第32地点H67号住居跡ピット一覧表(単位cm)

No.	平面形態	確認面	底面	深さ	備考
P1	楕円形	94×41	33×17	29.7	
P2	円形	36×33	15×14	15.6	

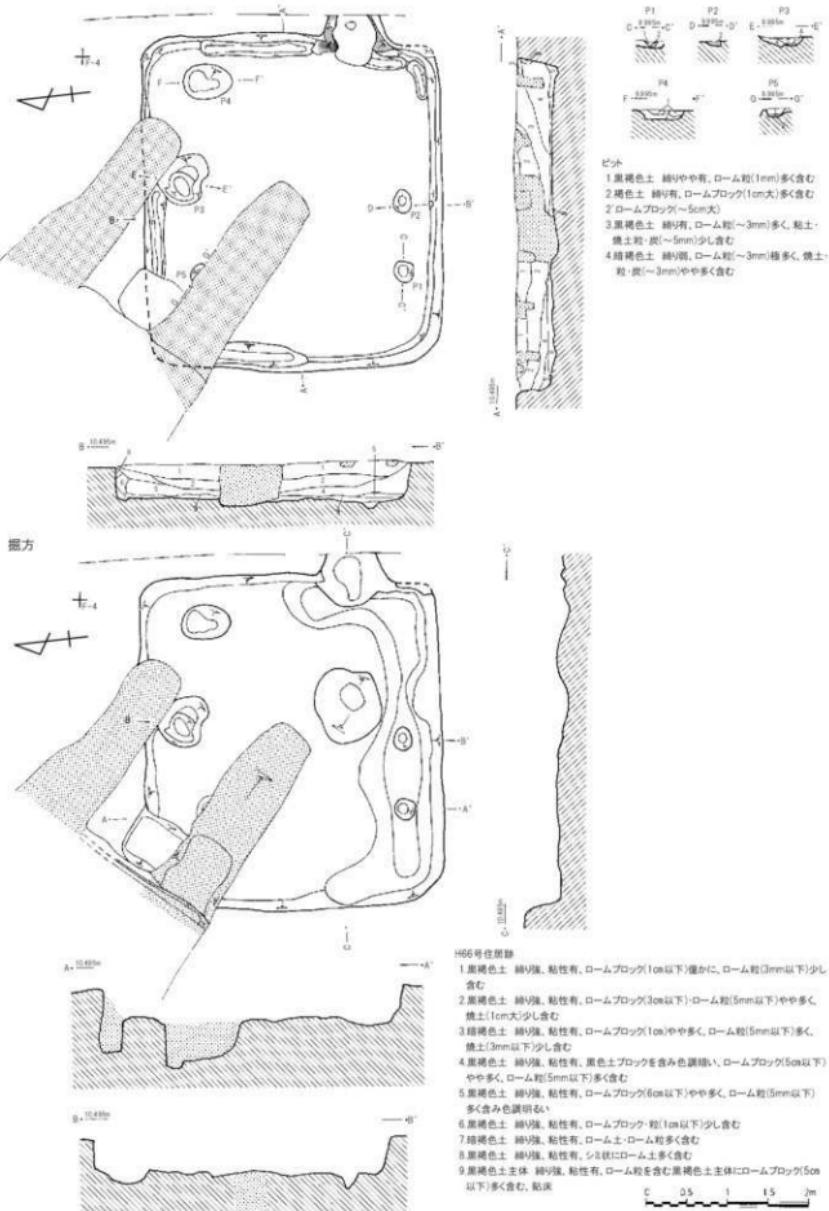


第8図 川崎遺跡第32地点 H65号住居跡・掘方 (1/60)

遺物出土状況図

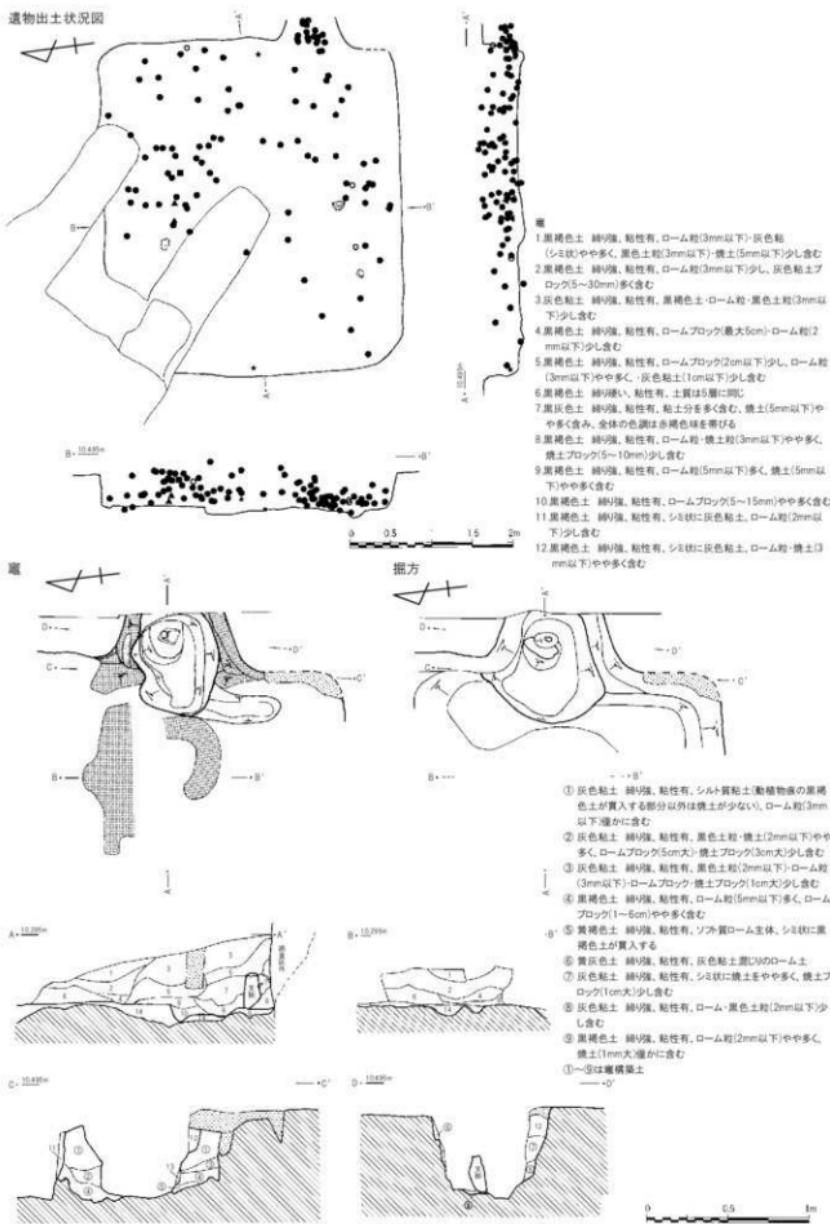


第9図 川崎遺跡第32地点 H65号住居跡遺物出土状況図(1/60)、竈・掘方(1/30)

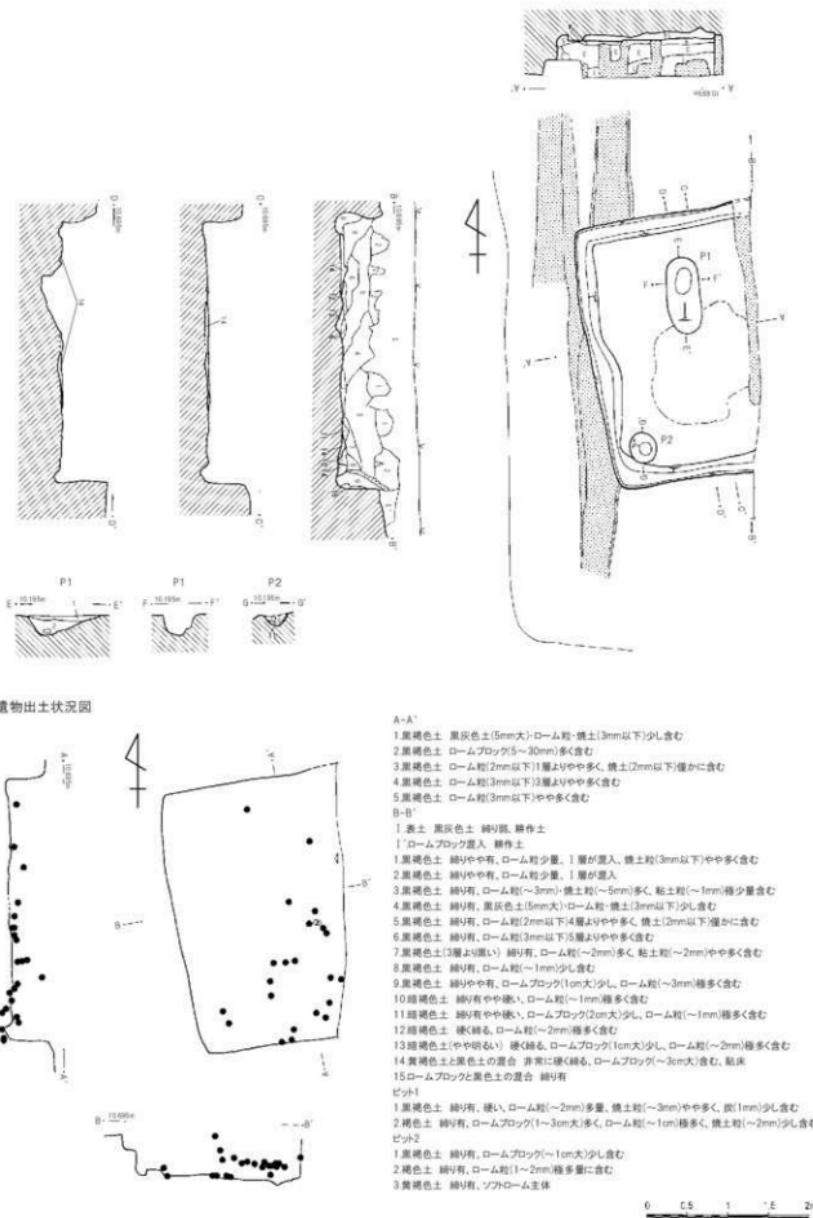


第10図 川崎遺跡第32地点 H66号住跡・掘方 (1/60)

遺物出土状況図



第11図 川崎遺跡第32地点 H66号住居跡遺物出土状況図 (1/60)、竈・掘方 (1/30)



第12図 川崎遺跡第32地点 H67号住居跡・遺物出土状況図 (1/60)

第12表 川崎遺跡第32地点遺構一覧表（単位cm）

No.	平面形態	確認面	底面	深さ	備考
P1	方形	57×52	16×14	36.8	
P2	方形	49×41	10×9	29.4	
P3	方形	26×23	16×14	21.5	
土坑1	楕円形	140×116	128×104	30	
土坑2	円形	175×150	127×126	48.5	
土坑3	不明	72×(57)	57×(47)	30.6	

## H 65号住居跡出土遺物

1～3は須恵器。1は、口縁部が一部欠損するほぼ完形。口径11.9cm、器高3.7cm、底径5.5cm。底部回転糸切り。色調暗褐色でむらがない。白色針状物質を多量に含み、2mm大の石英を混じる。外面体部中央から底部にかけて、4段ほどのとがり気味のロクロ痕。内面は滑らかである。2は、口径12.5cm、器高4.0cm、底径4.4cm。口径と底部の比は、2.84:1である。底部回転糸切り。色調黄白色。白色針状物質を含み、5mm大の石英を多量に含み、1mm大の黒砂を多量に含む。外面体部中央に5段ほどのとがり気味のロクロ痕。内面は滑らか。3は、高台付き椀、完形。口径13.3cm、器高5.6cm、底径7.1cm。色調暗青灰色。回転糸切り後に高台を付ける。白色針状物質を少量含む。外面中央に5段ほどのロクロ痕、内面の中央部に丸気味のロクロ痕。

4は、土師器壺、口唇部に図示したように、幅1.2cmほど片口状の凹みがある。丸い棒状の工具で、口唇部に水平に押し当て形成したもの。

5は、竈の支脚。上半部は欠損。外面は幅2.5cmで縦方向に面取りをほどこしたもの。混じりものは全くなく、ローム土をそのまま焼成したものであろう。

6は、竈の袖の補強にした軒丸瓦。外面に縄目叩き痕、内面には布目压痕。白色針状物質をわずかに含み、鳩山窯跡産。

7は、刀子の破片。刃と柄の部分。両端部が大きく欠損。

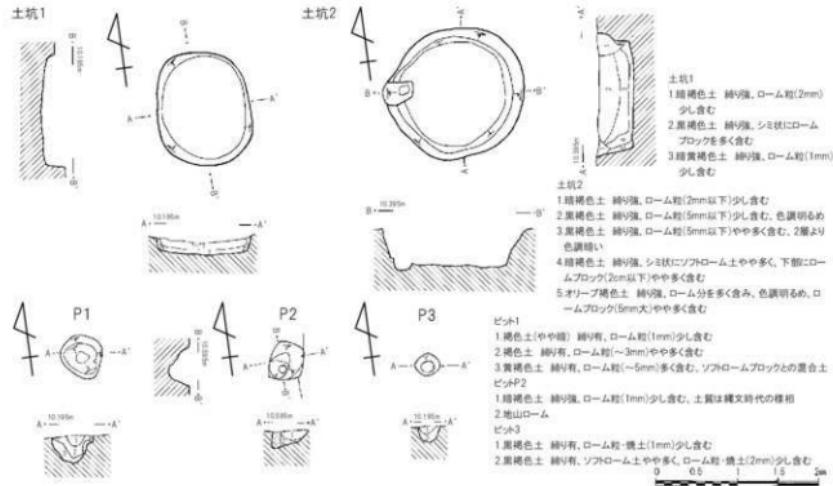
8・9は鉄釘の破片。両端部が大きく欠損している。

10は、小形須恵器壺。口縁部1/8、体部1/2、底部欠損。口径10.5cm（推）。いわゆる壺Gの系統の一類かもしれない。色調青色、東金子窯跡産。内外面ともに滑らかである。住居には伴わない混入品であろう。

11は、縄文時代の磨石で、両面に敲打による凹みの痕跡がある。石質は、閃綠岩。

## H 66号住居跡出土遺物

1～4は須恵器壺。1は、口径12.5cm、器高3.7cm、底径7.0cm。現存1/2。底部回転糸切り後、周辺部回転ヘラ削り。暗青灰色。白色針状物質が混入。内面爪立てにより凹んだ稜がある。2は、口径12.7cm、器



第13図 川崎遺跡第32地点土坑・ピット (1/60)

高3.5cm、底径7.8cm。底部は回転糸切りのみ。暗青色。口唇部外面に3mm程度の自然釉がかかる。重ね焼きによるもの。2mm程度の石英が混入。外面調整滑らか。体部中央に輪積痕がある。3は、口径12.6cm(現存1/2)、器高3.6cm、底径7.7cm。底部回転糸切りのみ。色調全体に明ベージュ。口唇部外面暗褐色(重ね焼成痕)。外面調整滑らか。底部に「|」のヘラ記号。4は、口径12.6cm、器高3.8cm、底径8.0cm。底部回転糸切りのみ。色調明ベージュで3に似る。口唇部直下7mm前後にロクロ痕による凹みが一周している特徴がある。外面調整全体に滑らか、底部にヘラ記号「|」で3に同じ。

白色針状物質は含まない。外面の底部から口唇部にカーボンが付着、内面の口唇部にも一部帯状に付着。灯火具に転用使用か。

5、6は須恵器椀形。5は口径15cm(1/2現存)、器高5.5cm、底径8.0cm。色調青灰色。底部は回転ヘラ削りによる切り離し。外面内面調整はわずかにロクロ痕が残り滑らか。胎土は1cmの茶色の砂利を含み、1mmの白色の砂を含み、白色針状物質も含む。6は、口径16cm(現存1/2)、器高5.7cm、底径8.0cm。色調青灰色で底部にかけて灰白色が強くなる。底部は回転糸切り後、周辺部回転ヘラ削り調整。2mmの石英を含み、黒色の砂を含む。白色針状物質を含む。体部外面に、口唇部より1.5cm下方に外面にロクロによる凸一周する特徴がある。その他外面内面ともに滑らか調整。

7、8は砥石。7は長台形の4面に使用面がある。8は、長台形、幅が広く扁平になっているが、主な使用面は2面であるが、側面も使用している。図示上方に穿孔がある。紐を付ける穴か。

9は、鉄滓。10は、刀子の破片。11は、鉄釘。先端が曲がっている。12は、馬具の破片か。

#### H 67号住居跡出土遺物

1は須恵器壺。口径12cm(2/3現存)、器高3.8cm、底径5.7cm。口径底径比は約2.0:1。底部回転糸切り離し。色調暗褐色。5mm以下の石英を含み、白色針状物質を含む。内面にカーボンが付着。内外面のロクロ痕は太く丸い。

#### 遺構外出土遺物

縄文晩期の土器が出土している。1は、沈線による三叉文と点列文がうかがえる口縁部破片。色調黄味が強い。口唇部先端はとがり気味に丸く処理されてい

る。2も、斜状に沈線の間に点列文を加えたもの、口唇部先端、色調は1に同じ。

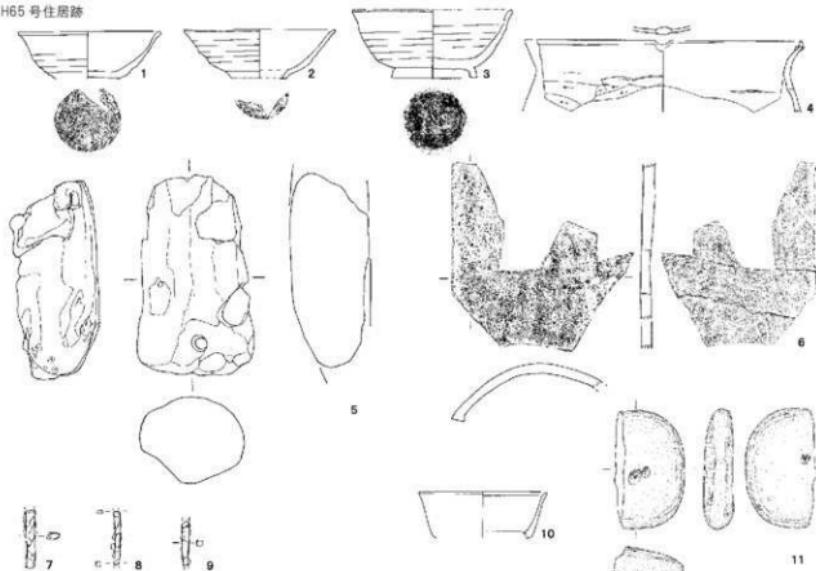
3は入り組み三叉文の直前とその間を逆「U」で埋めたもの。口唇部は丸く整形。器面はヘラで磨いた後に文様を「刻んだ」もの。刻んだというは器面の乾燥が進んだ後、彫り込むような力が働いているからである。胎土には2~3mm程度の茶色の小砂利が混入。

4は、入り組み三叉文によるもの。色調は、1・2よりもやや暗い。胎土には黄色・白色の砂が多量に混じる。

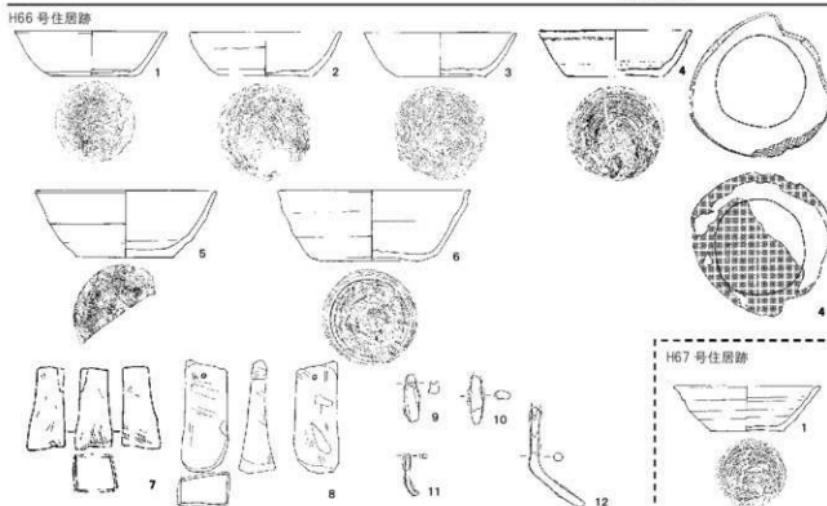
5・6は、器面外面に指頭による凹凸が激しい粗製土器。5には、輪積みの痕跡がある。両者ともに、6mmから3mmの石英や粘板岩を多量に含み、1~4とは、胎土を異にする。

なお、1・2は安行3c式、3・4は安行3d式であろう。5・6は1~4に伴う粗製土器である。

## H65号住居跡



## H66号住居跡



## 遺構外



第14図 川崎遺跡第32地点 出土遺物 (1/4)

## 第4章 滝遺跡の調査

### I 遺跡の立地と環境

滝遺跡は武藏野台地の北東端、荒川低地に舌状に突き出た武藏野段丘面の台地東側の一段低い立川段丘面の縁に立地している。

「滝」の地名は、近年までこの段丘上から滝が落ちていたことに由来する。北西側は段丘面、北東側は新河岸川を挟んで荒川低地の沖積地と接し、南側は排水溝として利用される緩やかな小支谷を流れる旧清水に挟まれ、標高9~12m前後の微高地を形成する。遺跡の範囲は南北250m、東西500m以上ある。宅地開発が進むが部分的に畠が残っている。

周辺の遺跡は、北西側の段丘上に縄文時代前期、中期、晚期、古墳時代の遺跡である著名な上福岡貝塚と権現山遺跡群が新河岸川沿いに並び、旧清水を挟んだ南側には、縄文時代、飛鳥時代、中世の長宮遺跡が広がる。

1976年以降宅地開発等に伴う緊急調査が増加し、遺跡の谷口に当たる旧丸橋遺跡（1981年の変更増補で滝遺跡と合併）で古墳時代前期と後期の住居跡を検

出以来35ヶ所で調査を行っている。なお、本遺跡の第3・5・9~11次調査、1995年度試掘調査・2002年度試掘調査（1）は権現山遺跡の範囲に入っているため、今後は本遺跡では欠番とし、権現山遺跡1・2・5~7・14・17地点とする。

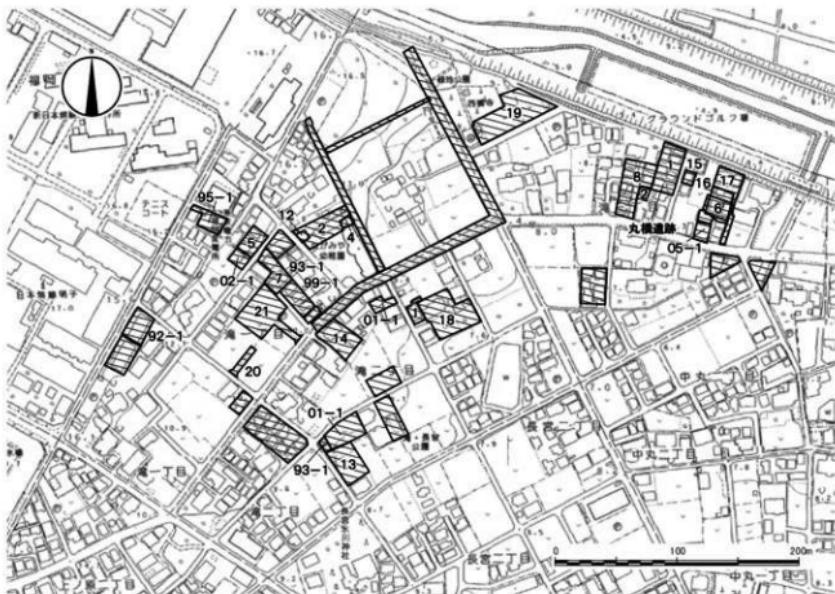
遺跡の主たる時代と遺構は、縄文時代早期・前期の土坑、古墳時代から奈良・平安時代の住居跡、近世の段切り造構（集石を伴う）である。

### II 滝遺跡第17地点

#### （1）調査の概要

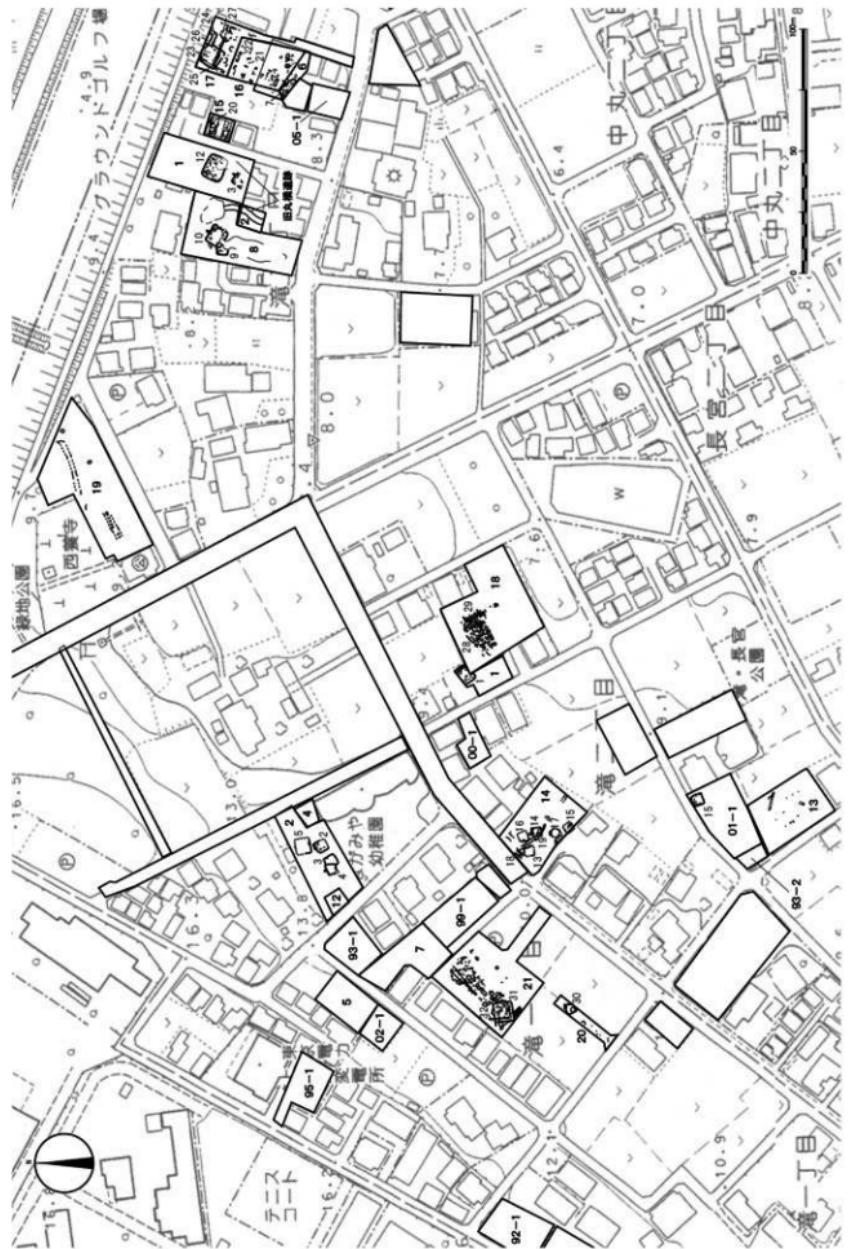
調査は分譲住宅建設に伴うもので、原因者より「埋蔵文化財事前協議書」が2010年4月15日付でふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は遺跡範囲内に位置するため、原因者と協議の結果、遺構などの存在を確認するための試掘調査を実施した。

試掘調査は2010年5月6日から31日までと6月17日・18日に行った。幅約1~3mのトレーニング4本を設定し、重機で表土除去後、人力による表面精査を



第15図 滝遺跡の地形と調査区（1/4,000）





第16図 滝遺跡遺構分布図 (1/2,000)

行った結果、古代の住居跡、近世以降の土坑、井戸、ピット等を確認した。旧石器時代の確認調査は行っていない。

地表面から遺構確認面までの深さは約60cmであり、開発による遺跡への影響が避けられないため原因者と協議した結果、30cmの盛土保存を行うこととなった。

## (2) 遺構と遺物

### ① H 23号住居跡

【位置・形状】調査区の北部に位置する。H 24・H 25号住居跡、掘立柱建物跡、溝1と重複し、両住居跡より新しく、掘立柱建物跡・溝1より古い。0.4m東にH 26号住居跡、5.8m南東にH 27号住居跡があ

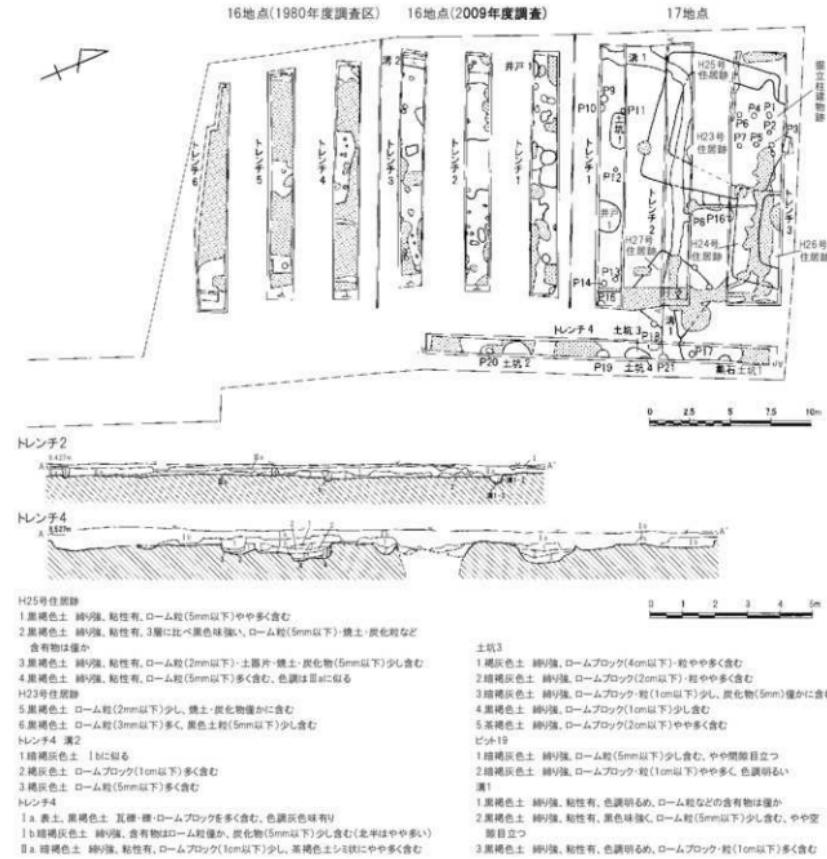
る。プラン確認と主軸方向及び主軸と直行する方向に幅30cmのサブトレーニングを設定し、確認調査を行った。平面形態は長方形で主軸方位はN-46°-Wである。規模は主軸が南北5.95m×東西7.0m、確認面からの深さ27cmである。竪を含めた主軸長は6.75mである。

【竪】住居跡北西壁の中央やや北寄りに構築される。

【貼床・周溝】サブトレーニングにより周溝を確認した。周溝は住居の西・南壁際と東壁際跡の一部に巡り、上幅20cm、下幅8cm、深さ11cmである。

### 【時期】8世紀。

### ② H 24号住居跡



第17図 滝遺跡第17地点遺構配置図(1/300)、土層図(1/150)

**【位置・形状】** 調査区の北東部に位置する。北側は調査区域外である。H 23・H 25・H 26 号住居跡と重複し、H 23・H 26 号住居跡より古く、H 25 号住居跡より新しい。1.4 m 南に H 27 号住居跡がある。プラン確認と、サブトレンチによる確認調査を行った。サブトレンチは壁と平行に幅 30 cm で設定した。規模は東西 5.90 m で、南北方向には 2.65 m 検出した。確認面からの深さ 30 cm である。

**【貼床・周溝】** サブトレンチにより周溝を確認した。住居の西・南壁際と東壁際跡の一部に巡り、上幅 20 cm、下幅 8 cm、深さ 4 cm である。

**【時期】** 8 世紀

#### ③ H 25 号住居跡

**【位置・形状】** 調査区の北部に位置する。H 23・H 24 号住居跡、掘立柱建物跡、溝 1 と重複し、全ての造構のなかで一番古い。0.4 m 東に H 26 号住居跡、4.4 m 南東に H 27 号住居跡がある。プラン確認と主軸方向及び主軸と直行する方向に幅 30 cm のサブトレンチを設定し、確認調査を行った。平面形態は長方形で長軸方位は N - 46° - W である。規模は長軸が 8.1 m × 短軸 7.0 m、確認面からの深さ 12 cm である。

**【時期】** 4 世紀。

#### ④ H 26 号住居跡

**【位置・形状】** 調査区の北東部に位置する。北側は調査区域外である。H 24 号住居跡と重複し、H 24 号住居跡より新しい。0.4 m 西に H 23・H 25 号住居跡、3.5 m 南に H 27 号住居跡がある。プラン確認と、サブトレンチによる確認調査を行った。サブトレンチは壁と平行に幅 30 cm で設定した。規模は東西 4.5 m で、南北方向には 1.1 m 検出した。確認面からの深さ 40 cm である。

**【時期】** 8 世紀。

#### ⑤ H 27 号住居跡

**【位置・形状】** 調査区の南部に位置する。溝 1 と重複し、溝より古い。4.4 m 北西に H 23・H 25 号住居跡、3.5 m 北に H 24 号住居跡がある。プラン確認と、サブトレンチによる確認調査を行った。形態は正方形、規模は南北 4.0 m で、東西 4.2 m である。確認面からの深さ 10 cm である。

**【時期】** 8 世紀。

#### ⑥ 掘立柱建物跡

調査区の北部に位置する。H 23・H 24 号住居跡と重複し、両住居より新しい。トレント 3 内で 2 間

× 2 間を検出したが、南側へ範囲が広がるかどうかの確認はしていない。規模は東西 1.8 m × 南北 1.8 m、柱の芯間距離は 0.85 ~ 0.9 m である。

#### ⑦ 井戸 1

調査区の西側、トレント 1 内に位置する。トレント内のみ調査し、表土から 1.9 m まで掘削したが、底面は未検出である。規模は上端幅 2.05 m、下端幅 1.12 m、漏斗状にすぼまる。

#### ⑧ 土坑・ビット

土坑は 4 基、ビットは 21 基検出した。

#### ⑨ 集石土坑 1

調査区の東部、トレント 4 内に位置する。時期不明。

#### ⑩ 溝 1

調査区北西から東端にかけて位置する。H 23・H 25・H 27 号住居跡と重複し、新しい。北方向に 5.5 m の位置でほぼ直角に曲がり、東方向へ 17 m で調査区域外へ向かう。上幅 45 ~ 90 cm、下幅 15 ~ 25 cm、確認面からの深さ 30 ~ 40 cm、断面形は「U」字形を呈する。

#### 23 号住居跡出土遺物

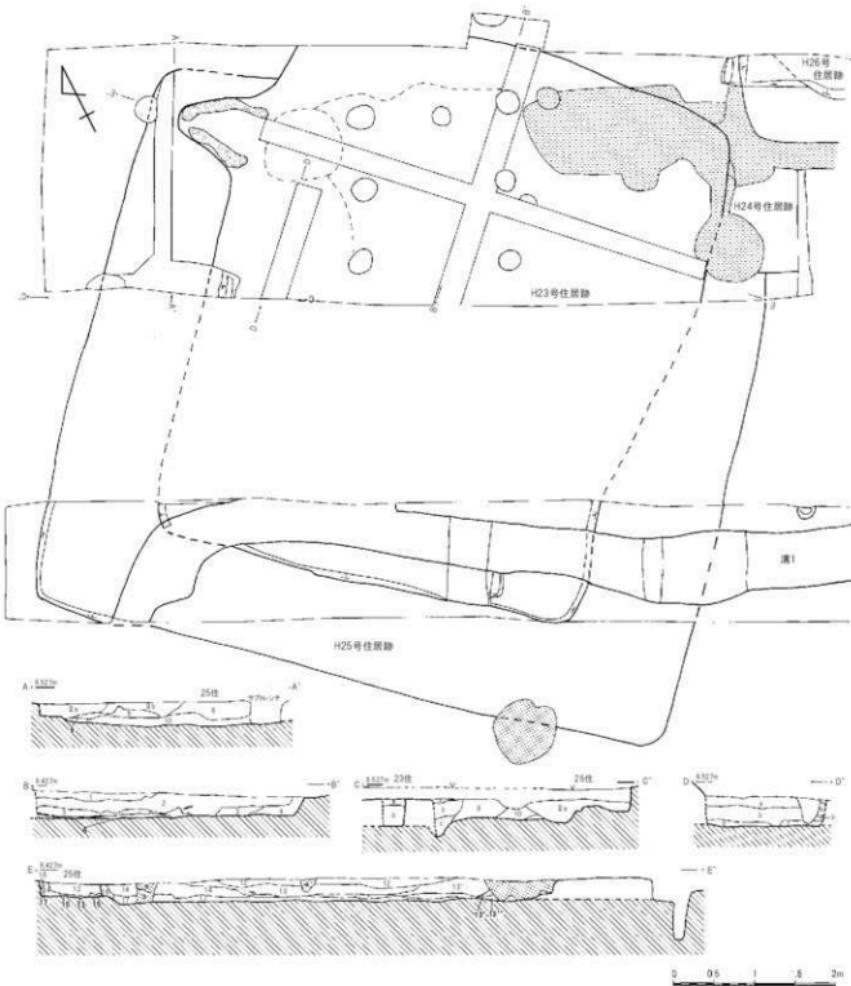
1 は口径 (1/4 現存) 15 cm、丸い体部から口縁部が垂直に立ち上がる。口唇部上端に沈線が巡る。色調茶褐色。体部外面はヘラ削りで底部を丸く整形。2 は、口縁部欠損、底部のみ。高台の付いた、いわゆる東海系の出尻の須恵器窯。高台は全周する。色調灰褐色で器面は滑らかに調整。

#### 24 号住居跡出土遺物

1 は土師器長甕、口径 ((1/4 現存) 21 cm。色調茶褐色。口縁部は強い横ナデを施す。胴部は、縱ヘラ削りを丁寧に施している。

2 から 4 は土師器窯。2 は、口径 (1/4 現存) 14 cm、器高 3.5 cm。平底気味の丸底。内面に赤彩。口唇部下 3 mm の内面に沈線。体部上半を円形にヘラ削り。底部は一方向にヘラ削り。3 は丸底の窯、口径 (現存 1/4) 12 cm。口縁部と体部の境は、口縁部を細く垂直に立ち上げて区分している。4 は、口径 (1/4 現存) 12 cm。器高 3.8 cm。内面と外面口縁部に赤彩。口唇部を赤彩によって区分。口縁部は横ナデ、体部はヘラ削り。

5 は、口径 (現存 1/5) 21 cm。盤状の皿形土器。口唇部は体部と同じ器厚で平坦に整形されている。体部は強い横ナデ、底部はヘラ削り。胎土は細かく精練され、地元産ではないようだ。

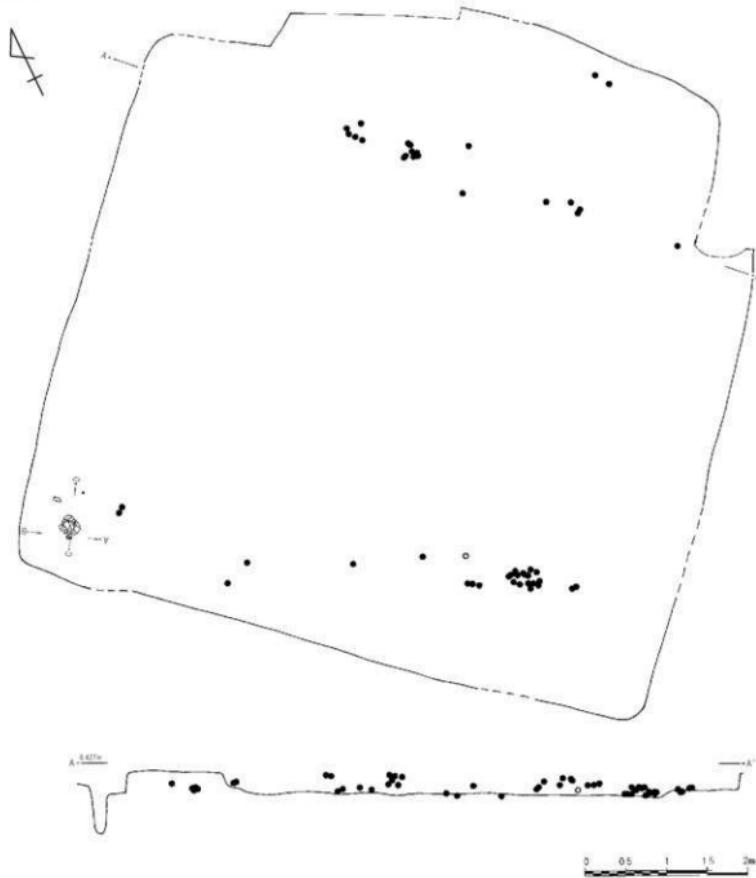


H23号・25号住居跡

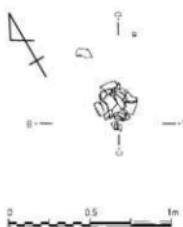
- II. 線褐色土 細い強、薄く硬状にロームブロック(2cm以下)多く含む。H23号住居跡のプランが上面に見られるが、近代・近世陶器を所々に含む
- II. 黒褐色土 細い強、ローム粒少し含む
1. 黑褐色土 細い強、ロームブロック・粒・燒土(1cm以下)少し含む
2. 黑褐色土 細い強、シロ状ロームブロック(5cm以下)を少しだけに、燒土(5mm以下)やや多く含む
3. 黑褐色土 細い強、シロ状ロームブロックを少しだけに、燒土(1cm以下)少し含む
4. 黑褐色土 細い強、黒色縁強く、ラフラシ状ローム粒(3mm以下)少し。燒土(1cm以下)やや多く含む
5. 黑褐色土 細い強、色調明るめ、ローム粒(2mm以下)少し含む
6. 黑褐色土 細い強、軽圧を受けるようなローム粒(5mm以下)少し含む、練り非常に良い
7. 黑褐色土 細い強、好み色調であるローム粒(5mm以下)・灰化物少しある
8. 黑褐色土 細い強、ローム粒(2mm以下)少し、灰化物(3mm以下)僅かに含む、黒色縁強い
9. 黑褐色土 細い強、ローム粒(2mm以下)やや多く含む
10. 黑褐色土 細い強、ローム粒(5mm以下)多く含む
- II. 黒褐色土 細い強、ローム粒(3mm以下)多く含む
11. 黒褐色土 細い強、ローム粒(3mm以下)少しある
12. 黒褐色土 細い強、ローム粒(3mm以下)やや多く含む
13. 黑褐色土 細いやや硬、ローム粒(3mm以下)やや多く含む
- 13'. 黒褐色土 黒色土粒(5mm以外)多く、ローム粒・燒土やや多く含む
- 13". 黒褐色土 細い強、ローム粒(3mm以下)少しあむ、圓溝產土か
14. 黑褐色土 細い強、ローム粒(3mm以下)少しあむ
15. 黑褐色土 細い強、ローム粒(3mm以下)多く含む
16. 黑褐色土 細い強、ローム粒(5mm以下)やや多く含む
17. 黑褐色土 細い強、色調明るめ、ラフラシ状ローム粒(3mm以下)やや多く含む
- ビート
- a. 線褐色土 細い強、ロームブロック・粒(1cm以下)やや多く含む
- b. 線褐色土 細い強、色調暗め、ローム・ロック・粒(1cm以下)少しある
- c. 線褐色土 細い強、ローム粒僅か
- d. 掘立柱建物 黑褐色土 若干干色味が有り、含有物ローム粒・燒土(3mm以下)僅かのみ

第18図 滝遺跡第17地点 H23・H25号住居跡・掘立柱建物跡 (1/60)

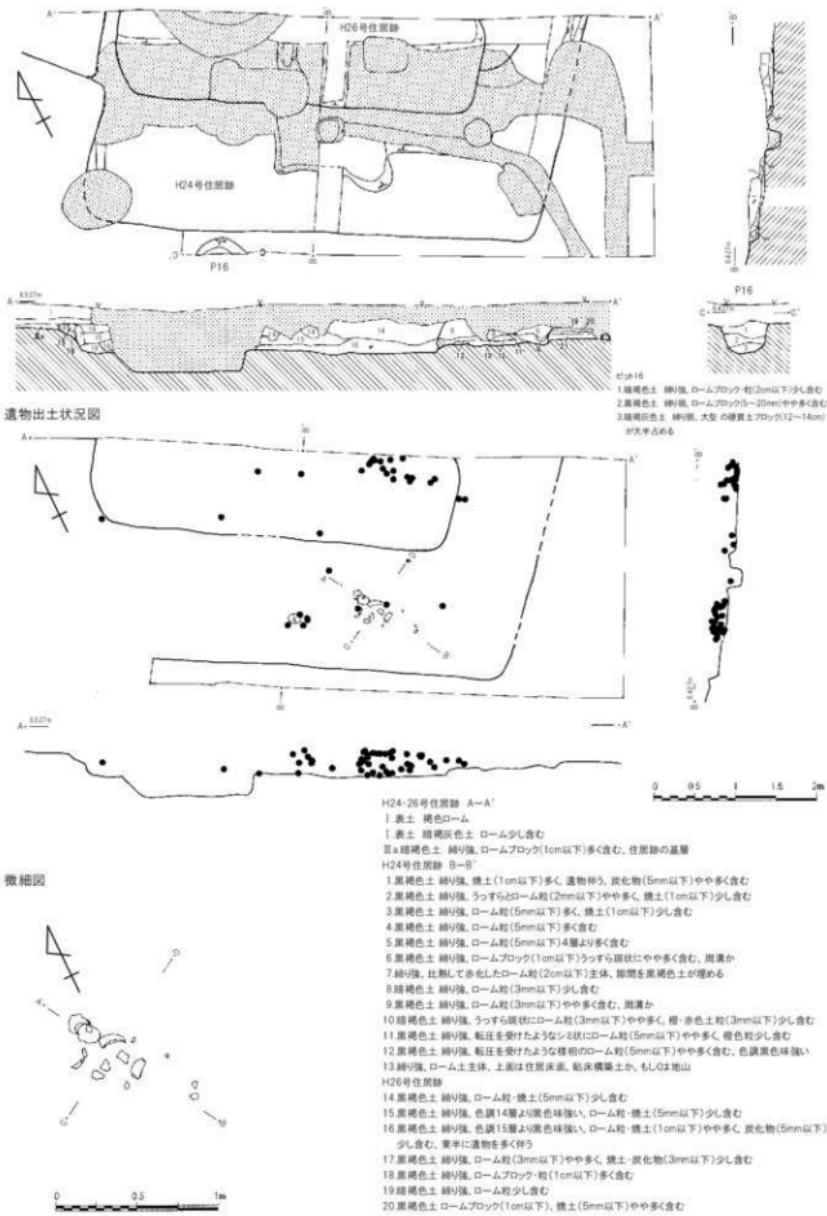
## 遺物出土状況図



## 微細図

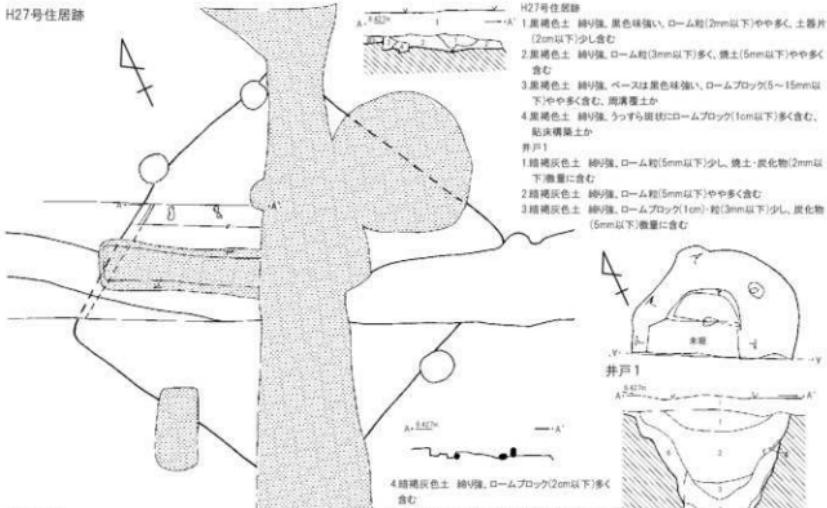


第19図 滝遺跡第17地点 H23・H25号住居跡遺物出土状況図 (1/60)、微細図 (1/30)

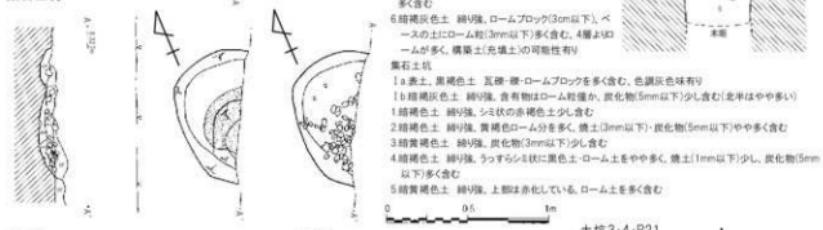


第20図 滝遺跡第17地点 H24・H26号住居跡ピット・遺物出土状況図 (1/60)、微細図 (1/30)

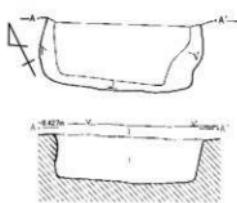
H27号住居跡



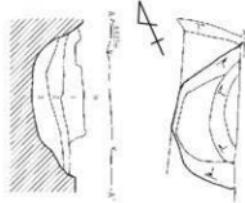
集石土坑



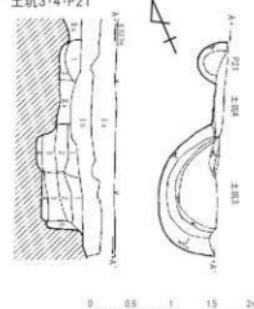
土坑1



土坑2



土坑3・4-P21



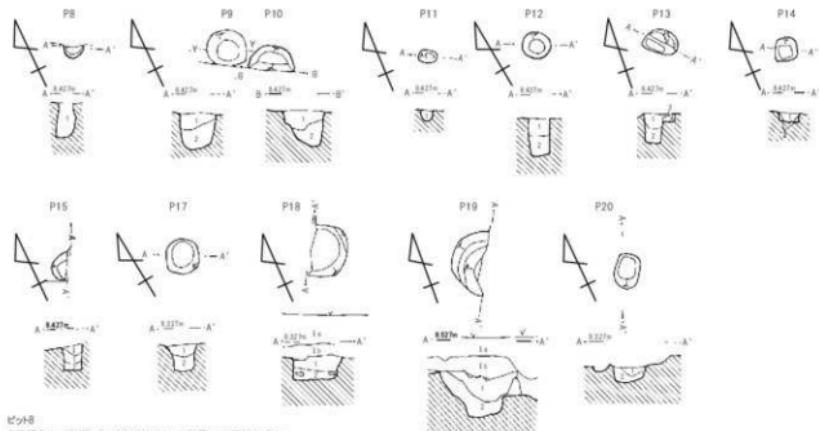
土坑1

- 1. 黒灰色土 細りやや器、ローム粉少しやや多く含む
- 2. 黑褐色土 細り強、離してより表面が被覆色化した青白色ロームブロック(2cm以下)多く含む、炭化物(5mm以下)少し含む、ベースの土はシルト質
- 3. 黑褐色土 細り強、ロームブロック(2cm以下)多く、壁(3cm以下)少し含む
- 4. 黑褐色土 紹り強、ロームブロック(4cm以下)・粒やや多く含む
- 5. 黑褐色土 紹り強、ロームブロック(2cm以下)多く含む
- 6. 黑褐色土 紹り強、ローム・壁・基褐色土粒やや多く含む
- 7. 黑褐色土 紹り強、ロームブロック(1cm以下)少し含む
- 8. 黑褐色土 紹り強、ロームブロック(2cm以下)やや多く含む

土坑4

- 1. 黒灰色土 紹り強、ローム粒(5mm以下)やや多く含む
- 2. 黑褐色土 紹り強、ロームブロック(4cm以下)、基褐色土ブロックを多く含む
- 3. 黑褐色土 紹り強、ロームブロック・粒(1cm以下)やや多く、炭化物僅かに含む
- 4. 黑褐色土 紹り強、シマリ質の灰褐色土を多く、炭化物僅かに含む
- 5. 黒褐色土 紹り強、ローム・壁・基褐色土粒やや多く含む

第21図 滝遺跡第17地点 H27号住居跡(1/60)、集石土坑(1/30)、井戸・土坑・ピット(1/60)



ピット8

1. 黒褐色土 細り強、うっすら斑状のローム粒(5mm以下)少し含む

ピット9-11-12-14-15

1. 黒褐色土 細り強、ロームブロック(1cm以下)多く含む

2. 黑褐色土 細り強、うっすら斑状(コムブロック(1cm以下)多く含む

ピット10

1. 黒褐色土 細り強、P9の1層に似る、ロームブロックは3cm以下と大きい

2. 黑褐色土 細り強、ロームブロック(2cm以下)やや多く含む

ピット13

1. 黑褐色土 細り強、ローム・焼土(もろくは土基部)少し含む

2. 黑褐色土 細り強、ローム少し含む

3. 黑褐色土 細り強、ローム 少し含む

4. 黑褐色土 細り強、ローム土主体、シミ状に黒褐色土少し含む

ピット17

1. 黑褐色土 細り強、ローム粒少し含む、灰色味有り、Vに似る

2. 黑褐色土 細り強、色調は明るい、やうすら斑状にロームブロック(1cm以下)やや多く含む

ピット18

1. A表土 黒褐色土 瓦礫・碎・ロームブロックを多く含む、色調灰色味有り

1. b 黑褐色土 細り強、含有物はローム粒僅か、炭化物5mm以下)少し含む(北半はやや多い)

1. 黑褐色灰土 細り強、ロームブロック(1cm以下)やや多く含む

2. 黑褐色土 細り強、うっすらシミ状(ロームブロック(1cm以下)やや多く含む

ピット19

1. 黑褐色灰土 細り強、ローム粒(5mm以下)少し含む、やや中間目立つ

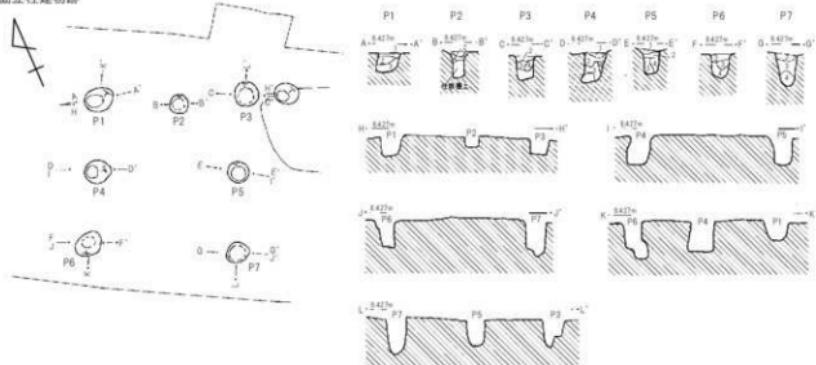
2. 黑褐色灰土 細り強、ロームブロック(1cm以下)やや多く、色調明るい

ピット20

1. 黑褐色土 細り強、薄く斑状(ロームブロック(2cm以下)多く含む

2. 黑褐色土 細り強、薄く斑状(ローム粒(5mm以下)やや多く含む

掘立柱建物跡



ピット1-7

1. 黄褐色土 細り強、粘性有、黒褐色土・ローム粒(2mm以下)やや多く、焼土・炭化物(2mm以下)少し含む

2. 黑褐色土 細り強、粘性有、焼土(2mm以下)少し含む

3. 黑褐色土 細りやや弱、粘性有、黒褐色土も含み、ブロック状でボンボンしている

4. 黑褐色土 細り強、粘性有、うっすら斑状に黒褐色土ブロックを含む



第22図 滝遺跡第17地点ピット・掘立柱建物跡(1/60)

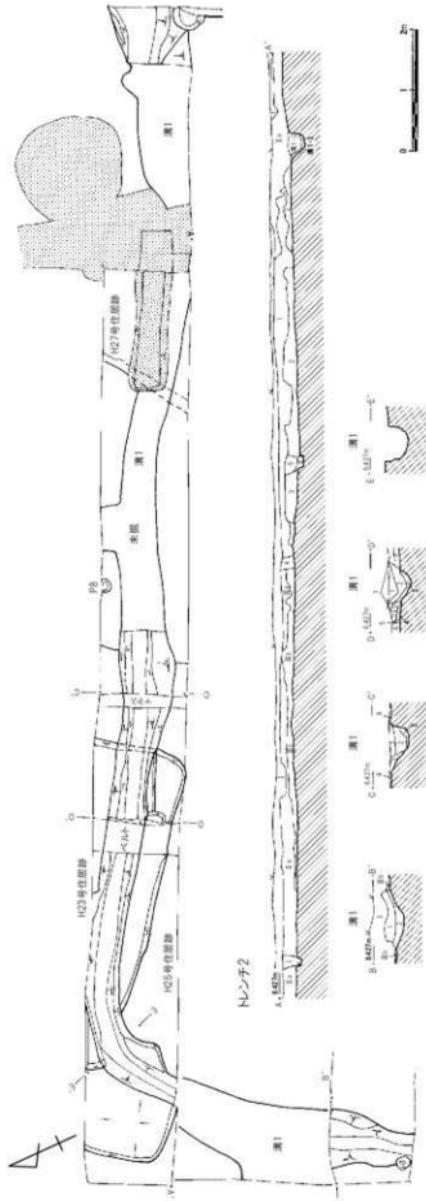


図23-2 トレンチ2

1. 黄土色土、粒状漂出物、褐色土、粒状漂出物のロームゴブックを含む、下部灰色シルト粘土を含む
  2. 黄褐色土、粒状漂出物、褐色土、色濃い褐色、ラフラフな質のローム約5mm以下、ロームゴブックを含む
  3. 黄褐色土、粒状漂出物、褐色土、色濃い褐色、ローム約5mm以下、多孔質、空隙目立つ
  4. 黄褐色土、粒状漂出物、褐色土、色濃い褐色、ローム約5mm以下、多孔質
  5. 黄褐色土、粒状漂出物、褐色土、色濃い褐色、ローム約5mm以下、多孔質
  6. 黄褐色土、粒状漂出物、褐色土、色濃い褐色など各種物質が混在する
  7. 黄褐色土、粒状漂出物、褐色土、ロームゴブックを含む、ローム約3mm以下、やや多くむしむ(5%有機物)
- 測定点2
1. 黄褐色土、粒状漂出物、褐色土、色濃い褐色、ラフラフな質のローム約5mm以下、やや空隙目立つ
  2. 黄褐色土、粒状漂出物、褐色土、色濃い褐色、ロームゴブックを含む、ローム約5mm以下、多孔質
  3. 黄褐色土、粒状漂出物、褐色土、色濃い褐色、ローム約5mm以下、多孔質、空隙目立つ
  4. 黄褐色土、粒状漂出物、褐色土、色濃い褐色、ローム約5mm以下、少孔質、色濃い褐色を含む
  5. 黄褐色土、粒状漂出物、褐色土、ローム約2mm以下、少孔質、色濃い褐色を含む
  6. 黄褐色土、ローム約2mm以下多く、無機土約5mm以下、少孔質
- 測定点3
1. 黄褐色土、粒状漂出物、褐色土、色濃い褐色、ローム約5mm以下、少孔質
  2. 黄褐色土、粒状漂出物、褐色土、色濃い褐色、ロームゴブックを含む、ローム約5mm以下、多孔質
  3. 黄褐色土、粒状漂出物、褐色土、色濃い褐色、ロームゴブックを含む、ローム約5mm以下、多孔質
  4. 黄褐色土、粒状漂出物、褐色土、色濃い褐色、ロームゴブックを含む、ローム約5mm以下、多孔質
  5. 黄褐色土、粒状漂出物、褐色土、色濃い褐色、ローム約5mm以下少孔質、やや空隙目立つ
- 測定点4
1. 黄褐色土、粒状漂出物、褐色土、色濃い褐色、ローム約5mm以下少孔質、やや空隙目立つ
  2. 黄褐色土、粒状漂出物、褐色土、色濃い褐色、ローム約5mm以下少孔質

図23-3 滝遺跡第17地点溝1 (1/80)

第15表 滝遺跡第17地点井戸一覧表 (単位cm)

No.	平面形態	確認面	底面	深さ	備考
井戸1	不明	205×(132)	80×34	173.1	

第16表 滝遺跡第17地点集石土坑一覧表 (単位cm)

No.	平面形態	確認面	底面	深さ	備考
集石土坑1	不明	82×(41)	30×(8)	9.6	

第18表 滝遺跡第17地点 ピット一覧表 (単位cm)

No.	平面形態	確認面	底面	深さ	備考
P1	方形	34×29	20×15	24.9	
P2	円形	23×23	16×15	15.5	
P3	円形	30×28	19×18	20.3	
P4	方形	30×29	17×14	39.2	
P5	円形	26×25	18×12	33.8	
P6	椭円形	34×27	18×13	32.7	
P7	方形	26×24	19×18	34.0	
P8	不明	24×(14)	13×(9)	27.1	
P9	円形	47×42	26×26	45.3	
P10	不明	56×(30)	37×15	43.7	

第17表 滝遺跡第17地点土坑一覧表 (単位cm)

No.	平面形態	確認面	底面	深さ	備考
土坑1	不明	199×(82)	167×(72)	50.2	
土坑2	不明	178×(80)	91×(17)	42.9	
土坑3	不明	163×(71)	34×(4)	59.0	

第19表 滝遺跡第17地点出土遺物観察表 (単位cm・g)

部類 記載名	出土遺構 名	種別・器種	口径・ 長さ	底径・ 幅	高さ・ 厚さ	技法・文様・その他	推定産地	推定年代
1		磁器／小杯	6.9	3.0	4.8	ロクロ成型／クロム・黄色側面繪付／竹節文	瀬戸・美濃	1890年代～
2		磁器／小杯	6.7	3.1	4.2	ロクロ成型／コバルト染付／口縁外・高台脇に無線	瀬戸・美濃	1870年代～
3	土坑3	磁器／小杯	7.0	3.4	4.3	ロクロ型打成形／脚部繪付・正内子／菊文水	瀬戸・美濃	1890年代～
4		磁器／小杯	7.0	2.5	2.7	ロクロ成型／コバルト染付／高台に柳葉文／底裏に鉢	瀬戸・美濃	1870年代～
5		土製品／人形	2.8	2.4	1.4	混合合せ成形	在地	1790～1890年代
1		土器(瓦質)／養蚕 火鉢底盤	25.2	22.0	2.0	タタラ成形・受鉢脚付	在地	近代～
2	遺構外	磁器／小杯	5.1	3.0	4.1	ロクロ成型／外クロム輪／黒・緑上繪花文／底裏赤土繪「九谷」	九谷	近代～
3		土製品／泥メンチ	2.6	2.1	0.7	型抜き成形／裏面に指圧痕	在地	1790～1890年代

## 25号住居跡出土遺物

いわゆる五頭期のものである。1は蓋形土器。つまみ部は完形。下部口縁部径(底径)20cm。つまみ部先端から2/3は現存。下部口縁部内外面ともに横位にヘラ磨き。外面の中央部は斜めヘラ削り。工具の角が斜めの筋となる。内面口縁部(底径部)から上方へ約2/3は、横ヘラ磨きされ赤彩の範囲に重なる。その上方は斜め下方にヘラナデ、つまみ状の狭い箇所は指頭による横ナデで整形。色調は黄褐色で、外面つまみ部を中心に黒斑が付く。外面は凹凸があつて、丁寧な作りとはいえない。いわゆる北陸系の土器。

2は、口径(1/8現存)19.8cm。「く」の字口縁の壺形土器。口唇部先端と「く」の字部に縦に5mm間隔で刻みが加えられている。内外面はハケ目調整。胎土に黄白色の小砂利が混じる。色調灰褐色。西日本系統の土器。3は、胴部径21.5cm。底部径6.3cm。壺形

土器の胴下半部。胴下半部の輪積み接合面で割れている。同上部の接合以後に内面の横ハケを胴上半に付けたものの一部が付いたもの。底部内面の底は木口状工具で廻したもので、工具先端が放射状に付く。内面上部は木口状工具によりナデあげている。色調黄褐色で砂粒が多量に混じる。

4は、大形の壺形土器底部。底径3.3cm。底部はヘラで抉った後ナデにより整形。色調茶褐色。胎土は石英などが混じるがよく精錬されている。5は、小形壺形土器の底部。底部は直径2.3cm程度で平坦に整形されている。色調黄白色で粘板岩などの小砂利が混じる。6は、壺形土器の底部破片。残存部少なく、詳細不明。

7・8は、台付き甕の脚部破片。ともに風化が激しく器面調整などは観察できない。7は非常に細かい白色の砂粒を含む。色調暗灰色。S字状口縁の台付き甕

の可能性が高い。8は外面は縦下手削り、内面は木口上工具により横ヘラ削り調整。在地の台付き表。

#### 26号住居跡出土遺物

1は、土師器壊。口径(1/5現存)10cm。器高3.0cm。底部は丸底。外面は全体にヘラ削りで調整。内面には工具の當てによる2条の沈線があるが全体にヘ

ラナデ調整。色調暗褐色。

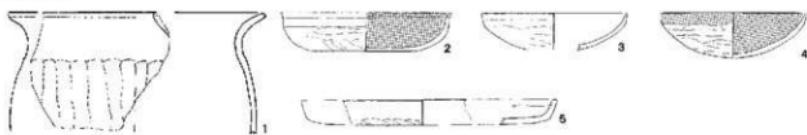
#### 27号住居跡出土遺物

1は、土師器長表。胸部径の1/5の現存。口縁部の内外面は強い横ナデ。胸部は縦ヘラ削りにて調整。砂粒を多量に含み、雲母が少量混じる。色調黄白褐色。土抗3・遺構外(第19表参照)

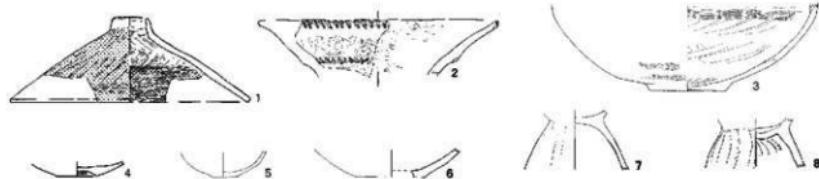
#### 23号住居跡



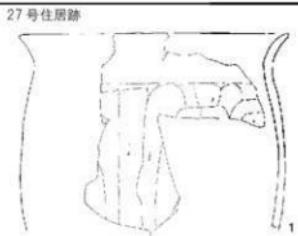
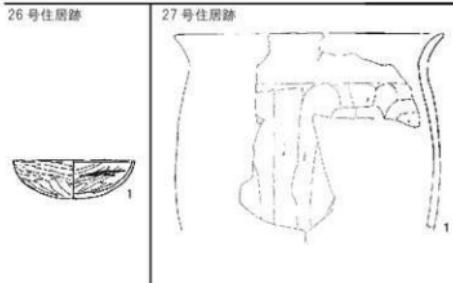
#### 24号住居跡



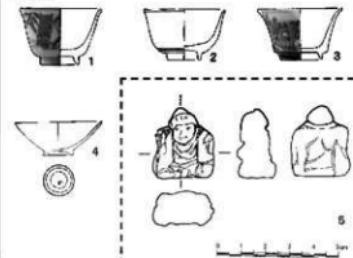
#### 25号住居跡



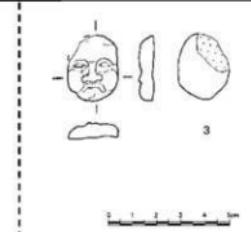
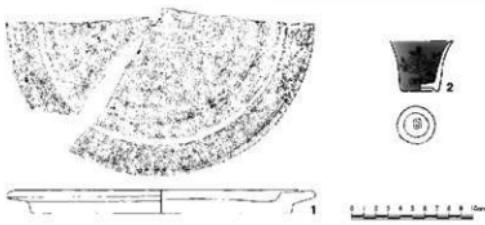
#### 26号住居跡



#### 土坑3



#### 遺構外



第24図 滝遺跡第17地点出土遺物(1/2・1/4)

## 第5章 松山遺跡の調査

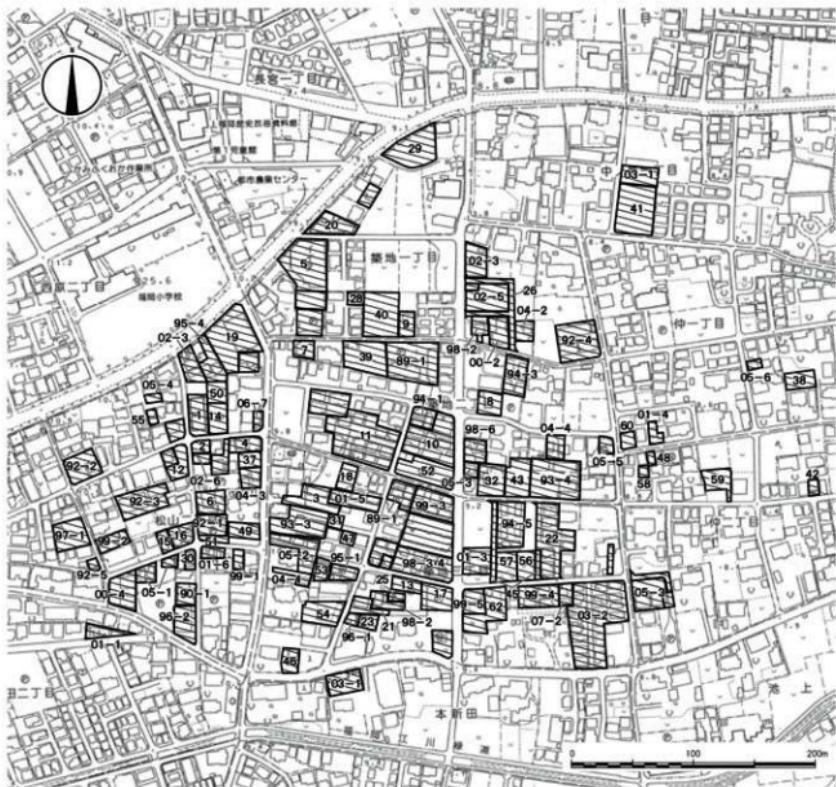
### I 遺跡の立地と環境

松山遺跡は、亀居遺跡付近を湧水源とする福岡江川の左岸、武藏野台地の一段低い立川段丘面に立地している。東側は荒川低地の沖積地と接し、標高9~10m前後の微高地を形成する。遺跡の範囲は南北500m、東西600m以上である。宅地開発されるが部分的に畠が残っている。

周辺の遺跡は、すぐ北側に縄文時代早期~後期、飛鳥時代および中世にわたる長宮遺跡、福岡江川を挟んだ対岸には福岡新田遺跡、同じく対岸の250m南東側には、縄文時代前期集落の鶴森遺跡がある。また、西方約350mの比高差9mを持ってそびえる台地の

南東崖面には富士見台横穴墓群が望まれる。

1978年の宅地造成に伴う緊急調査で奈良時代の住居跡を検出したのをはじめ、宅地造成などにより約100ヶ所で調査が行われている。主たる時代と遺構は、長宮遺跡と接した北寄りに飛鳥時代の住居跡、遺跡中央の東西240m、南北210m程度の範囲に奈良・平安時代の住居跡・掘立柱建物跡・井戸跡、中世以降の溝・井戸跡などである。特に溝、井戸等の中世の遺構は東側の低地へも広がりを見せており、遺跡範囲の変更増補を行った。



第25図 松山遺跡の地形と調査区（1/4,000）



## I 遺跡の立地と環境

地点	所轄町	調査期間			面積(㎡)	調査別図	確認された遺跡と遺物	所轄町名
		調査年度	月	日				
38	伊方町	03.03.12	13.24		2000.5 ~ 2000.7	2170 宅地	なし	伊方町
39	伊方町	03.03.10	20		2000.5 ~ 2000.7	402 宅地	なし	伊方町
40	伊方町	1.5			2000.2.21 ~ 3.9	2000.2.22 ~ 40	台形土塁跡、中世遺構跡	伊方町
41	伊方町	1.25			2000.2.23 ~ 3.5	2000.2.23 ~ 40	台形土塁跡	伊方町
42	伊方町	1.15			2000.2.23	108 宅地	小字遺跡跡地	伊方町
43	伊方町	1.15			2000.2.23	108 宅地	なし	伊方町
44	伊方町	1.15.3.2	14		2000.4.11 ~ 24	668 住宅	輪郭1、土塁1、石器陶片等	伊方町
45	伊方町	1.15.3.4			2000.4.5 ~ 11	131 住宅	鐵道遺跡なし	伊方町
46	伊方町	1.4.7 ~ 9			2000.4.10 ~ 23	300 （上）下水道	台形土塁跡の北側斜面、扇形土塁跡跡2層、台形土塁跡	伊方町
47	伊方町	1.4.7 ~ 9			2000.4.10 ~ 23	300 住宅	扇形土塁跡なし	伊方町
48	伊方町	1.4.7 ~ 9			2000.4.11 ~ 17	121 住宅	ビートル	伊方町
49	松山町	1.4.7 ~ 9			2000.4.11 ~ 17	108 住宅	扇形土塁跡	伊方町
50	松山町	1.4.7 ~ 9			2000.4.11 ~ 17	440 宅地	扇形土塁跡	伊方町
51	松山町	1.4.7 ~ 9			2000.4.11 ~ 17	797 住宅	鐵道遺跡なし	伊方町
52	松山町	1.4.7 ~ 9			2000.4.10 ~ 20	360 住宅	鐵道遺跡なし	伊方町
53	松山町	1.4.7 ~ 9			2000.4.10 ~ 21	604 住宅	扇形土塁跡、アーチ式窓、扇形土塁跡	伊方町
54	伊方町	1.4.7 ~ 9			2000.4.14 ~ 11.5.21 ~ 10.1	540 宅地	台形土塁跡と扇形土塁跡、外周の内堀は底に50cm、壁厚約20cm	伊方町
55	伊方町	1.4.7 ~ 9			2000.4.17 ~ 18	226 住宅	台形土塁跡の北側斜面1種、扇形土塁跡1種、本町古	伊方町
56	伊方町	1.4.7 ~ 9			2000.4.17 ~ 18	482 住宅	台形土塁跡の南側斜面2種、本町古一、二土塁丘古	伊方町
57	伊方町	1.4.7 ~ 9			2000.4.17 ~ 18	244 住宅	扇形土塁跡、扇形土塁	伊方町
58	伊方町	1.4.7 ~ 9			2000.4.17 ~ 18	114 住宅	扇形土塁跡、本町古	伊方町
59	伊方町	1.4.7 ~ 9			2000.4.17 ~ 18	115 住宅	扇形土塁跡	伊方町
60	伊方町	1.4.7 ~ 9			2000.4.17 ~ 18	116 住宅	扇形土塁跡	伊方町
61	伊方町	1.4.7 ~ 9			2000.4.17 ~ 18	117 住宅	扇形土塁跡	伊方町
62	伊方町	1.4.7 ~ 9			2000.4.17 ~ 18	842 宅地	扇形土塁跡	伊方町

\*参考）上辺町教育委員会管理文化財の両吉野古墳、上高瀬川・上辺町教育委員会所有古墳、教遺）上辺町教育委員会所有。市内：みじみ野市内遺跡群古墳

第 21 表 松山遺跡住居跡一覧表（単位 cm）

登録番号	調査年度	調査名	調査年	平面形状( )は概定	規格	測量期	カマクラ	標高 m	場所	主構造	時期	縦幅	文献		
柱径	柱間														
1	1978	第1次1号居跡	正解	正方形	360 × 360	K	9m	110 ± 75	○	開口部半	昭和文化財の調査	1			
2	~	第1次2号居跡	三脚	正方形	360 × 360	K	9m	120 ± 85	○	開口部半	○				
3	1979	第2次2号居跡	2/3	△	350 × 30	K	9m		一張	開口部半	昭和文化財の調査				
4	~	第3次1号居跡	正解	正方形	530 × 475	K	9m	200 ± 100	○	開口部半	○				
5	1981	第3次5号居跡	正解	正方形	320 × 350	K	9m	234 ± 100	○	N 14.4	開口部半	開口文化財の調査	14		
6	~	第3次6号居跡	2/3	△	340 × 360	K	9m		一張	開口部半	○	2.7m			
7	~	第3次7号居跡	正解	正方形	400 × 400	K	9m	240 ± 100	○	開口部半	○	4.8m			
8	1982	第3次8号居跡	3/4	(方形)	400 ×	K				N 20.8	開口部半	開口文化財の調査	15		
9	1983	第3次9号居跡	正解	正方形	4400 × 350, 3420 × 310, C260 × 300	K	9m	1420 ± 210, 1430 ± 210, C270 ± 45	○	RC 1.半開	鉄筋型枠制の調査	16			
10	~	第16.10号居跡	L.D	近正形	580 × 540	K	9m	140 ± 40	○	RC 4.半開	開口土塁面の	○			
11	~	第17.3.11号居跡	正解	正方形	600 × 600	K	9m	140 ± 40	○	超大程度	RC 4.半開	開口土塁面の	○		
12	~	第18.3.10号居跡	正解	正方形	400 × 370	K	9m		○	RC 4.半開	○	と小丘			
13	1984	第19.3.13号居跡	扇形	扇形	450 × 360	K	9m		○	N 24.0	RC 1.半開	松山城第19.3号	扇形		
14	~	第19.3.14号居跡	正解	扇形	450 × 360	K	9m	140 ± 20	○	N 24.0	RC 1.半開	○			
15	~	第20.3.15号居跡	正解	正方形	370 × 470	K	9m	70 × 70	○	RC 4.半開	開口部半	20.3			
16	1985	7.2.6~20.3.16.14.21.22.23.24	正解	正方形	4800 ± 1600	K	9m	200 ± 100	○	RC 4.半開	○	4.6m			
17	~	第21.3.17号居	正解	正方形	400 × 400	K	9m		○	RC 4.半開	開口文化財の調査	19			
18	1987	第22.3.8号居	正解	正方形	240 × 460	K	9m	100 ± 80	○	N 30.0	RC 6	開口文化財の調査	20		
~	~	第22.3.9号居	扇形	扇形	400 ± 300	K	9m			RC 6 ~ RC 8	○	○			
~	~	第22.3.10号居	扇形	扇形	450 ± 350	K	9m			RC 6 ~ RC 8	○	○			
~	~	第22.3.12号居	扇形	扇形	450 ± 350	K	9m			RC 6 ~ RC 8	○	○			
19	1988	第23.3.19号居	4/5	角形	260 × 290	K			○	N 30.0	RC 6	扇形	21		
20	1989	第25.2.20号居				K				RC 6	開口	開口文化財の調査			
21	~	第25.2.21号居				K				RC 6	開口	開口文化財の調査			
22	2000	第26.2次2号居	正解	正方形	380 ×	K	9m		○	RC 6	開口	開口文化財の調査	22		
23	~	第27.2.23号居	正解	正方形	600 × 720	K	9m		○	RC 6	開口	○			
24	2001	第28.2.24号居	1/2	角形	340 ×	K	9m		○	RC 6	開口	開口文化財の調査			
25	2000	12.9.4号居	6/5						○	RC 6	開口	開口文化財の調査	23		
26	2002	第29.2.6号居	正解	正方形	420 × 360	K	9m		○	RC 6	開口	開口文化財の調査	25		
27	2003	15.年既述居	2号	-	1級 ± 500 ±	K				○	○	○	○		
28	~	15.年既述居	2号	-	1級 ± 500 ±	K				○	○	○	○		
29	~	30.2.29号居	正解	正方形	360 × 420	K	9m		○	RC 6	開口	○	○		
30	2005	12.9.15号居	正解	正方形	390 × 360	K	9m		○	RC 6	開口	○	○		
31	~	32.3.22号居	正解	正方形	360 × 360	K	9m		○	RC 6	開口	○	○		
32	~	32.3.23号居	1/2	角形	360 × 360	K	9m		○	RC 6	開口	○	○		
33	2006	45.4月153号居	正解	正方形	450 × 420	K	9m	98 ± 134	○	RC 6	開口	○			
34	2006	45.4月143号居	正解	正方形	360 × 361	K	9m	122 ± 123	○	N 96.8	開口	○			
35	2006	45.4月145号居	1/2	(正方形)	304 ± 212	K	9m					開口	○		
36	2006	45.4月151号居	正解	正方形	290 × 290	K	9m	105 ± 100	○	N 92.6	RC 6	開口	4.6		
37	2010	54.5月152号居	正解	正方形	434 × 324	K	9m	70 ± 80	○	N 13.0	RC 6.4	開口	4.6		
38	2010	54.5月153号居	正解	正方形	347 × 318	K	9m	88 ± 90	○	N 13.0	RC 6.4	開口	4.6		
39	2010	54.5月154号居	正解	正方形	350 × 340	K	9m	70 ± 80	○	N 13.0	RC 6.4	開口	4.6		
40	2011	55.5月155号居	正解	正方形	350 × 340	K	9m	70 ± 80	○	N 13.0	RC 6.4	開口	4.6		
41	2012	6.6月144号居	3/4	(正方形)	1032 ± 1526	K	9m	105 ± 135	○	N 99.0	RC 6	開口	6.6		
42	2012	6.6月145号居	2/3	(正方形)	410 ± 700	K	9m	112 ± 122	○	N 98.8	RC 6	開口	6.6		
43	2012	6.6月146号居	1/2	(正方形)	304 ± 260	K	9m	105 ± 150	○	N 68.8	RC 6	開口	6.6		



## II 松山遺跡第 51 地点

### (1) 調査の概要

調査は分譲住宅建設に伴うもので、原因者より「埋蔵文化財事前協議書」が 2010 年 3 月 29 日付けでふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は遺跡の中央部に位置するが、申請地の北側は 1992 年 4 月 17 日試掘調査済みのため、残りの未調査区域について原因者と協議の結果、遺構などの存在を確認するために試掘調査を実施した。

試掘調査は 2010 年 5 月 10 日～13 日に行った。幅約 1.5 m のトレチ 2 本を設定し、重機で表土除去後、人力による表面精査を行った結果ピット 1 基を検出した。遺構確認面までの深さは約 70 cm である。旧石器時代の確認調査は行っていない。写真撮影・全測図作成等記録保存を行ったうえ埋め戻し、調査を終了した。

### (2) 遺構と遺物

P 1 は斜向ピットで深さ 70 cm まで掘ったが、完掘はしていない。確認面径 57 × 42 cm である。

## III 松山遺跡第 52 地点

### (1) 調査の概要

調査は分譲住宅建設に伴うもので、原因者より「埋蔵文化財事前協議書」が 2010 年 6 月 8 日付けでふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は遺跡の中央部に位置する。申請者と協議の結果、遺構の存在を確認するために試掘調査を実施した。

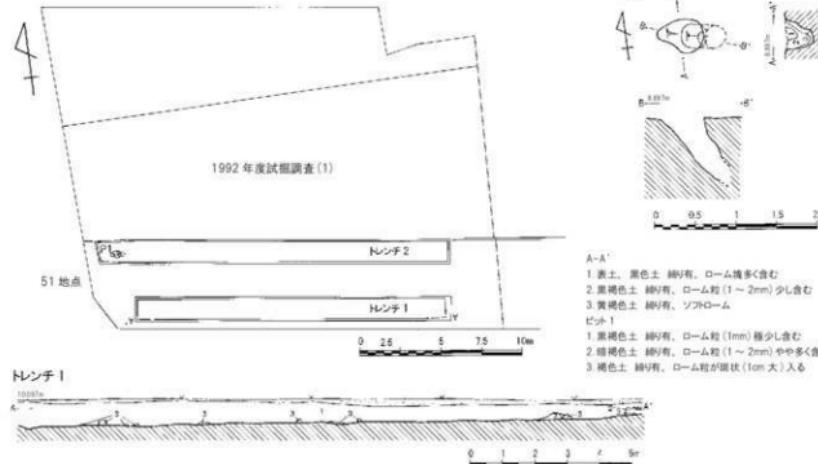
試掘調査は同年 8 月 26 日～9 月 3 日まで幅約 1.5 m のトレチを 6 本設定し、重機で表土除去後、人力による表面精査を行った。時期不明の落とし穴 1 基と溝を検出したが遺物は出土しなかった。遺構確認面までの深さは約 30 ～ 60 cm である。

旧石器時代の確認調査は行っていない。写真撮影・全測図作成等記録保存を行ったうえ埋め戻し、調査を終了した。

### (2) 遺構と遺物

#### ① 落とし穴

調査区の南西隅に位置する。平面形態は隅丸長方形で、確認面径 165 × 125 cm、底径 136 × 76 cm、確認面からの深さ 88 cm である。



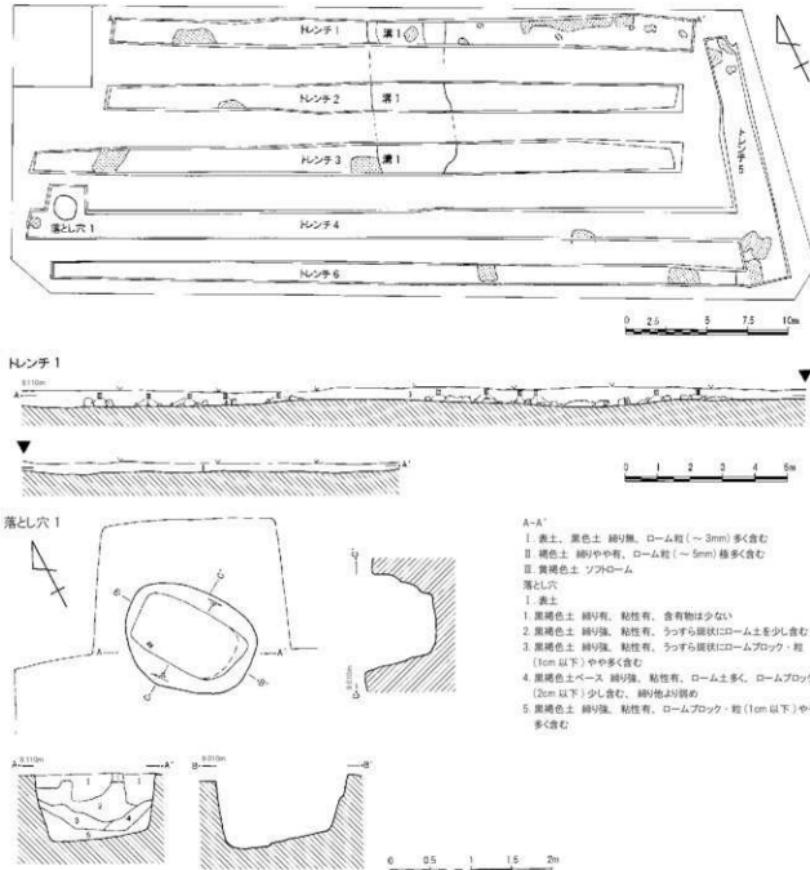
第 27 図 松山遺跡第 51 地点遺構配置図(1/300)、土層図(1/150)、ピット(1/60)

## ②溝 1

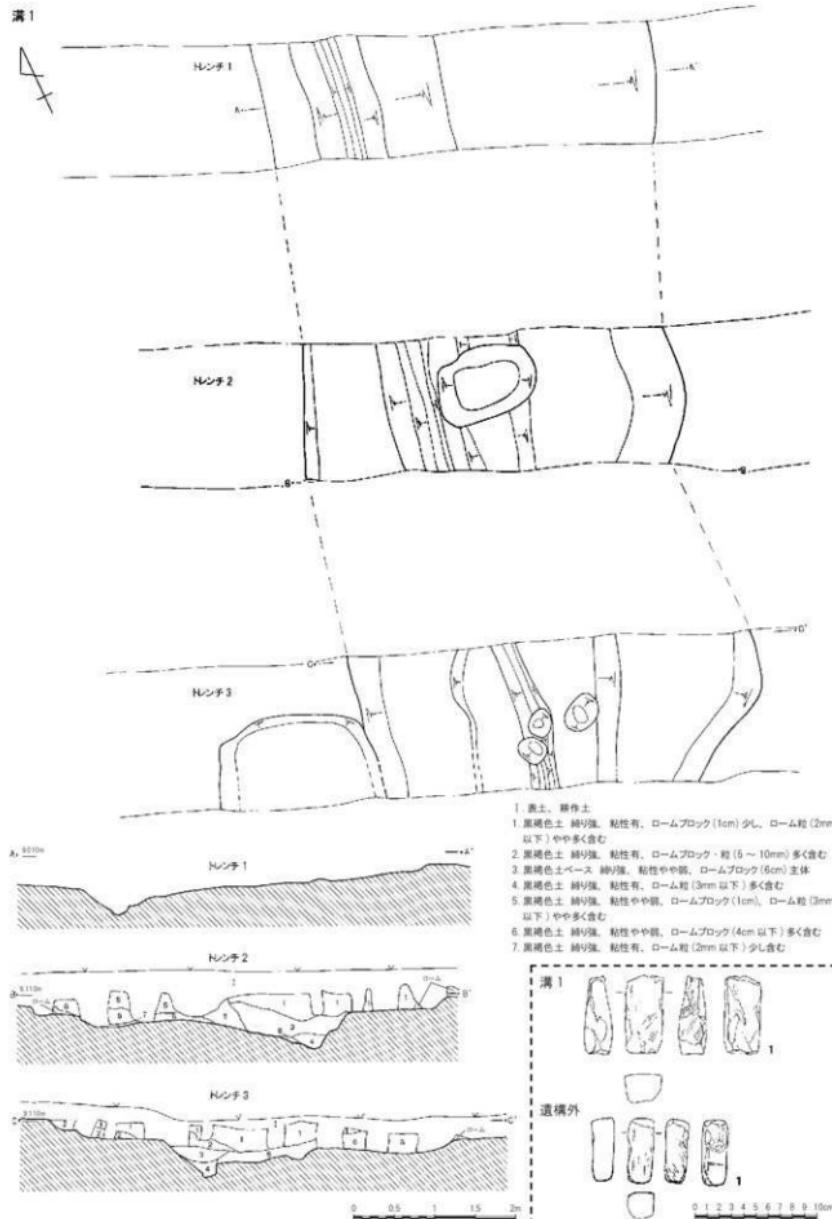
調査区北側、南北方向に 10 m にわたって検出した。上幅 470 ~ 500 cm、下幅 10 ~ 15 cm。断面は西側が急で、東側が緩やかな「V字形」を呈する。確認面からの深さ 60 cm 前後である。

第 22 表 松山遺跡第 52 地点出土遺物観察表（単位 cm・g）

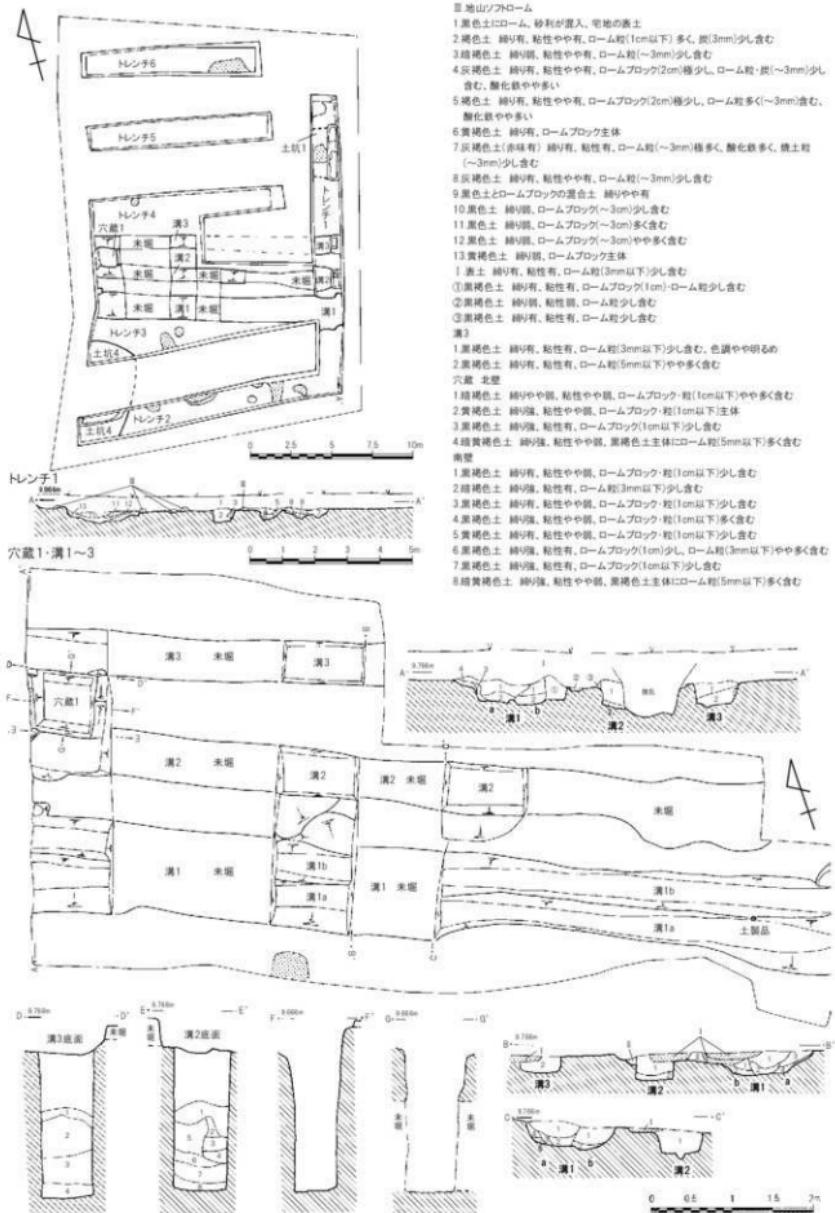
用 数 名	出 土 遺 構 名	種 別	長 さ	幅	厚 さ	重 量	石 材 / 推定生産地	推定年代	残 存 / 備 考
1	溝 1	砾石	6.3	2.9	2.2	65.32	流紋岩	時期不明	一部欠損
1	遺構外	砾石	5.3	2.1	2.0	37.89	砂岩	時期不明	完形



第 28 図 松山遺跡第 52 地点遺構配置図 (1/300)、土層図 (1/150)、落とし穴 (1/60)



第29図 松山遺跡第52地点溝(1/60)、出土遺物(1/4)



第30図 松山遺跡第53地点遺構配置図(1/300)、土層図(1/150)、穴蔵・溝(1/60)

## IV 松山遺跡第53地点

## (1) 調査の概要

調査は個人住宅建設に伴うもので、原因者より「埋蔵文化財事前協議書」が2010年8月11日付けでふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は遺跡の中央部に位置するため、申請者と協議の結果、遺構などの存在を確認するために試掘調査を実施した。

試掘調査は2010年9月10日～21日まで行った。幅約1mのトレンチ6本を設定し、重機で表土除去後、人力による表面精査を行った。建築予定地西側で近現代の農耕用穴蔵1基と溝4条を確認した。遺構確認面までの深さは約40cmである。なお、旧石器時代の確認調査は行っていない。写真撮影・全測図作成等記録保存を行ったうえ埋め戻し、調査を終了した。

## (2) 遺構と遺物

## ① 穴蔵

調査区の西側中央に位置する。平面方形の豊坑の南

第23表 松山遺跡第53地点出土遺物観察表（単位cm・g）

開 蔵 No.	出 上 遺構名	種別・器種	口 径・底 径・高さ・ 長さ	技法・文様・その他	推定産地	推定年代	
1	遺構外	磁器・小杯	6.9	3.0	4.3 ロクロ成形／銅版繪付／松竹梅文	瀬戸・美濃	1890年代～
2		磁器・碗	(8.0)	2.9	4.7 ロクロ成形／ゴム版繪付／花文／底裏にプリント「建國」銘	瀬戸・美濃	1920年代～
3		磁器・湯呑	(7.3)	3.4	7.7 ロクロ成形／白磁染付／草花文／胸部・底裏に青上絵「柳川」銘	瀬戸・美濃	1930年代～
4		陶器・急須	5.5	4.9	6.3 ロクロ・貼付成形／透明釉／袖下彩「藤間／パン蒸菓子製造」字	不明	近代～
5		陶器・蓋類	4.6	—	1.1 型打成形／透明釉／胎上：白色	不明	近代～
6		焼締陶器・急須蓋	8.1	—	2 型打・貼付成形／模印部に穿孔／陰刻草（蝶）文	万古	1940年代～
7		土器・七厘引き戸	8.2	7.8	1.2 タタラ成形	東海	近代～

調 1a

- 黒褐色土 磁り強、粘性有、ローム粒(2mm以下)少し含む
- 黒褐色土 磁り強、粘性有、ロームブロック(2mm以下)・ローム粒(5mm以下)多く含む
- 黒褐色土 磁り強、粘性有、ローム土を多く含み、黄灰色味を帯びる。ロームブロック・粒(5mm以下)やや多く含む
- 黒褐色土 磁り強、粘性有、ローム土を多く含み、黄灰色味を帯びる。ローム粒(2mm以下)少し含む
- 黄褐色土 磁り有、粘性有、ソフトローム主体

北方向に横穴があるが、横穴は天井まで埋め戻されていた。横穴は掘削せず未調査である。豊坑の上端78×70cm、下端55×48cm、現地表面からの深さ240cmである。

## ② 溝

4条検出した。いずれも調査区南側、東西方向に10m以上あり、調査区域外へ延長すると思われる。溝1aは上幅35～70cm、下幅15～35cm。断面は「U」字形、確認面からの深さ25～30cm前後である。溝1bより新しい。

溝1bは上幅35～70cm、下幅15～35cm。断面は「U」字形、確認面からの深さ30～35cm前後である。溝2は上幅50～80cm、下幅45cm。壁は垂直、確認面からの深さ35cmである。

溝3は上幅50～55cm、下幅45cm。壁は垂直、確認面からの深さ25cmである。

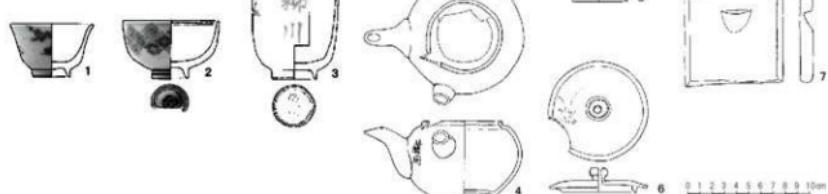
調 1b

- 黒褐色土 磁り強、粘性有、ロームブロック(5～50mm)少し、ローム粒(3mm以下)やや多く含む
- 黒褐色土 磁り強、粘性有、ローム粒(5mm以下)多く含む

調 2

- 田耕作土、黒褐色土 ロームブロック・粒少し、硬い土粒を含み、ややボロボロ
- 田耕作土、黒褐色土 ローム粒(2mm以下)やや多く含み、全体の色調黄色味を帯びる
- 黒褐色土 磁り強、粘性有、ロームブロック(1～2cm)少し、ローム粒(3mm以下)やや多く含む
- 黒褐色土 磁り有、粘性有、ロームブロック・粒(1cm以下)少し含む

## 遺構外



第31図 松山遺跡第53地点出土遺物(1/4)

## V 松山遺跡第55地点

## (1) 調査の概要

調査は宅地造成に伴うもので、原因者より「埋蔵文化財事前協議書」が2010年12月10日付けでふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は遺跡の北西部に位置するため、申請者と協議の結果、遺構の存在を確認するために試掘調査を実施した。試掘調査は2011年1月17日から幅約1.5mのトレンチを2本設定し、重機で表土除去後、人力による表面精査を行った結果、住居跡などの遺構を確認した。遺構確認までの深さは約50cmで、盛土等による遺構の保存が困難なため、補助事業の対応で1月18日から1月31日まで本調査を行った。奈良平安時代の住居跡1軒、掘立柱建物跡1棟を検出した。旧石器時代の確認調査は行っていない。写真撮影・全測図作成など記録保存を行ったうえ埋め戻し、調査を終了した。

## (2) 遺構と遺物

## ① H40号住居跡

【位置・形状】調査区の南西隅に位置する。9.5m北に掘立柱建物跡がある。南側と西侧は調査区域外になる。平面形態は方形もしくは長方形で主軸方位はN-90°-Eである。規模は主軸方向に東西3.0m×南北3.2m検出した。確認面からの深さ30cmである。竈は東壁から70cm突出する。

【竈】住居跡東壁に構築される。竈は灰色の粘土で構築され、天井部は崩落し袖の一部が残る。竈内部の底面に焼土面が残る。

焚口からの奥行き95cm、袖部の最大幅123cmである。焚口幅65cm、竈内部は幅46cm、床面からの深さは約9cmである。底面から須恵器坏が出土した。

【土坑】1基検出した。竈の1.2m西に在り、南側は調査区域外。方形もしくは長方形を呈する。東西長69cm、床面からの深さ39cmである。土器が集中する。

【貼床・周溝】周溝は住居の北・東壁際に巡る。上幅26~30cm、下幅14~18cm、深さ4~11cmである。貼床は床面全体に5~15cm厚で貼られる。

【掘り方】壁際にかけて深く掘られる。

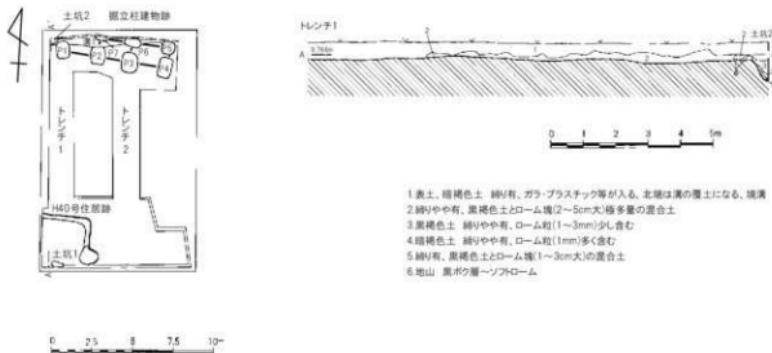
【遺物出土状況】遺物はほぼ全面に散在する。

【時期】9世紀。

## ② 掘立柱建物跡

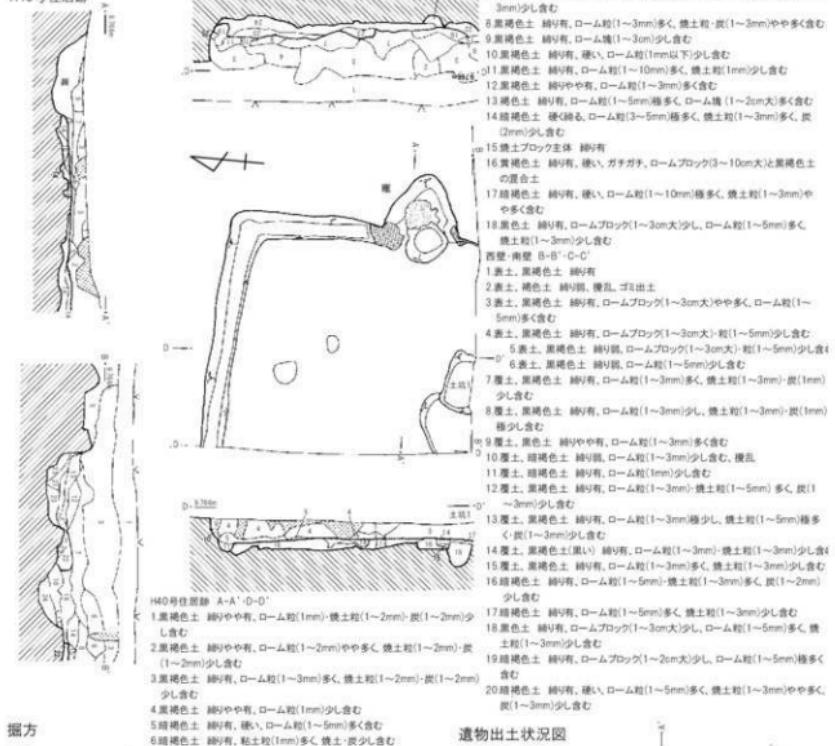
【位置・形状】調査区北端に位置する。主軸方位はN-5°-E、3間×1間以上の規模があり、北側の調査区域外へ広がる。検出した規模は柱の芯間で東西6.4m×南北2.3m。柱の中心間は2.1~2.3mである。各柱穴ともに黒褐色土にロームブロックが多量に混入した土を版築している。P1からは須恵器壊破片が出土している。

【時期】9世紀。

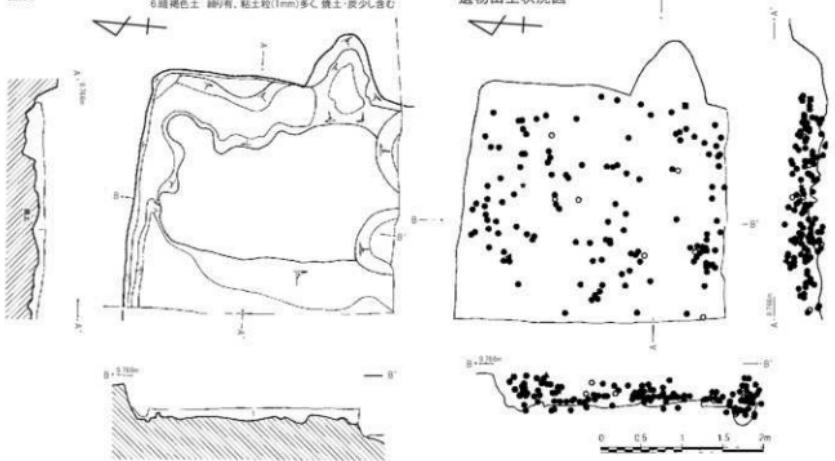


第32図 松山遺跡第55地点遺構配置図(1/300)、土層図(1/150)

H40号住居跡

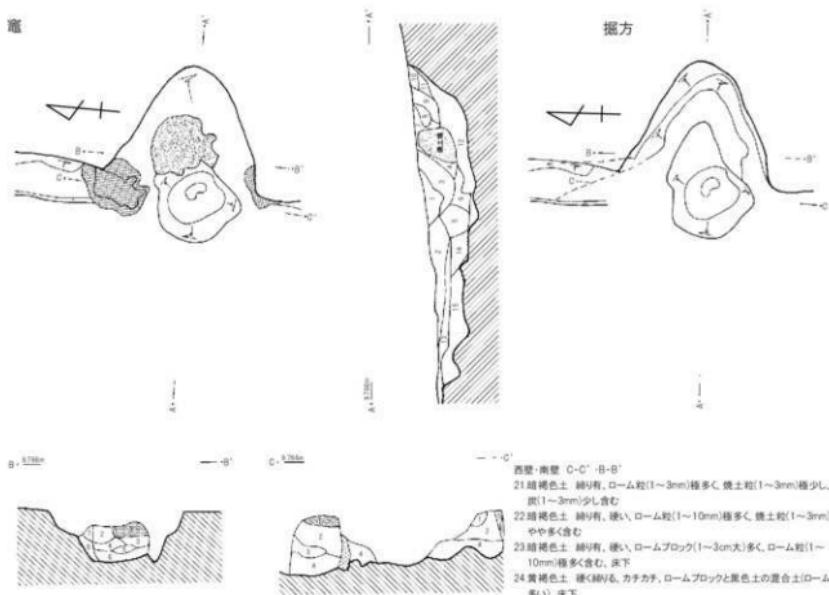


掘方



第33図 松山遺跡第55地点 H40号住居跡・掘方・遺物出土状況図(1/60)

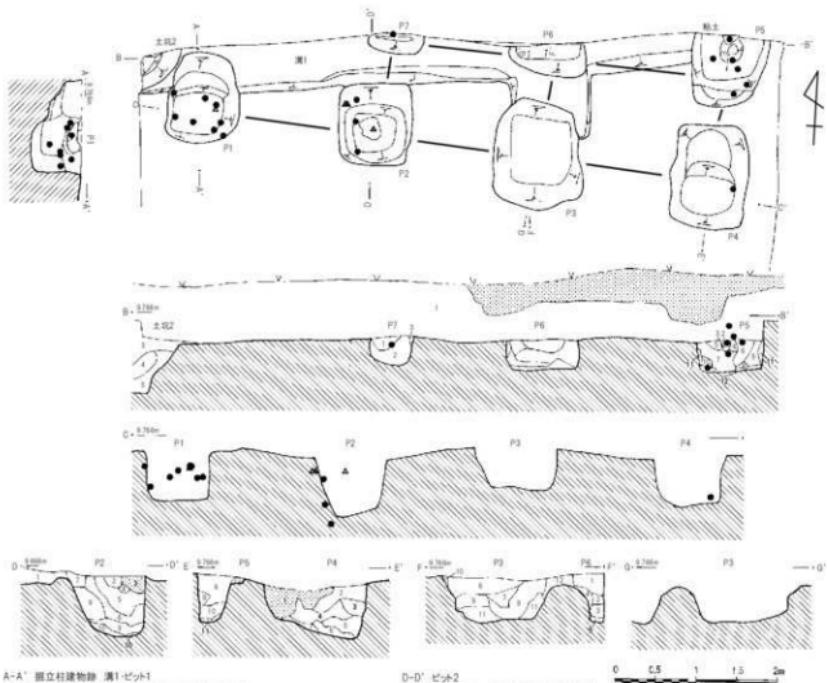
竈



遺物出土状況図



第34図 松山遺跡第55地点 H40号住居跡竈・掘方・遺物出土状況図(1/30)



A-A' 挖立柱建物跡・溝・ピット

- 1 緑褐色土 細りやや有、ローム粒(1~5mm)や多く含む
  - 2 黒褐色土 細りやや有、ローム粒(1mm)少く、粘土粒(1mm)以下やや多く、炭(1mm)様少く含む
  - 3 黑褐色土 細り有、ローム粒(1mm)少く、粘土粒(1mm)やや多く含む
  - 4 白灰褐色土 細り有、粘土粒(1~3mm)多く、粘土粒(1~3mm)やや多く含む
  - 5 緑褐色土 細り有、ローム粒(1~3mm)と粘土粒(1~3mm)多く、炭(1mm)やや多く含む
  - 6 緑褐色土 細り有、ローム粒(1~5mm)様多く、ローム粒(1~3mm)少く含む
  - 7 黑褐色土 細り有、ローム粒(1~5mm)様多く、ローム粒(1~3mm)少く含む
  - 8 黑褐色土(やや明るい) 細り有、ローム粒(1~3mm)多く含む
  - 9 黑褐色土 細り有、細い、ローム粒(1~3mm)多く含む
  - 10 黄褐色土 細り有、細い、ローム粒主体。褐色土混入
- B-B'
- 1 淡土、緑褐色土 ガラ・プラスチック等が入る
  - 2 黑褐色土 細り有、細い、粘土粒、焼き粘土の塊、焼土ブロック(2cm大)沢む
  - 3 緑褐色土 細り有、ローム粒(1~10mm)多く、粘土粒(1~3mm)少し含む、後乱層
  - 4 黑褐色土 細り有、粘土粒(1mm以下)と褐色土の混合土
  - 5 黑褐色土 細り有、ローム粒(3~10mm)多く、粘土粒(1~3mm)少し含む
  - 6 緑褐色土 細りやや有、ローム粒(1~5mm)様多く含む
  - 7 緑褐色土 細り有、細い、ローム粒(1mm以下)様少く含む
  - 8 黑褐色土 細り有、細い、ローム粒(1~3mm)やや多く、斑状ソフローロム(1mm大)多く含む
  - 9 黑褐色土 細りやや有、ローム粒(1mm)少し含む
  - 10 黑褐色土 細り有、細い、ローム粒(1~3mm)多く、ローム粒(5mm)様多く含む
- E-E'
- 1 淡土、淡褐色土ロームブロック(~5cm大)の混合土
  - 2 緑褐色土 細り有、ロームブロック・粘土ブロック(1cm大)少く、燒土(生焼け)多く含む
  - 3 緑褐色土 どよりプロック(1cm大)の混合土、ローム粒(1~3mm)様多く含む
  - 4 黑褐色土 細り有、ローム粒(1~3mm)多く含む
  - 5 黑褐色土 細り有、ローム粒(1mm)多く含む
  - 6 黑褐色土 細り有、ロームブロック(3cm大)多く含む
  - 7 黄褐色土 細りやや有、ロームブロック主体、黑色土混入
  - 8 黑褐色土 細り有、ローム粒(1~3mm)様多く、焼土粒(1~3mm)少し含む
  - 9 黑褐色土 細り有、8mmに幅広い土ブロック(1~3cm大)混入
  - 10 黄褐色土(やや明るい) 細り有、ローム粒(1~3mm)多く含む
  - 11 緑褐色土 細り有、細い、ロームブロック(1cm)と2色土の混合土
  - 12 黑褐色土ピッタ基の混合土 細り有
- F-F'
- 1 緑褐色土 細りやや有、黄土から囲まれる、ローム粒(1~5mm)多く含む
  - 2 黑褐色土 細り有、ローム粒(1mm)少し含む
  - 3 黑褐色土 細り有、ローム粒(1~3mm)少し含む
  - 4 黑褐色土 細り有、ロームブロック(1~3cm大)少し、ローム粒(1~3mm)多く含む
  - 5 緑褐色土 細り有、細い、ローム粒(1~3mm)多く含む
  - 6 黑褐色土 細りやや有、ロームブロック(3~10cm大)・ローム粒(1~3mm)多く含む、天地造された土
  - 7 黑褐色土 細り有、ローム粒(1cm大)少し、ローム粒(1~3mm)多く含む
  - 8 黑褐色土 細り有、細い、ローム粒(1~3mm)多く含む
  - 9 黑褐色土 細りやや有、ローム粒(1~2mm)多く含む
  - 10 黑褐色土 6mm以上やや色變る
  - 11 淡土色 細り有、ローム粒(1mm)多く含む
  - 12 黑褐色土 細り有、ロームブロック(1cm大)少し、ローム粒(1~3mm)やや多く、炭(1mm)少し含む、別道構、薄い土粒土

第35図 松山遺跡第55地点掘立柱建物跡・土坑・溝 (1/60)

## H40号住居跡出土遺物

1～3は須恵器環形土器。1は、大略完形。口径12.5cm、器高3.8cm、底径6.3cm。底部は回転糸切りのみ。白色針状物質を含む比企窓跡。内外面は滑らかに調整。外面中央部に幅4mmのロクロ凹みがある。色調暗褐色。2は、現存1/2。口径12cm、器高3.7cm、底径7cm。底部は回転糸切りのみ。白色針状物質を含む。色調青灰色。2～3mmの石英など砂粒を含む。内外面の調整は滑らか。全体に厚ぼったい。3は、口径12cm(1/8現存)、底径7.0cm、器高3.8cm。口唇部先端が緩くつまみだし外溝する。外面は非常に滑らかで、ロクロ痕の凹凸はない。胎土は非常に精錬され、白色針状物質を含む。色調暗黄色。

4は、須恵器楕円形土器。口径(現存1/8)14.8cm、底径8.0cm、器高6.3cm。底部回転糸周辺部回転糸切り離し、周辺部回転ヘラ削り調整。内面下半部、外面下半部ともにロクロ痕が著しい。上半部は滑らか。白色針状物質を含む。色調灰白色。

第24表 松山遺跡第55地点土坑一覧表(単位cm)

No.	平面形態	確認面	底面	深さ	備考
土坑1	不明	75×(37)	57×(33)	39.0	
土坑2	不明	(50)×(48)	(16)×(13)	68.9	

5は、コの字口縁の武藏型甕。口径(現存1/10)20cm。口唇部～12mm下まで強い横ナデで、その下は指頭の圧痕、さらにその下方に横位ヘラ削り。白色の砂粒を混じる。6・7は小形台付き甕。6は口径(現存1/12)11.8cm。コの字口縁で、コの字部分は全体に横ナデ。胴部は上半が横位の、下半が斜め下方にヘラ削り。7は口縁部が欠け、6と同じ整形だが、同一個体ではない。内外面にカーボンがこびりついている。

8は、覆土中から出土した石鐵。石質は、チャートで完形。両側面は一直線で、側面の長さは2cm。幅は、13mm、厚みは、3.5mm。Uの字状の抉り長は、3mm。左側面には、第一次剥離面が残る。

## 土坑1出土遺物

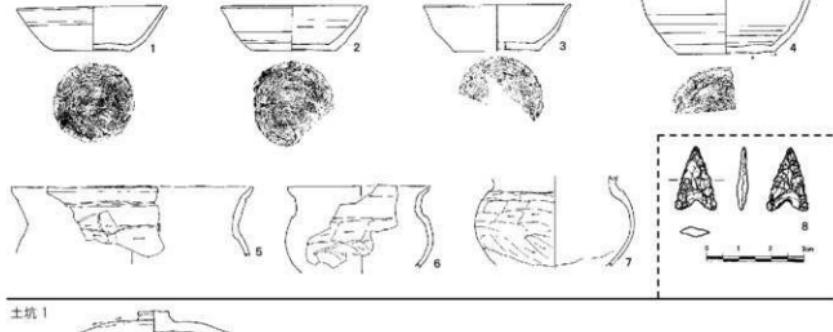
1は須恵器蓋形土器、口径(現存1/3)18.3cm、高さ3.2cm。色調暗青色白色針状物質を多量に含む。3mm程度の石英等を含む。上面に回転糸切りにより切り離し痕、上面・図の矢印の範囲は周辺部回転ヘラ削り調整痕あり。

第25表 松山遺跡第55地点掘立柱建物跡ピット一覧表

(単位cm)

No.	平面形態	確認面	底面	深さ	備考
P1	長方形	106×83	70×21	29.4	
P2	方形	100×90	30×24	78.7	
P3	方形	120×97	91×80	56.4	
P4	長方形	127×96	66×47	68.9	
P5	不明	94×(90)	9×6	65.7	
P6	不明	95×(39)	80×(25)	46.6	
P7	不明	67×(25)	48×4	31.1	

## H40号住居跡



第36図 松山遺跡第55地点H40号住居跡・土坑1出土遺物(2/3・1/4)

## 第6章 東久保遺跡の調査

### I 遺跡の立地と環境

東久保遺跡は入間川の支流新河岸川に注ぐ福岡江川の谷頭部から、約500～1,000m程下った右岸に位置している。標高17～20mで現谷底との比高差は3～4mを測る。福岡江川の左岸の南面は急傾斜を成す。本遺跡をのせる右岸の台地は県道東大久保・大井線を境に南北および西側に緩やかに傾斜する。遺跡の南側縁には用水路が流れおり、用水路以前にも流水があったものと考えられる。

遺跡周辺は急激な市街化によって工場や住宅、市立亀久保小学校が建ち、区画整理事業が実施され今後更に開発が予想される。

周辺の遺跡は、本遺跡と福岡江川の間に平安時代の遺物を出土する江川東遺跡が位置する。西側約50mに江川南遺跡、南側に隣接して亀久保堀跡遺跡が位置する。本遺跡の調査は1976年以來2013年12月現在、70地点で試掘調査および発掘調査を行っている。これまでの調査で、旧石器時代疊群、縄文時代の落とし穴・土坑・集石土坑など、中世は溝や柵跡が確認されている。

### II 東久保遺跡第69地点

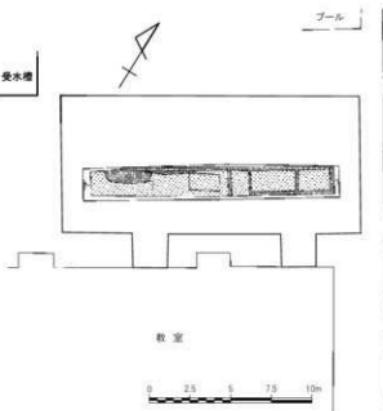
#### (1) 調査の概要

調査は小学校増築に伴うもので、ふじみ野市長より「埋蔵文化財事前協議書」が2010年12月1日付け

で市教育委員会に提出された。申請地は遺跡の東部に位置するため、原因者と協議の結果、遺構の存在を確認するために試掘調査を実施した。

試掘調査は2011年3月28日に行った。幅約2mのトレンチ1ヶ所を設定し、重機で表土除去後に表面精査を行ったが遺構遺物は確認されなかった。

遺構確認面までの深さは約150cmである。旧石器時代の確認調査は行っていない。写真撮影・全測図作成等記録保存を行ったうえ埋め戻し、調査を終了した。



第38図 東久保遺跡 第69地点調査区域図（1/300）



第37図 東久保遺跡の地形と調査区（1/4,000）

## 第7章 駒林遺跡の調査

### I 遺跡の立地と環境

駒林遺跡は、亀居遺跡付近を湧水源とする福岡江川の右岸、武藏野台地の一段低い立川段丘面に立地し、標高 12 ~ 15 m 前後の平坦地を形成する。もともと遺跡の範囲は南北 300 m、東西 800 m の範囲であったが、2002 年から 2004 年に行なった駒林土地区画整理事業に伴う試掘調査の結果、大溝を検出した南北 160m、東西 80m の範囲に遺跡を縮小し、さらに地下式坑を検出した周辺を駒林新田前遺跡として独立させ、新たな包蔵地として 2004 年 3 月に追加した。第 3 地点で検出した溝と過去の試掘調査で検出した溝の配置を再検討した結果、一辺 140 ~ 160m の台形区画に溝が巡る事が明らかとなり、2008 年 2 月に遺跡範囲の変更増補を行なった。区画整理後は開発が進み、宅地と商業地に変貌を遂げ部分的に煙が残っている。

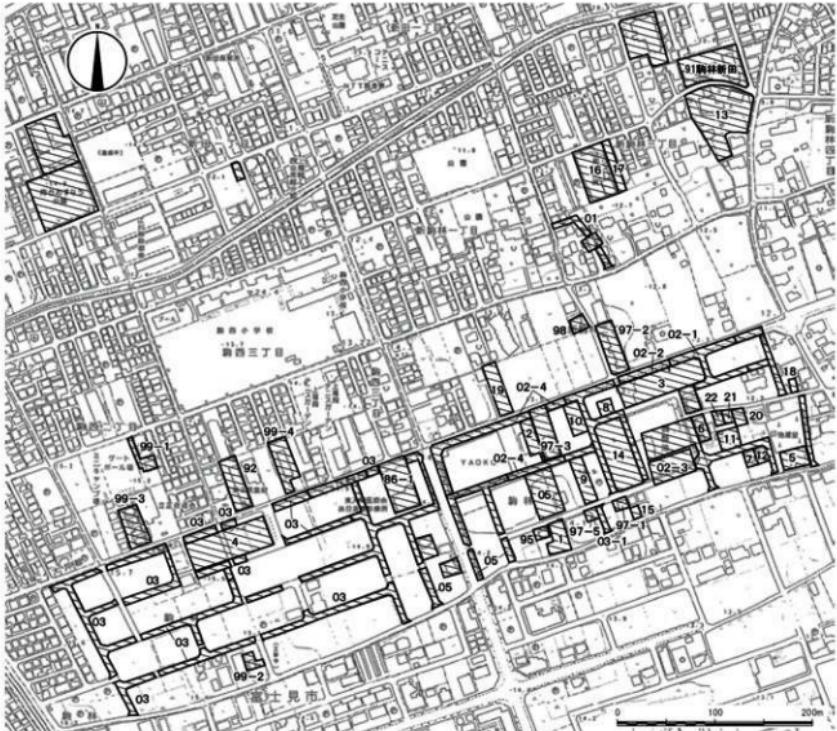
周辺の遺跡は、北側に葺石と板碑を検出した駒林中世墳墓、東側に地下式坑を検出した駒林新田前遺跡、500m 下流に福岡新田遺跡、南側にも地下式坑を検出した富士見市の稻荷久保北遺跡がある。2002 年以降の試掘調査の結果、幅 5 m、深さ 2 m の大溝や茶毬跡、縄文時代の集石土塁等を検出する。

### II 駒林遺跡第 11 地点

#### (1) 調査の概要

調査は個人住宅の建設に伴うもので、原因者より「埋蔵文化財事前協議書」が 2010 年 3 月 1 日付けでふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は遺跡の南東部に位置するため、申請者と協議の結果、遺構の存在を確認するために試掘調査を実施した。

試掘調査は同年 4 月 12 日から 21 日まで、幅約 1



第 39 図 駒林遺跡の地形と調査区 (1/5,000)

~1.5 mのトレンチ4本を設定し、重機で表土除去後、人力による表面精査を行った。遺構らしき覆土3ヶ所を検出したので確認したが、遺物の出土はなく、時期不明のピットであった。遺構確認面までの深さは約60 cmである。写真撮影・全測図作成等記録保存を行い、

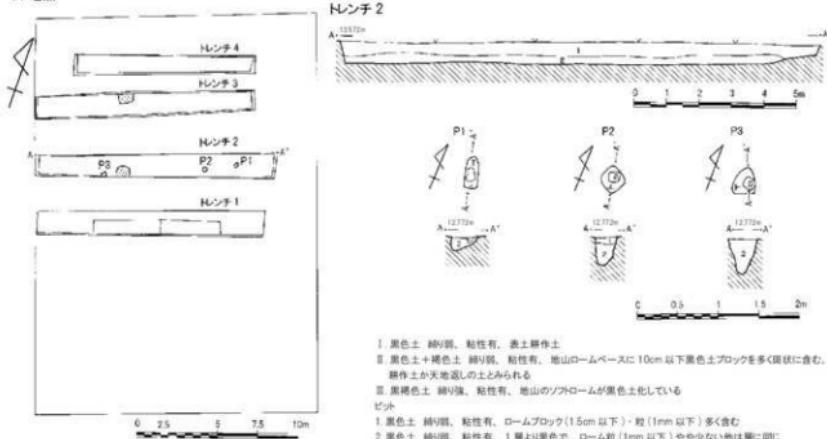
埋め戻して調査を終了した。旧石器時代の確認調査は行っていない。

## (2) 遺構と遺物

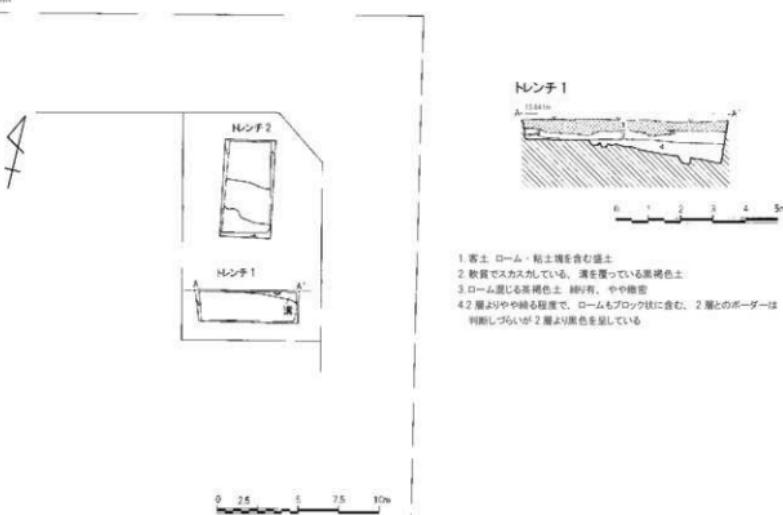
### ①ピット

3基検出した。出土遺物なく時期不明。

11地点



12地点



第40図 駒林遺跡第11・12地点遺構配置図(1/300)、土層図(1/150)、ピット(1/60)

### III 駒林遺跡第12地点

#### (1) 調査の概要

調査は個人住宅の建設に伴うもので、原因者より「埋蔵文化財事前協議書」が2010年7月2日付けてふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は遺跡の南東部に位置するため、申請者と協議の結果、遺構の存在を確認するために試掘調査を実施した。

試掘調査は同年7月14日を行い、幅約2mと3mのトレーナーを1本ずつ設定し、重機で表土除去後、人力による表面精査を行った。遺構らしき覆土を検出したので確認した結果、調査区東側の5地点で検出した大溝と連続する可能性のある東西方向の溝であった。遺構確認面までの深さは約90cmであり、30cmの保護層が確保できるため、遺構保存を行うこととした。写真撮影・全測図作成等記録保存を行い、埋め戻して調査を終了した。旧石器時代の確認調査は行っていない。

#### (2) 遺構と遺物

##### ①溝1

東西方向に位置する。大溝として東側の第5地点の溝に続くと思われる。上幅7m、深さは確認していない。ロームブロックが混入する黒色土で覆われる。

### IV 駒林遺跡第13地点

#### (1) 調査の概要

調査は共同住宅建設に伴うもので、原因者より「埋蔵文化財事前協議書」が2009年11月9日付けてふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は遺跡の北東部に位置するため、申請者と協議の結果、遺構の存在を確認するために試掘調査を実施した。

試掘調査は2010年7月27日から29日まで、幅約1.5mのトレーナーを5本設定し、重機で表土除去後、人力による表面精査を行った。遺構らしき覆土を検出したので確認した結果、柵列状に並ぶピット群や土坑であった。土坑からは瓦や鉄滓が出土した。遺構確認面までの深さは約100~130cmであり、30cmの保護層が確保できるため、遺構保存を行うこととした。写真撮影・全測図作成等記録保存を行い、埋め戻して調査を終了した。旧石器時代の確認調査は行っていない。

#### (2) 遺構と遺物

##### ①土坑

2基検出した。土坑2は平面長方形を呈し、暗褐色

土と黒褐色土が薄い層をなして堆積する。近世丸瓦と製鉄関連の炉壁片出土。

##### ②ピット

11基検出した。縦りのある黒褐色土で埋まり、柵列状で南北方向に並ぶ。

第26表 駒林遺跡第11地点 ピット一覧表(単位cm)

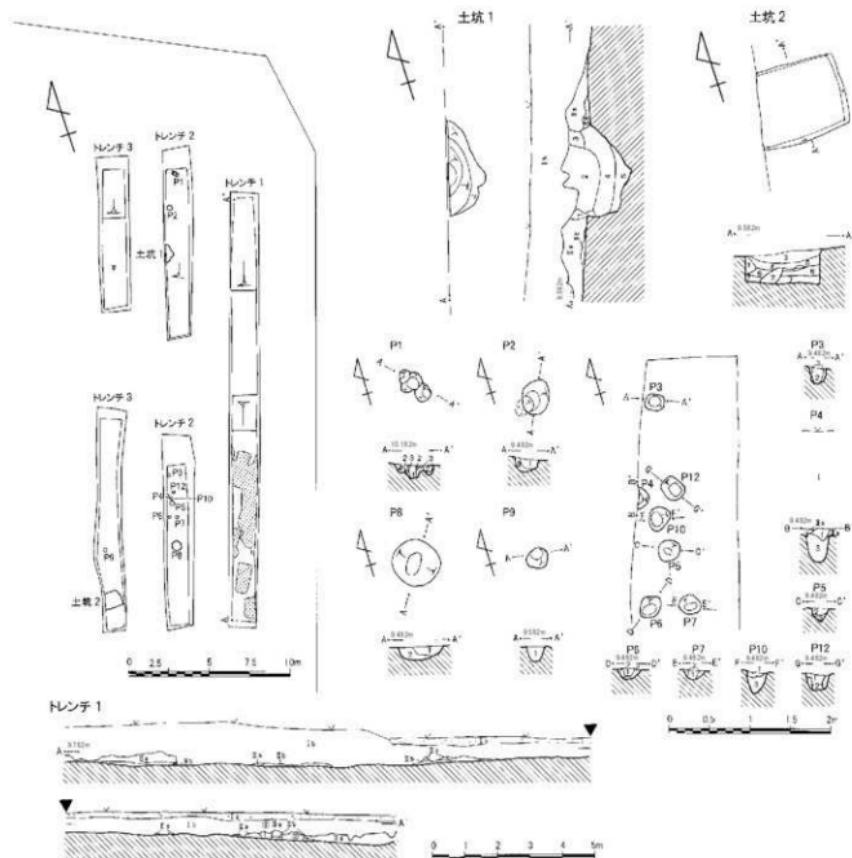
No.	平面形態	確認面	底面	深さ	備考
P1	楕円形	39×16	19×12	23.8	
P2	方形	29×28	8×4	35.6	
P3	方形	33×(24)	7×5	49.0	

第27表 駒林遺跡第13地点 土坑一覧表(単位cm)

No.	平面形態	確認面	底面	深さ	備考
土坑1	不明	(118)×(46)	(27)×(9)	57.1	
土坑2	長方形	(109)×97	(102)×88	45.3	

第28表 駒林遺跡第13地点 ピット一覧表(単位cm)

No.	平面形態	確認面	底面	深さ	備考
P1	不整形	50×31	15×14	25.6	
P2	方形	42×33	11×9	35.2	
P3	方形	25×20	15×13	30.5	
P4	不明	(28)×(13)	(12)×(5)	31.3	
P5	方形	27×27	10×8	16.9	
P6	方形	26×26	19×12	16.2	
P7	円形	28×23	17×10	15.2	
P8	方形	58×55	30×16	20.7	
P9	方形	27×26	14×13	24.5	
P10	方形	30×23	18×14	37.2	
P11	欠番				
P12	方形	28×26	15×14	31.1	



1) 表土 深色砂石層  
2) 表土 黒褐色土 細り強。粘性有、ロームブロックを多く含む(北半は少な目)  
3) 自然堆積層 暗褐色土 細り強。粘性有、粒度の含有物をほとんど含まない  
4) 自然堆積層 因オリーブ色 細り強。粘性有、樹枝状もしくは圓柱状コーム土が混ざり、鈍い色味がある

(1) 黒褐色土 細り強。ローム粒・焼土(1mm以下)少し含む  
土坑 1

1) 黑褐色土 細り強。ソフカーモ土を2cm以上に少し含む  
2) 黑褐色土 細り強。明る黒褐色土粒(2~10mm)・赤褐色土粒(2~5mm)・炭化物(5~10mm)少し含む

3) 黑褐色土 細り強。含み物は少なく、ローム粒(1mm以下)僅かに含む  
4) 黑褐色土 細り強。2層より黒褐色強く、ローム粒・焼土・炭化物(5mm以下)、灰色粘土(10mm大)僅かに含む

5) 黑褐色土 細り強。表面に層厚1cmの黄褐色土、以下黒褐色土と暗褐色土が層厚1~2cm程度で互層を成す  
土坑 2

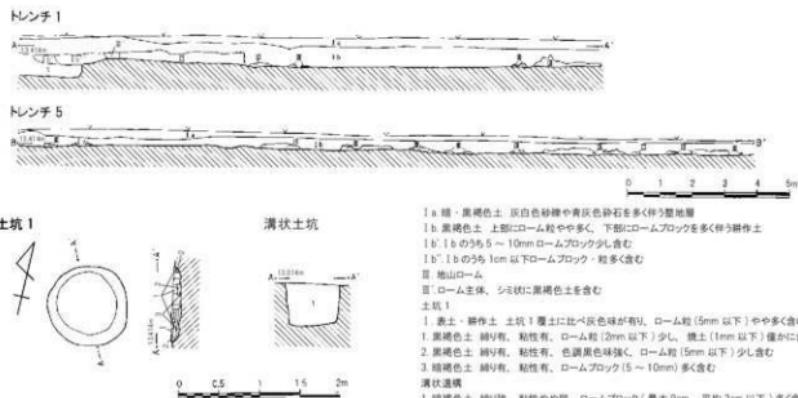
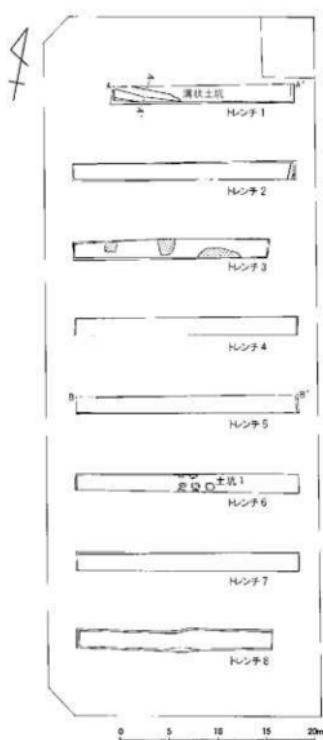
1) 黑褐色土 細り弱。粘性弱、粒状(5mm以下)の土が多く、ボンボンしている  
2) 黑褐色土 細り弱。粘性弱。ローム粒少し含む  
3) 暗褐色土 細り強。水無な赤・深褐色土層(層厚2~3mm)を複数枚挟む。4層以下に比べやや薄い

4) 暗褐色土 細り強。3層より色調異なる。赤褐色土層(層厚5mm)を下部に挟む。黒褐色土は無い  
5) 黑褐色土 細り強。含み物少ない。ローム粒僅かに含む  
6) 黑褐色土ベース 細り強。深い段階にローム土を多く含む

5) 黑褐色土 細り弱。黒褐色土の薄層  
6) 黑褐色土 細り強。ほぼ水平な赤褐色土層(層厚2~3mm)を複数枚挟む  
7) 黑褐色土 細り強。最も上部に黒褐色土(層厚3~4cm)があり全体に色調均一。黒褐色土の下に赤褐色土(層厚5mm程度)を断続的に含む。立ち上がり付近はボンボンしている

- ピット 1・2
  - 1) 黑褐色土 細り強。液状状にはローム土少し含む
  - 2) 黑褐色土 細り強。ローム土を含む色調均一
  - 3) 因オリーブ色 細り強。ローム土・黒褐色土を斑状に含む
  - 4) 黄褐色土 細り弱。ローム土主張
  - ピット 3~5・10
    - 1) 黑褐色土 細り強。色調明るめローム粒(5mm以下)や中多く含む
    - 2) 黑褐色土 細り強。粒形はつきじたローム粒(5mm以下)多く含む
    - 3) 黑褐色土 細り強。2層に似るが、ローム粒の他にブロック(1~6cm)も多く含む
    - 4) 黑灰土 細り強。ローム土・粘土多く含む
    - ピット 6~7・9~12
      - 1) 黑褐色土 細り強。ローム粒僅かに含む
      - 2) 黑褐色土 細り強。ソフカーモ土をやや多く含む
      - 3) 黑褐色土 細り弱。斑状ロームブロック多く含む
      - ピット 8
        - 1) 暗褐色土 細り強。含み物少ない。ローム粒僅かに含む
        - 2) 黑褐色土ベース 細り強。深い段階にローム土を多く含む

第 41 図 胸林遺跡第13地点遺構配置図(1/300)、土層図(1/150)、土坑・ピット(1/60)



第42図 駒林遺跡第14地点遺構配置図(1/500)、土層図(1/150)、土坑・溝状土坑(1/60)

### V 駒林遺跡第14地点

#### (1) 調査の概要

調査は公園工事に伴うもので、駒林土地区画整理組合より「埋蔵文化財事前協議書」が2010年5月20日付けでふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は遺跡の中央部に位置するため、申請者と協議の結果、遺構の存在を確認するために試掘調査を実施した。

試掘調査は2010年9月1日から8日まで、幅約2mのトレンチを8本設定し、重機で表土除去後、人力による表面精査を行った。遺構らしき覆土を検出したので確認した結果、時期不明の土坑1基と、近世以降の溝状土坑（イモビツ）であった。遺物の出土はない。遺構確認面までの深さは約50cmである。写真撮影・全測図作成等記録保存を行い、埋め戻して調査を終了した。旧石器時代の確認調査は行っていない。

#### (2) 遺構と遺物

##### ① 土坑1

調査区中央南寄りに位置する。平面形態は円形で上端規模98×97cm、下端77×74cm、確認面からの深さ11cmである。出土遺物なく、時期不明。

## VI 駒林遺跡第15地点

### (1) 調査の概要

調査は個人住宅の建設に伴うもので、原因者より「埋蔵文化財事前協議書」が2010年12月28日付けでふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は遺跡の南東部に位置するため、申請者と協議の結果、遺構の存在を確認するために試掘調査を実施した。

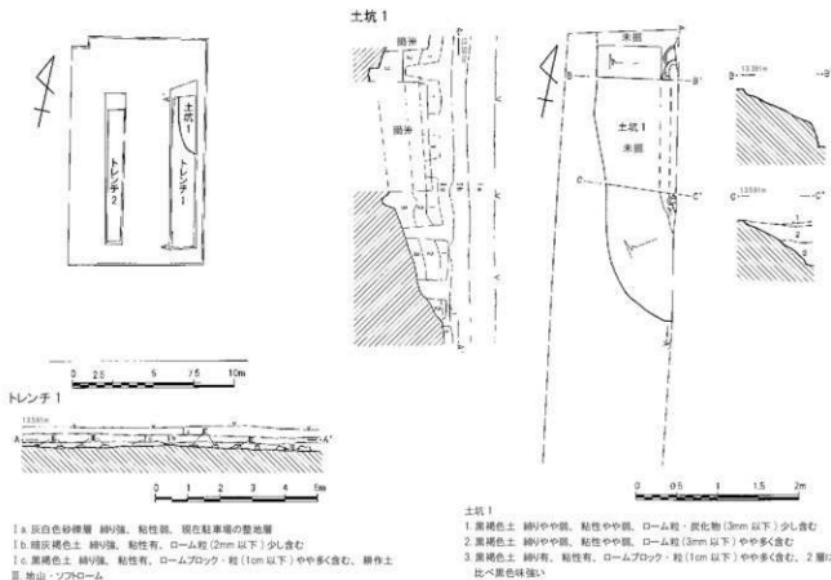
試掘調査は2011年2月16日から17日に、幅約1mと1.5mのトレンチを1本ずつ設定し、重機で表土除去後、人力による表面精査を行った。遺構らしき覆土を検出したので確認した結果、土坑もしくは溝であった。遺構確認面までの深さは約70cmであり、30

cmの保護層が確保できるため、遺構保存を行うこととした。写真撮影・全測図作成等記録保存を行い、埋め戻して調査を終了した。旧石器時代の確認調査は行っていない。

### (2) 遺構と遺物

#### ① 土坑1

調査区北西部に位置する。北と東は調査区域外のため平面形態は不明だが、端部は梢円形を呈する。溝の可能性もある。検出した上端規模南北357cm×東西103cm～、下端182cm～、確認面からの深さ92cmである。出土遺物はないが、時期はおそらく中世以前。



第43図 駒林遺跡第15地点遺構配置図(1/300)、土層図(1/150)、土坑(1/160)

## 第8章 東中学校西遺跡の調査

### I 遺跡の立地と環境

東中学校西遺跡は入間川の支流新河岸川に注ぐ福岡江川とさかい川の間の標高は 20.0 ~ 21.0 m の低位台地に位置する。現在は平坦であるが、区画整理事業以前は遺跡の北側に、西から北東側にかけて埋没河川(現在用水路)が流れ、東側には僅かな窪地もみられた。遺跡は埋没河川と窪地の縁に位置するが、遺構は埋没河川からやや離れた遺跡の中央部から西部にかけて分布する。周辺の遺跡は、前述した埋没河川を隔てた北側約 50 m に東久保西遺跡、南東に東久保南遺跡が隣接する。

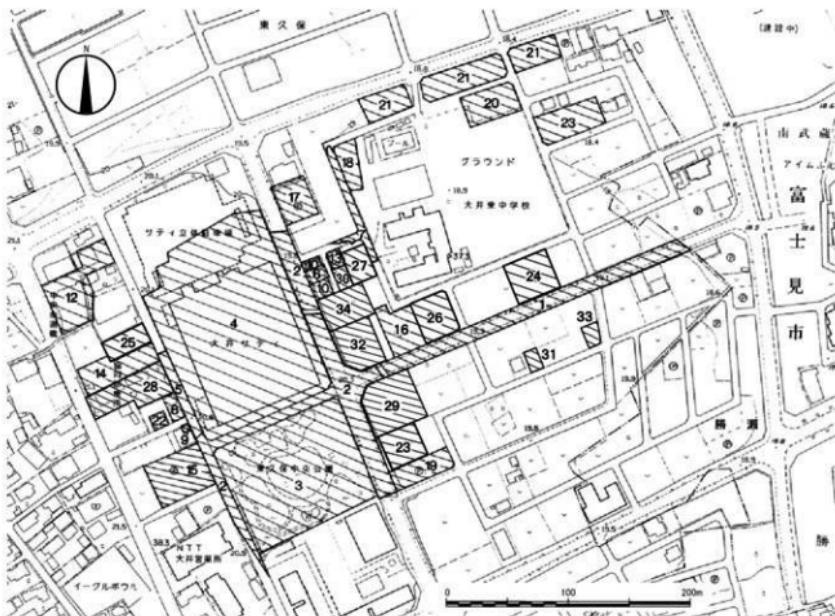
遺跡の時期は縄文時代では早期の炉穴群、縄文時代中期前葉の屋外埋甕、落とし穴や集石土坑などを検出している。中・近世では墓壙・溝・柵列などが確認されている。本遺跡の調査は 1995 年以来 2013 年 12 月現在、34 ケ所で試掘調査および発掘調査が行われている。

### II 東中学校西遺跡第 34 地点

#### (1) 調査の概要

調査は宅地造成に伴うもので、原因者より「埋蔵文化財事前協議書」が 2010 年 12 月 27 日付けでふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は遺跡中央に立地しているため、申請者と協議の結果、遺構の存在を確認するために試掘調査を実施した。試掘調査は 2011 年 2 月 2 日から 3 日まで行った。幅約 1.5 m のトレチチを 3 本設定し、重機による表土除去後、人力による表面精査を行った。

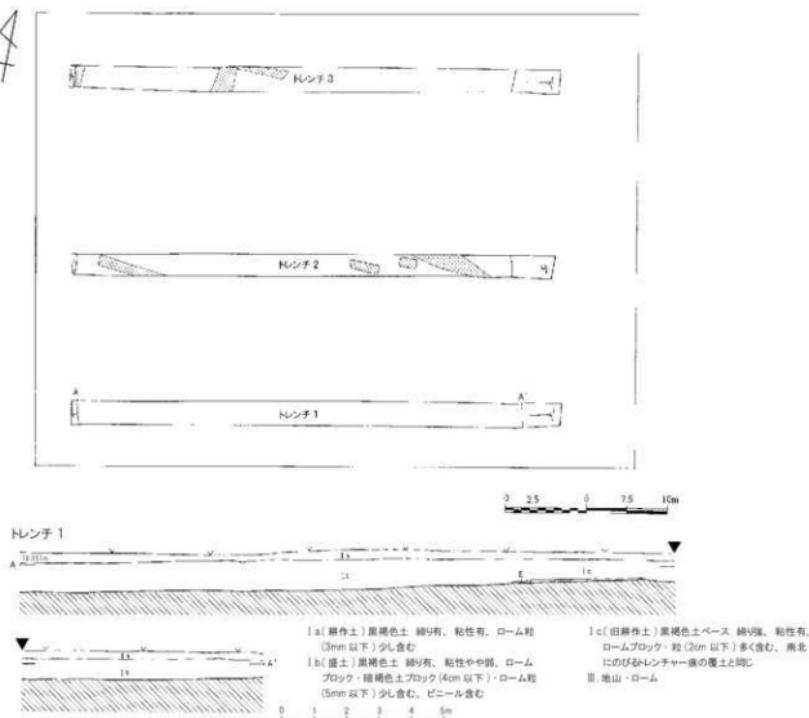
遺構・遺物を検出しなかったため慎重工事とし、写真撮影・平板測量による全測図作成等記録保存を行ったうえ埋め戻し、調査を終了した。遺構確認面まで 60 ~ 120 cm を測り、南側が深くなっている。なお、旧石器時代の確認調査はしていない。



第 44 図 東中学校西遺跡の地形と調査区 (1/4,000)

第29表 東中学校西遺跡調査一覧表

地点	所在地	調査期間 ( )は試掘調査	面積 (m <sup>2</sup> )	調査原因	確認された遺構と遺物	所取報告書
1 東久保 5511.526.531 他		1994.10.6 ~ 11.9	3,168	区画整理道路	縄文: 土坑 1、ピット 8	遺跡調査会報告第 14 集
2 亀久保 466-1 他		<A 区>1996.10.7 ~ 11.15			縄文早期: 炙穴 26、集石 土坑 1、落とし穴 4、土坑 2、 ピット 26。中近世の溝 5	遺跡調査会報告第 14 集
		<B 区>1996.12.12 ~ 17	3,308			
		<C 区>1997.3.5 ~ 19				
		<D 区>1997.6.12 ~ 19	1,168			
		<E 区>1997.7.8 ~ 8.8				
		<F 区>1996.1.18 ~ 31	880			
		<G 区>1996.1.25				
3 東久保 465.500 他		(1996.8.29 ~ 9.13) 1996.10.7 ~ 21	10,200	区画整理公園	縄文: 落とし穴 1、溝 1、 土坑 6、ピット 4、石礫 1	町内遺跡群Ⅵ・ 遺跡調査会報告第 14 集
4 東久保 326 他		(1997.2.6 ~ 10.29) 1997.6.12 ~ 8.8	24,681	店舗	縄文: 落とし穴 3、集石上 坑 2、屋外理便 1、近世: 土壤 1、溝 9、柵列 1、ピッ ト多数	町内遺跡群Ⅴ・Ⅵ・遺跡調 査会報告第 14 集
5 東久保 487-1.474-4 他		1997.6.12 ~ 7.24	688	区画整理道路	縄文早期: 炙穴 6、落とし 穴 1、溝 2、ピット 2	遺跡調査会報告第 14 集
6 亀久保 325-1.7.8.9		(1997.6.26 ~ 27)	136	事務所	遺構・遺物無し	町内遺跡群Ⅵ
7 東久保 402-1 他		1997.7.21 ~ 31	636	区画整理道路	柵列 1、ピット 5	遺跡調査会報告第 14 集
8 東久保 44 街区 13.14 両地		1997.8.5 ~ 9	252	個人住宅	縄文: 落とし穴 1、溝 1、 ピット 9、(落とし穴は第 5 地点で報告)	町内遺跡群Ⅵ
9 東久保 45 街区 2.3 南地		(1997.8.19 ~ 9.1)	325	個人住宅	溝 2、ピット 9	町内遺跡群Ⅵ
10 東久保 42 街区 1 両地		(1997.12.10 ~ 20)	135	店舗	遺構・遺物無し	町内遺跡群Ⅵ
12 東久保 44 街区 3.23.24 両地		(1998.1.6 ~ 24)	1,879	店舗	遺構・遺物無し	町内遺跡群Ⅵ
13 東久保 4 街区 12 両地		(1998.6.9 ~ 11)	218	専用住宅	ピット 1	町内遺跡群Ⅵ
14 東久保 44 街区 11.20.26 両地		(1998.6.23 ~ 26)	1,231	共同住宅	ピット 2、鳳凰木痕	町内遺跡群Ⅵ
15 東久保 45 街区 1.4.6 両地		(1998.8.17 ~ 24)	2,649	店舗専用駐車場	中世以降: ピット 2	町内遺跡群Ⅵ
16 東久保 42 街区 6 両地		(1998.8.17 ~ 31)	1,347	店舗専用駐車場	ピット 2	町内遺跡群Ⅵ
17 東久保 38 街区 7.8 両地		(1998.8.19 ~ 24)	1,131	店舗専用駐車場	縄文: 石礫 1	町内遺跡群Ⅵ
18 亀久保 319-1		(1999.2.8 ~ 24)	850	テニスコート	ピット 5、柵列 1	町内遺跡群Ⅵ
19 東久保 52 街区 8 両地		(1999.3.17)	944	ワゴン駐車場	遺構無し、陶器 2	町内遺跡群Ⅵ
20 東久保 39 街区 1 両地		(1999.6.16 ~ 7.19)	900	区画整理調整池	溝 1、ピット 26	町内遺跡群Ⅵ
21 東久保 37 街区 1 ~ 3 両地		(1999.11.18 ~ 12.9)	1,311	店舗	縄文: 土坑 1、溝 3、ピッ ト 23	町内遺跡群Ⅵ
22 東久保 44 街区 15 両地		(2000.3.7 ~ 9)	150	個人住宅	中世以降: 溝 1、ピット 5	町内遺跡群Ⅵ
23 東久保 33 街区 6 両地		(2003.5 ~ 13)	1,233	共同住宅	焼土跡 1、ピット 1	町内遺跡群Ⅵ
24 ふじみ野 4-1-6 の一部		(2005.5.24 ~ 30)	926	店舗	土坑 1	町内遺跡群Ⅱ
24 ふじみ野 4-9.5		(2005.6.20 ~ 7.7)	1,425	店舗	縄文時代早期: 炙穴 5	市内遺跡群 2
25 ふじみ野 1-1.9.10		(2005.6.28 ~ 7.2)	604	分譲住宅	遺構・遺物無し	市内遺跡群 2
26 ふじみ野 3-10.8 ~ 11		(2006.1.5 ~ 10)	1,060	店舗	遺構・遺物無し	市内遺跡群 2
27 ふじみ野 3-10.3 の一部-4		(2006.1.11)	120	個人住宅	遺構・遺物無し	市内遺跡群 2
28 ふじみ野 1 丁目 1-13.14.15.32.23		(2006.4.24 ~ 5.10)	1,568	共同住宅	遺構・遺物無し	市内遺跡群 3
29 ふじみ野 4-4 ~ 1		(2006.5.15 ~ 9.7.28 ~ 8.1)	2,004	店舗	縄文: 土坑検出	市内遺跡群 3
30 ふじみ野 3-10.13		(2006.7.3)	634	保育所	遺構・遺物無し	市内遺跡群 3
31 ふじみ野 3-13.4		(2008.2.14)	165	個人住宅	遺構・遺物無し	市内 4
32 ふじみ野 3-10.12		(2008.6.13 ~ 25)	1,231	分譲及び店舗	遺構・遺物無し	市内 6
33 ふじみ野 4-3.8 の一部		(2008.10.3)	215	個人住宅	遺構・遺物無し	市内 6
34 ふじみ野 3-10.6		(2011.2.2 ~ 4)	1,032	宅地造成	遺構・遺物無し	市内 10



第45図 東中学校西遺跡第34地点遺構配置図(1/300)、土層図(1/150)

## 第9章 東久保南遺跡の調査

### I 遺跡の立地と環境

東久保南遺跡は、入間川の支流新河岸川に注ぐさかい川の谷頭部から、約400～500m程下った左岸に位置している。標高19～21mで現谷底との比高差は1m以下でほぼ平坦である。現在は盛土されているが、東端には大雨の時に冠水して池になる崖地がみられた。さかい川は富士見市勝瀬字茶立久保付近に湧水源をもつ伏流水で現在は下水路となっている。なお、富士見市にも遺跡範囲は広がっており、同じ東久保南遺跡で登録され、同遺跡と接して「オトウカヤマ」と呼ばれる塚があり、1982年と1999年に富士見市教育委員会により試掘調査が実施されている。

周辺の遺跡はさかい川の対岸に縄文時代中期の大規模集落である西ノ原遺跡、さかい川下流には縄文時代中期後半の集落である中沢遺跡がある。

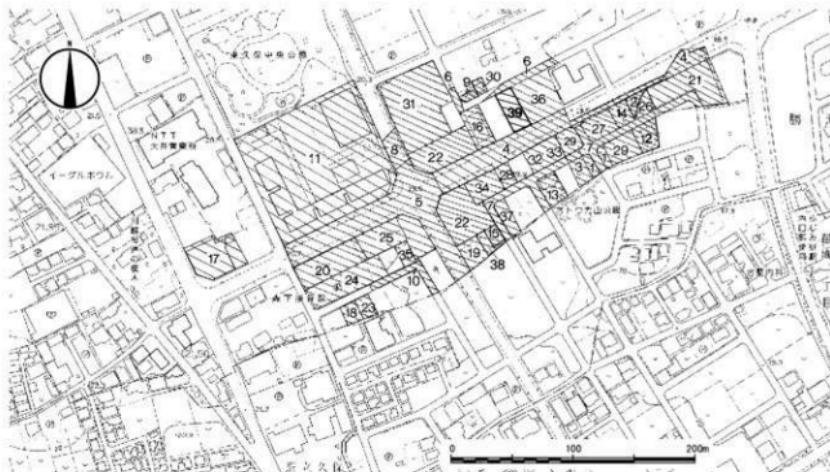
1981年以来2013年12月現在39ヶ所で調査が行われ遺跡全体の90%を調査し、縄文時代中期の住居跡2軒、奈良・平安時代の住居跡4軒（1軒は富士見市域内）、縄文時代の落とし穴・土坑・炉穴や時期不明の溝跡が確認されている。遺跡の現況は区画整理事業がほぼ完了し、町内でも開発が最も活発な地域である。

### II 東久保南遺跡第38地点

#### (1) 調査の概要

調査は個人住宅建設に伴うもので、原因者より「埋蔵文化財事前協議書」が2010年9月22日付けでふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は遺跡範囲の中央南端に位置しているため申請者と協議の結果、遺跡範囲と遺構の存在を確認するため試掘調査を実施した。

試掘調査は2010年10月13日に行った。幅約1.5×2mのグリッドを3ヶ所設定し、人力により表土除去と表面精査したが遺構の検出はなかった。縄文土器片、近世陶磁器片等が僅かに出土した。遺構確認面まで40cmを測る。写真撮影・平板測量による全測図作成等記録保存を行ったうえ埋め戻し、調査を終了した。なお、旧石器時代の確認調査はしていない。

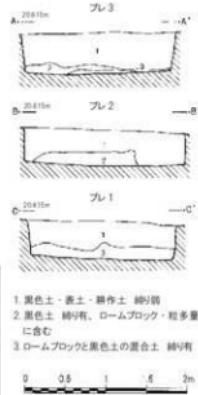
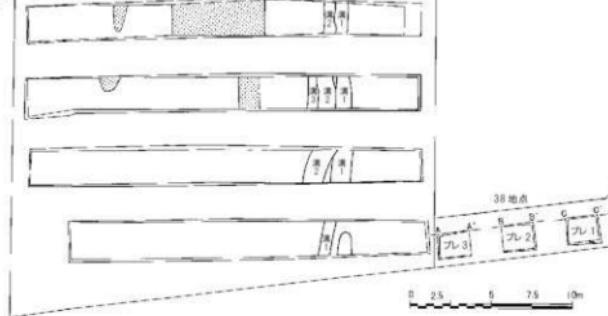


第46図 東久保南遺跡の地形と調査区(1/4,000)

第30表 東久保南遺跡調査一覧表

地点	所有地	調査期間 ( )	面積 (a)	調査原因	確認された遺構と遺物	所収報告書
1	久保字保留原 547	556.11.24 ~ 56.12.14	320	調査実地査定	溝 1 本、礫文土層、石器、瓦片、内耳穴 3 基	東京府跡研会
2	久保字保留原 546-2	558.3.30 ~ 58.2.2	264	往復踏査	ビット 1	東京府跡研会 V
3	久保字保留原 549-4	558.6.7 ~ 58.7.4	326	往復踏査	溝 1 本、礫文土層、瓦器 1 点	東京府跡研会 V
4	久保字保留原 1 他	65.1.21 ~ 6.3.18 65.9.26 ~ 6.11.22	1,680 444	区画整理道路 区画整理道路	溝文土層：住居跡 1 例、洗い穴 1 基、仰穴 3 基、土坑 8 基、ビット 37。平安：住居跡 1 例、 礫文土層等コナチ 1 頭、頭骨部、土解剖	大井跡調査会 14集
5	久保字保留原 1, 559, 560 他	65.9.26 ~ 6.12.19	2,500	区画整理道路	礫文：土坑 2 基、ビット 12、右斜 1 点、礫文土層	大井跡調査会 14
6	久保字保留原 1, 559, 560 他	65.8.17 ~ 8.2.21	680	区画整理道路	遺構、遺物無し。報告書では第 4 地点の続きとして記載	町内跡研会 V
7	久保字保留原 1, 559, 560 他	67.7.20 ~ 7.7.11 67.11.22 ~ 7.12.6	480	区画整理道路	礫文：土坑 3 基、ビット 24、溝 1 本、礫文土層部、陶器遺物	大井跡調査会 14集
8	久保字保留原 1, 559, 560 他	67.7.12 ~ 7.12.3	1,500	区画整理道路	溝文：洗い穴 1 基、土坑 39 基、ビット 60、近世：溝 6 基、礫文土層部、 ヘリコリド	大井跡調査会 14集
9	久保字保留原 1, 559, 560 他	68.8.23 ~ 8.8.26	360	区画整理道路	ヘリコリド	大井跡調査会 14集
10	久保字保留原 1, 559, 560 他	68.9.14 ~ 8.9.22	75	区画整理道路	溝文：土坑 7 基、ビット 48、礫文土層	大井跡調査会 14集
11	久保字保留原 1, 559, 560 他	69.8.1 ~ 8.7.36	225.02	個人住宅	礫文早期：仰穴 1 基、ビット 2、近世：溝 1 本	町内跡研会 V
12	久保字保留原 1, 559, 560 他	69.8.19 ~ 8.8.26	440	区画整理道路	ビット 1	大井跡調査会 14
13	久保字保留原 1, 559, 560 他	69.8.22 ~ 9.1.31	10,500	区画整理道路	初期平安：ビット 7、土坑 1 基、溝 8 基	町内跡研会 V
14	久保字保留原 1, 559, 560 他	69.8.28 ~ 9.5.16	446	個人住宅	溝文：洗い穴 1 基、平安：住居跡 1 例、土坑 1 基、渠路部・土解剖	町内跡研会 V
15	久保字保留原 1, 559, 560 他	69.9.15 ~ 9.6.7	1,500	区画整理道路	溝文：土坑 1 基、ビット 48、礫文土層	大井跡調査会 14集
16	久保字保留原 1, 559, 560 他	69.9.23 ~ 10.7.11	333	個人住宅	洗い穴 1 基、屋外洗い跡 2 基、土坑 1 基、ビット 4、溝 1 本	町内跡研会 V
17	久保字保留原 1, 559, 560 他	69.10.7 ~ 10.7.9	143	個人住宅	溝文：洗い穴 1 基	町内跡研会 V
18	久保字保留原 1, 559, 560 他	69.10.12 ~ 10.12.14	541	区画整理道路	遺構無し。礫文土層部	町内跡研会 V
19	久保字保留原 1, 559, 560 他	69.11.1.27 ~ 11.2.3	1,284	区画整理道路	ビット 9、溝 1 本	町内跡研会 V
20	久保字保留原 1, 559, 560 他	69.11.5.14 ~ 11.5.18	202	個人住宅	遺構、遺物無し。	町内跡研会 V
21	久保字保留原 1, 559, 560 他	69.11.7.8 ~ 11.7.12	466	個人住宅	遺構、遺物無し。	町内跡研会 V
22	久保字保留原 1, 559, 560 他	69.11.12.22 ~ 12.1.30	1,106	店・施設	遺構、遺物無し。	町内跡研会 V
23	久保字保留原 1, 559, 560 他	69.12.15 ~ 13.1.31	1,283	区画整理道路	遺構、遺物無し。水成堆積した墨跡を確認。	町内跡研会 V
24	久保字保留原 1, 559, 560 他	70.1.2.4 ~ 13.2.26	2,703	個人住宅・場所未定	溝文早期：土坑 1 基、ビット 14 基、洗い穴 1 基、 ビット 11、中世：溝 2 基、 土坑 1 基、土解剖	大井跡調査会 14
25	久保字保留原 1, 559, 560 他	70.3.3.7 ~ 13.3.8	208	個人住宅	遺構、遺物無し。	町内跡研会 V
26	久保字保留原 1, 559, 560 他	70.3.14.2 ~ 13.4.8	1,051	区画整理道路	遺構、遺物無し。	町内跡研会 V
27	久保字保留原 1, 559, 560 他	70.3.19.26 ~ 13.10.12	1,389	個人住宅・場所未定	遺構、遺物無し。	町内跡研会 V
28	久保字保留原 1, 559, 560 他	70.3.10.30 ~ 13.11.11	208	店・施設	遺構、遺物無し。	町内跡研会 V
29	久保字保留原 1, 559, 560 他	70.4.5.29 ~ 14.6.7	610	区画整理道路	遺構、遺物無し。	町内跡研会 V
30	久保字保留原 1, 559, 560 他	70.4.9.13 ~ 14.9.21	322	個人住宅	試掘調査、整地作業中	町内跡研会 V
31	久保字保留原 1, 559, 560 他	70.5.13.17 ~ 15.3.20	736	駁渠・場所未定	試掘調査後本調査、溝文中期：住居跡 1 例、土坑 12、土坑 3、奈良・平安：住 居跡 1 例、溝 3 基、礫文土層、石器、土解剖	大井跡調査会 14
32	久保字保留原 1, 559, 560 他	70.5.32.4 ~ 15.4.7	164	個人住宅	試掘調査、整地作業中	町内跡研会 V
33	久保字保留原 1, 559, 560 他	70.5.8.21 ~ 15.10.5	2,948	店・施設	試掘調査後本調査、溝文早期：溝 132、土坑 6 基、 ビット 19、溝 1 本、礫文土層	大井跡調査会 14
34	久保字保留原 1, 559, 560 他	70.5.15.9.29 ~ 16.1.29	289	店・施設	試掘調査、整地作業中	町内跡研会 V
35	久保字保留原 1, 559, 560 他	70.6.7.8 ~ 16.7.9	354	店・施設	試掘調査、整地作業中	町内跡研会 V
36	久保字保留原 1, 559, 560 他	70.6.16.7.8 ~ 16.7.12	555	区画整理道路	試掘調査、整地作業中	町内跡研会 V
37	久保字保留原 1, 559, 560 他	70.7.1.17 ~ 7.1.27	194	個人住宅	試掘調査、整地作業中	町内跡研会 V
38	久保字保留原 1, 559, 560 他	70.7.17.2 ~ 7.1.27	1,005	事務所建設	溝文：洗い穴 1 基、土坑 2 基（風削木腐）、溝 3 基、 礫文土層	大井跡調査会 14
39	久保字保留原 1, 559, 560 他	70.7.22.2 ~ 7.1.27	695	駁渠	遺構、遺物無し。	町内跡研会 V
40	久保字保留原 1, 559, 560 他	70.7.22.2 ~ 7.1.27	177	個人住宅	遺構なし。礫文土層部、近世陶器部	町内跡研会 V

19 地点(1999 年度調査)



1. 黒色土・表土・耕作土・耕作土  
2. 黒色土・紳士有・ロームブロック・多量に含む  
3. ロームブロックと黒色土の混合土・紳士有

第47図 東久保南遺跡第38地点調査区域図(1/300)、土層図(1/60)

## 第10章 西ノ原遺跡の調査

### I 遺跡の立地と環境

西ノ原遺跡は、東武東上線ふじみ野駅の南西約300m、さかい川の谷頭部から約500m下った右岸、標高18~21mに位置する。さかい川は現在の富士見市勝瀬字茶立久保付近に湧水源を持つ伏流水で、東から西へ流れて入間川の支流新河岸川に注ぐ。かつては水量も豊富であったと言われるが、現在は下水路となっている。西ノ原遺跡とさかい川との高低差は2~3mで、武蔵野台地縁辺で一段低い部分、さかい川が侵食によって作り出した低位台地上に立地する。

周辺の遺跡は、下流に中沢前遺跡が隣接し、さらに下流域には神明後遺跡、苗間東久保遺跡、淨禅寺跡遺跡等縄文時代の集落が存在する。さかい川対岸には東

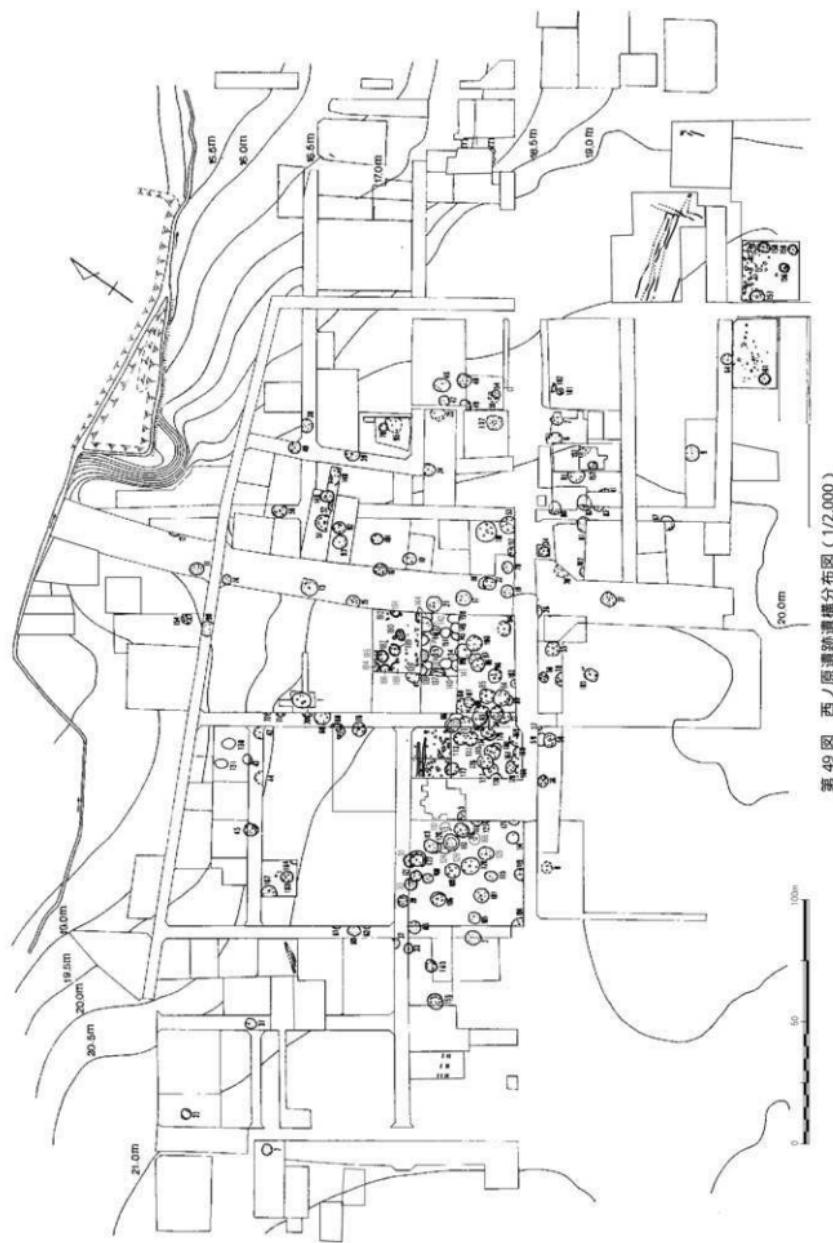
久保南遺跡と富士見市のオトカ山があり、その下流には縄文時代中期後半集落の中沢遺跡が広がる。

本遺跡は昭和40年代頃までは武蔵野の面影を残す農村地帯であったが、区画整理事業とふじみ野駅の開設により、ここ数年開発の増加に伴い遺跡の破壊が進んでいる。同時に発掘調査も遺跡面積10haの約40%が調査されてきている。1971年以来2013年12月現在で158地点に及ぶ調査で明らかになった遺跡の時期は、旧石器時代・縄文時代早期・中期・後期、平安時代・中世・近世である。特に縄文時代中期には、180軒を超す住居跡が環状集落として形成され、市内において東台遺跡と共に中期全般を通じ良好な大規模集落跡であったことがわかる。



第48図 西ノ原遺跡の地形と調査区(1/4,000)





第49図 西ノ原遺跡遺構分布図(1/2,000)



## II 西ノ原遺跡第145地点

### (1) 調査の概要

調査は事務所建設に伴うもので、原因者より「埋蔵文化財事前協議書」が2010年5月12日付でふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は遺跡の東部に位置するため、申請者と協議の結果、遺構の存在を確認するために試掘調査を実施した。

試掘調査は同年7月23日から8月25日まで、幅約1~2mのトレンチを15本設定し、重機で表土除去後、人力による表面精査を行った。調査の結果、近

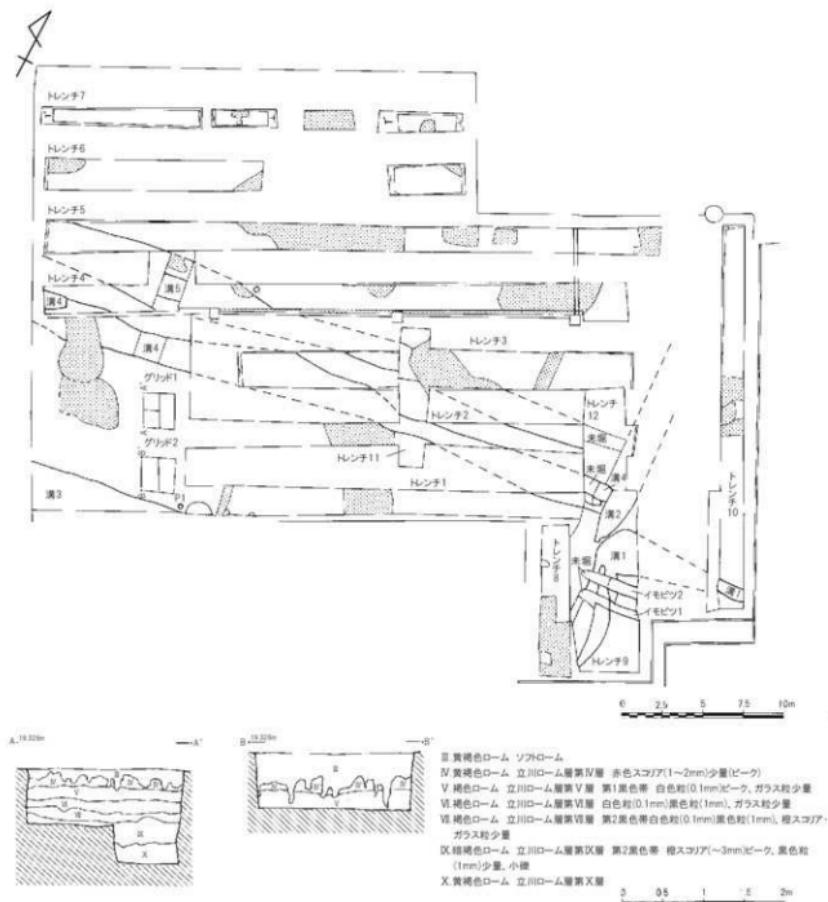
世遺構の溝5本を検出した。遺構確認面までの深さは約10~20cmである。旧石器時代の確認調査は行っていない。写真撮影・全測図作成等記録保存を行ったうえ埋め戻し、調査を終了した。

### (2) 遺構と遺物

#### ① 溝

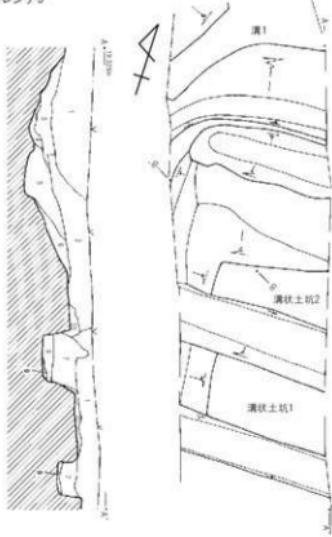
東西方向の溝と南北方向の溝を検出している。いずれも1957年以前の土地境と位置が一致しており、近世以降の土地境の溝である。

溝1は調査区南東部に位置する。南北方向9m、

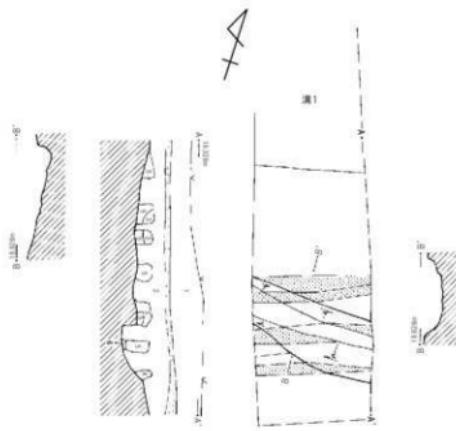


第50図 西ノ原遺跡第145地点 遺構配置図(1/300)、土層図(1/60)

トレーン9



トレーン10



溝1 潛1

- 1 黒褐色 地下に埋められた土、ローム粒(1mm)や多く含む
- 2 緑褐色 地下に埋められた土、ローム粒(1~3mm)多く含む
- 3 ロームブロック主体 細り有、黒色土少量
- 4 黒褐色土 細り有、ローム粒(1~3mm)少し含む
- 5 ロームブロック主体 細り有
- 6 緑褐色土 細り有、ロームブロック(1~3cm大)多く含む
- 7 緑褐色土 細り有、ロームブロック(1cm大)少し、ローム粒(～5mm)極多く含む
- 8 緑褐色土 細りやや有、ロームブロック(1cm大)少し、ローム粒(～5mm)多く含む
- 9 黒褐色土 細り有
- 10 黒褐色土ロームブロックの混合土、細り有

溝1 潜1

- 1 表土 コンクリートを入れた時に埋めた土、ローム・黒土・砂利
  - 2 表土・耕作土 黒褐色土 細り有、ロームブロック(1cm大)・ローム粒(5mm)多く含む、
- レーベル---

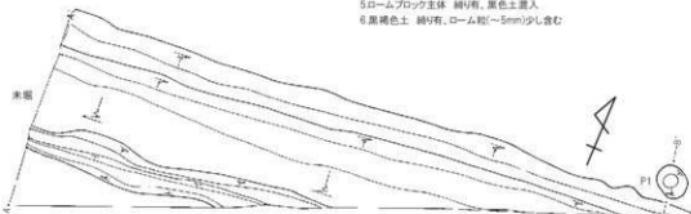
3 緑褐色土 細り有、ローム粒(5mm)多く含む

4 緑褐色土 細り有、ロームブロック(1cm大)多く含む

5 ロームブロック主体 細り有、黒色土混入

6 黒褐色土 細り有、ローム粒(～5mm)少し含む

溝3・ピット1



溝3

- 1 黒褐色土 硬く締まる、ローム粒(0.1mm)少し含む
- 2 緑褐色土 硬く締まる、ローム粒(1mm)少し含む
- 3 緑褐色土 硬く締まる、ローム粒(0.5mm)多く含む
- 4 黒褐色土 硬く締まる、ローム粒(1mm)多く含む
- 5 緑褐色土 細り有、ロームブロック(1cm大)多く含む
- 6 緑褐色土 硬く締まる、ローム粒(～1cm)多く含む
- 7 緑褐色土 硬く締まる、ロームブロック(1cm大)少し、ローム粒(～5mm)多く含む
- 8 黒褐色土 細り有、ローム粒(1mm)少し含む
- 9 緑褐色土 硬く締まる、ローム粒(～3mm)多く含む
- 10 黒褐色土 硬く締まる、ローム粒(～1mm)極多く含む

ピット1

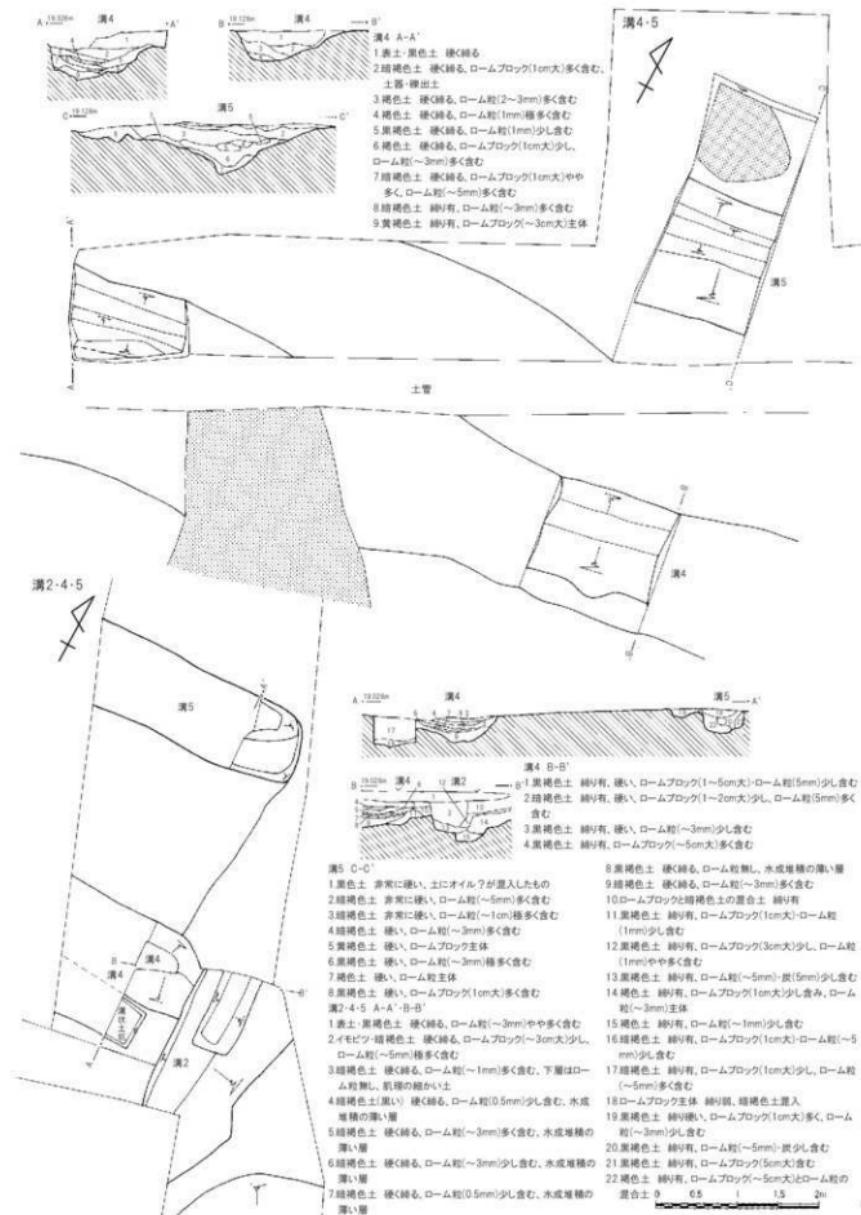
1 緑褐色土 細り有、ローム粒(～3mm)少し含む

2 暗褐色 地下有、ローム粒(～3mm)多く含む

3 緑褐色土 細り有、ローム粒(5mm)多く含む

0 0.5 1 1.5 2m

第51図 西ノ原遺跡第145地点溝・ピット(1/60)



第52図 西ノ原遺跡第145地点 満(1/60)

東西方向9m検出し、溝2の南端で直角に曲がる。南北方向の部分は「西ノ原公園」(1872年)で記載された村道と重なる。溝状土坑(イモビツ)に壊されている。溝の上幅は75~275cm、断面は「W」字状に溝の南北が低くなる。南側の1aより北側の1bの方が新しい。1aの下幅は18~35cm、深さは確認面から60cm、1bの下幅は25cm前後、深さは確認面から47cmである。

溝2は南北方向の溝で、北側の149地点で検出した溝1と連なる。「西ノ原公園」(1872年)で記載された村道と重なるが、この村道は紙を貼って消されている。溝4と溝5より古い。0.4m南にある溝1の直角部分が南端で北に向かう。溝の上幅は140cm、下幅は25cm前後、断面形状は東側が緩やかに立ち上がる「レ」字形で、深さは確認面から40cmである。

溝3は東西方向の溝で、調査区南西部に10m検出した。本調査区南側第67地点の溝に連なる。土地の境と重なる。溝の上幅は173~190cm、断面は「W」字状に溝の南北が低くなる。南側の1aより北側の1bの方が古い。1aの下幅は10~15cm、1bの下幅は15~33cm、溝1aと溝1bの間隔は110cmある。縄文土器が出土した。

溝4は土地境の南側に掘られた溝で溝5と2.1m離れて平行関係にある。調査区中央部に36m検出した。東端は溝2と重なる部分で立ち上がり、溝2より新しい。溝の上幅は150~235cm、下幅は35cm前後、断面形状は緩やかに立ち上がる「U」字形で、深さは確認面から26~36cmである。

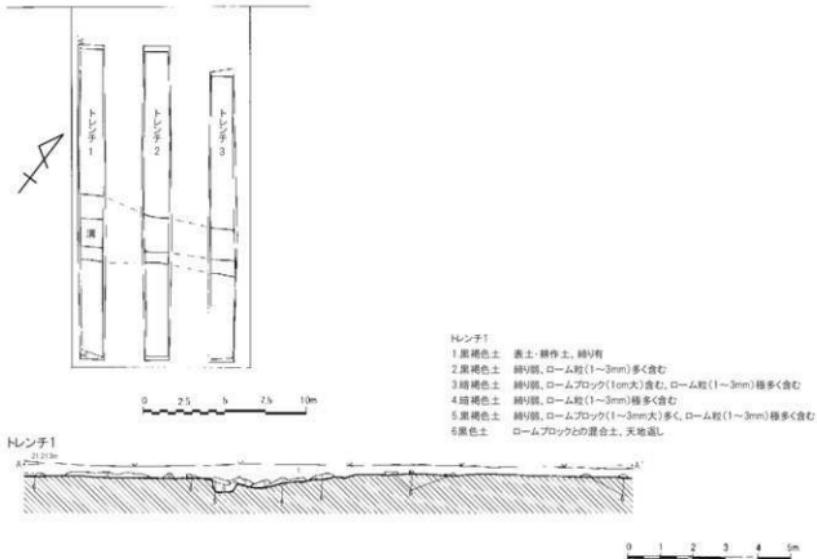
溝5は土地境の北側に掘られた溝で溝4と2.1m離れて平行関係にある。調査区中央部に38m検出した。東端は溝2と重なる部分で立ち上がり、溝2より新しい。溝の上幅は100~280cm、下幅は20~40cm前後、断面形状は緩やかに立ち上がる「V」字形で、深さは確認面から25~50cmである。

### III 西ノ原遺跡第146地点

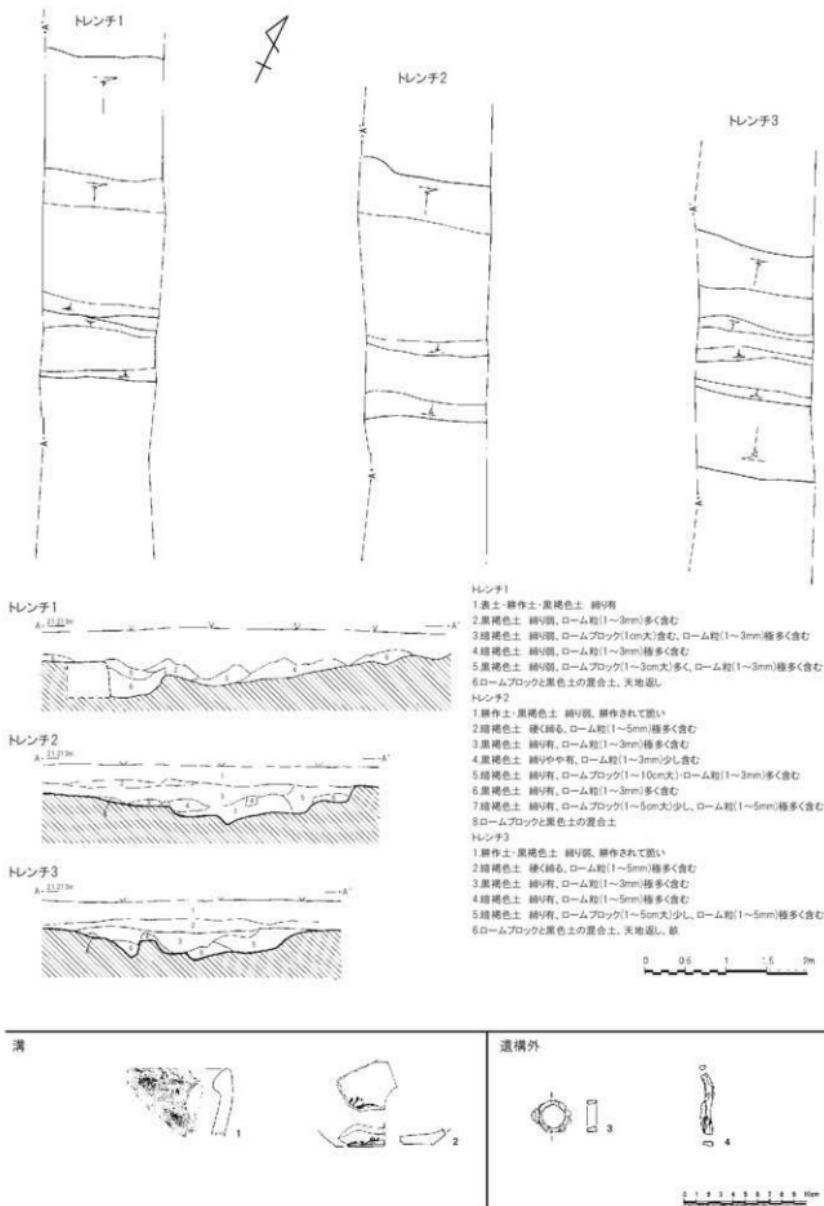
#### (1) 調査の概要

調査は分譲住宅建設に伴うもので、原因者より「埋蔵文化財事前協議書」が2010年8月30日付でふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は遺跡の西部に位置するため、申請者と協議の結果、遺構の存在を確認するために試掘調査を実施した。

試掘調査は同年10月8日から13日まで、幅約15mのトレンチを3本設定し、重機で表土除去後、人



第53図 西ノ原遺跡第146地点 遺構配置図(1/300)、土層図(1/150)



第54図 西ノ原遺跡第146地点溝(1/60)、出土遺物(1/4)

力による表面精査を行った。調査の結果、近世以降の溝2本を検出した。遺構確認面までの深さは約40cmであるが、溝より南側は1m近い深さまで天地返しされていた。旧石器時代の確認調査は行っていない。写真撮影・全測図作成等記録保存を行ったうえ埋め戻し、調査を終了した。

#### (2) 遺構と遺物

##### ① 溝

調査区中央で東西方向の溝を検出した。天地返しされた後に掘削された溝で、北側から南側の溝へ2~3回振り直されている。全体の上幅は2.8~4m、単体の溝幅は0.7~1.6m程度、表土からの深さは70cmほどである。近世陶磁器が出土する。近世以降の土地境の溝である。

##### 溝出土遺物

1は縄文時代中期の浅鉢口縁部。2は瀬戸・美濃産の太白手染付陶器皿。蛇ノ目凹形高台。19世紀後半。遺構外出土遺物

3はリング状の鉄製品。径26.6mm幅、8.4mm、厚さ2.7mm。4は鉄釘。

## IV 西ノ原遺跡第147・148地点

#### (1) 調査の概要

調査は両地点とも個人住宅建設に伴うもので、原因者より「埋蔵文化財事前協議書」が2010年11月18日付けでふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は遺跡の中央部西部に位置し周囲からは縄文時代中期の住居跡を多数検出するため、申請者と協議の結果、両地点合わせて遺構の存在を確認するために試掘調査を実施した。

試掘調査は同年12月8日から16日まで、幅約2mのトレンチを2本設定し、重機で表土除去後、人力による表面精査を行った。調査の結果、住居跡をはじめピットや土坑等多数の遺構を検出したため申請者と協議した。遺構確認面までの深さ130cm、工事は約30cm掘削であるが、地盤強化の補強杭打ち込みにより遺構の保存が困難なため、補助事業の対応で同年12月17日から翌2011年2月1日まで本調査を行った。縄文時代中期住居跡2軒、集石土坑2基、土坑4基、ピット71基、近世以降溝2条を検出した。旧石器時代の確認調査は行っていない。写真撮影・全測図作成等記録保存を行ったうえ埋め戻し、調査を終了した。

#### (2) 遺構と遺物

##### ① 172号住居跡

【位置・形状】147地点調査区の南端に位置する。第128地点で確認した172号住居跡の北半分を検出した。本調査で172号住居跡の全体を検出したことになる。13m東に75号住居がある。

過去調査分を合わせると平面形はほぼ円形を呈する。直径は4.4×5.0m、確認面からの深さ47cmである。

【炉】住居中央部に位置した埋甕炉である。128地点との境界際まで調査したが、炉の北半分のみの検出となった。土器は深鉢口縁部が正位に埋設される。炉の径は東西52cm、床面からの深さ18cm、炉体土器内側の覆土に焼土粒が多い。128地点の調査区では、床面に直径26~30cmの焼土面が広がる。

【周溝】上幅20cm前後、下幅12cm前後、床面からの深さ25cmの周溝が、住居跡西側に2.5m検出した。

【柱穴】新たに1基検出し、全体で4基になった。主柱穴と推定できる。

【時期】加曾利E I新式。

##### ② 75号住居跡

【位置・形状】148地点調査区の南東端に位置する。第49地点・第128地点で確認した75号住居跡の一部を検出した。本調査で75号住居跡の全体を検出したことになる。3軒の住居跡が重複し、本住居(75号)→77号住居→66号住居跡の順に新しくなる。13m西に172号住居がある。

過去調査分を合わせると平面形はほぼ円形を呈する。直径は推定で5.6~6m、確認面からの深さ28cmである。

【炉】住居中央部やや北寄りに位置した埋甕炉である。土器は底部が消失した深鉢である。

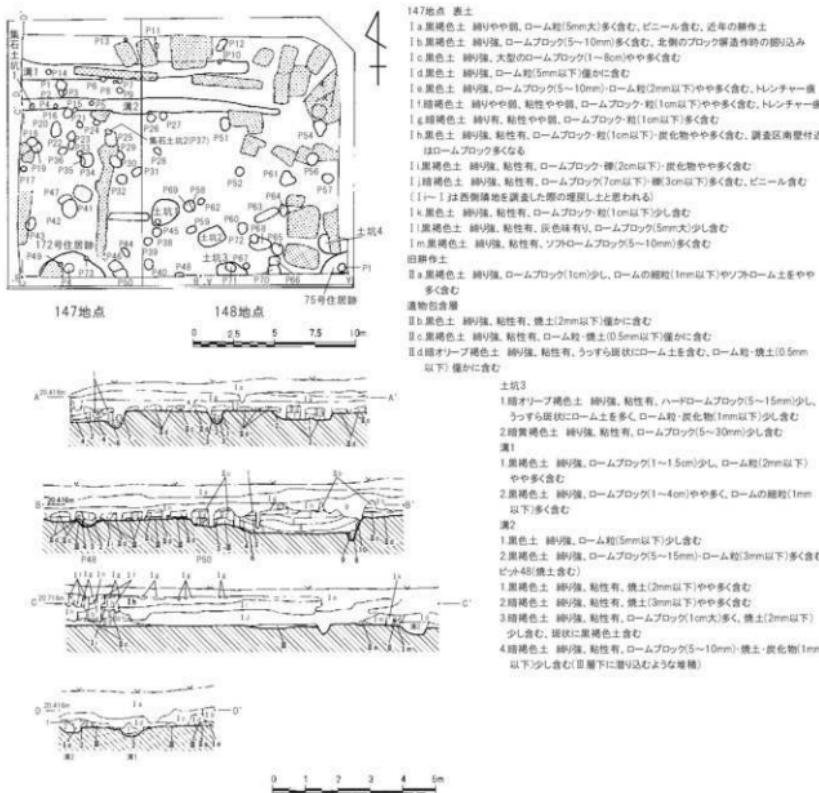
【周溝】上幅40~50cm、下幅10~20cm、床面からの深さ26cmである。

【柱穴】新たに1基検出し、全体で14基になった。主軸方向の炉を挟んだ右側に49地点の調査で検出したP2-P4-P9、左側に今回のP1と128地点のP1が並列し、対になる主柱穴と推定できる。

【時期】勝坂II式。

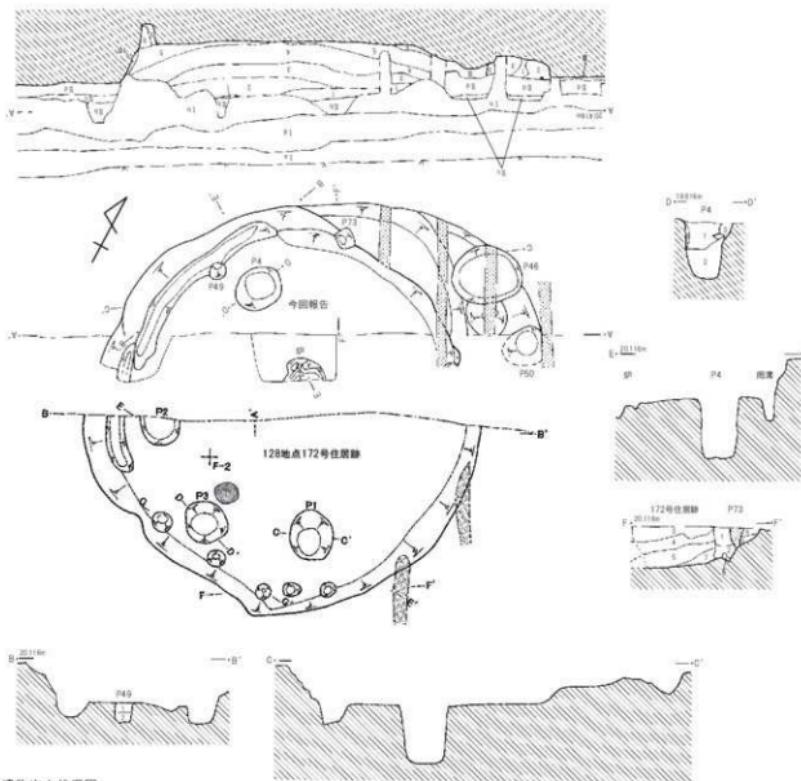
##### ③ 集石土坑

2基検出した。集石土坑1は147地点調査区西端に位置する。溝2によって壊される。加曾利E I新式の深鉢土器片が出土した。時期は出土遺物から縄文時代と思われる。

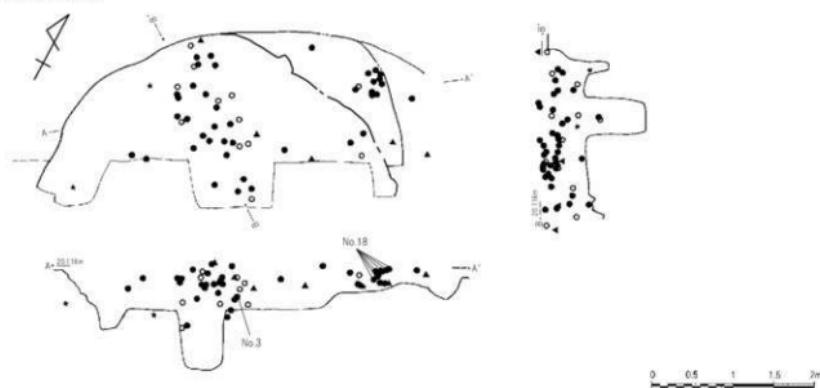


第55図 西ノ原遺跡第147・148地点遺構配置図(1/300)、土層図(1/150)

## 172号住居跡

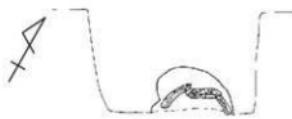


## 遺物出土状況図



第56図 西ノ原遺跡第147地点172号住居跡・遺物出土状況図(1/60)

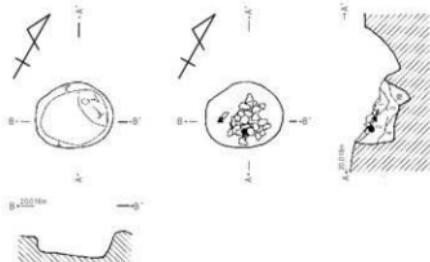
## 炉体土器



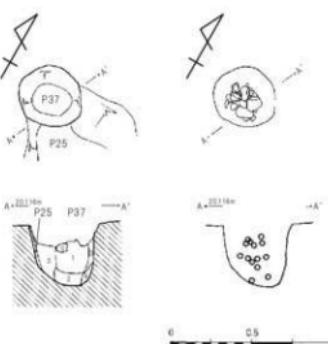
## 掘方



## 集石土坑1

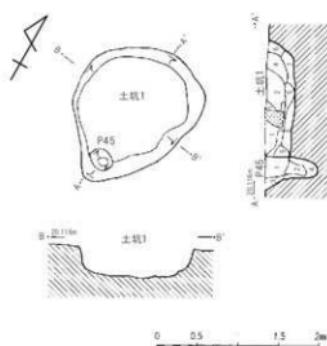


## 集石土坑2(P37)



6 0.5 1m

## 土坑1-P45



## 集石土坑1

1. 線オリーブ褐色土 細り強、粘性有、ローム粒(3mm以下)少し含む
2. 黒褐色土 細り強、粘性有、燒土・炭化物(1mm以下)多く含む
3. 線オリーブ褐色土 細り強、粘性有、ローム粒(3mm以下)やや多く含む
4. 線オリーブ褐色土 細り強、粘性有、うすら斑状にロームブロック(5~10mm)やや多く含む

ピット37

1. 線オリーブ褐色土 細り強、粘性有、炭化物(2mm以下)少し含む
2. 黒褐色土 細り強、粘性有、炭化物(2mm以下)斑状のロームブロックや多く含む
3. 線オリーブ褐色土 細り強、粘性有、ローム粒(1mm以下)僅かに含む
4. 線オリーブ褐色土 細り強、粘性有、ロームブロック(1cm)・ローム粒(3mm以下)やや多く含む

土坑1-2

1. 黑褐色土 細りや弱め、ローム粒(2mm以下)やや多く含む
2. 黑褐色土 細り強、ローム粒(3mm以下)やや多く含む、燒土(2mm以下)少し含む

3. 黑褐色土

1. 黑褐色土 ロームブロック(5mm以下)少し含む
2. 黑褐色土 ロームブロック(1cm大) ローム粒(3mm以下)少し含む

5. 線オリーブ褐色土

1. 線オリーブ褐色土 ローム粒(3mm以下)ブロック状に少し含む

6. 線オリーブ褐色土

1. 線オリーブ褐色土 ローム粒をうすら斑状に少し含む

7. 黑褐色土

1. 黑褐色土 ロームブロック(1~2cm)少から斑状にやや多く含む

8. 線オリーブ褐色土

1. ロームブロック(5mm大)少し、ロームを斑状に多く含む

ピット45

1. 黑褐色土 細り強、粘性有、ロームブロック(5~10mm)・ローム粒(2mm以下)少し含む。色調は2層より明るく、包含物の線オリーブ褐色に近い
2. 黑褐色土 細り強、粘性有、ロームブロック(5~20mm)・ローム粒(2mm以下)やや多く含む、P56-71などで動物骨含む

3. 線オリーブ褐色土 細り強、粘性有、うすら斑状にローム土、ローム粒(1mm以下)少し含む

4. 黑褐色土

1. 黑褐色土 細り強、粘性有、ロームブロック(5~10mm)多く含む

5. 炉体土器

1. 黑褐色土 細り強、粘性有、ロームブロック(2cm大)少し、燒土(3mm以下)多く、炭化物(1mm以下)

やや多く含む、炉体を押し潰している

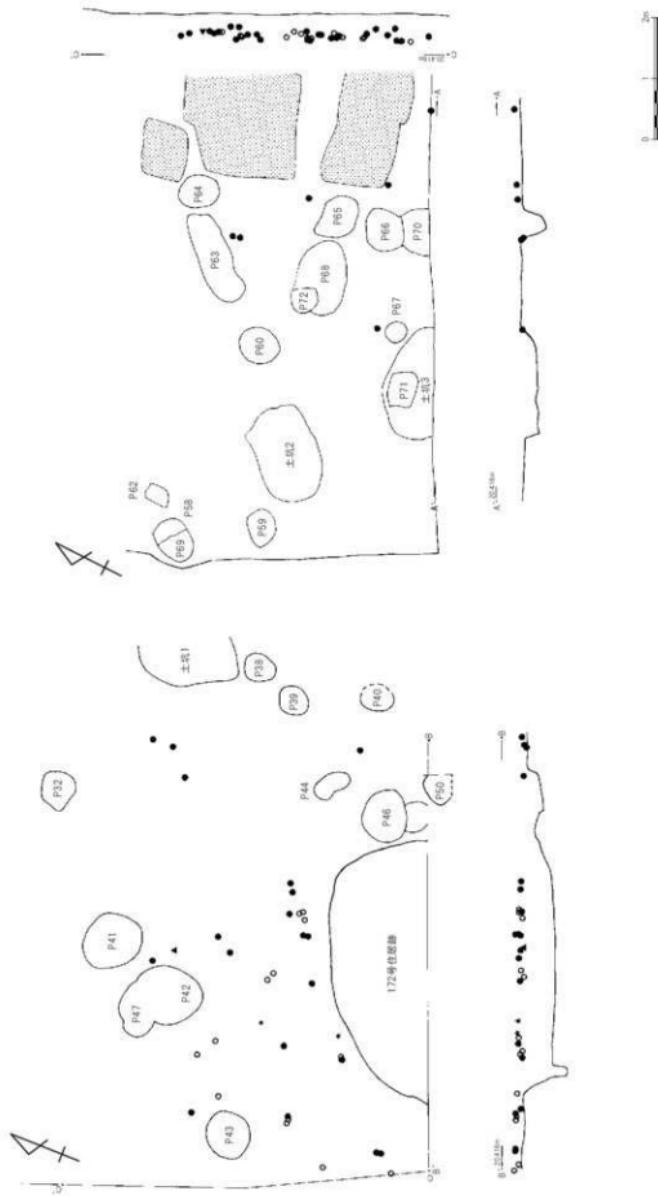
2. 黑褐色土 細り強、粘性有、ローム(3~7mm)・炭化物(3mm以下)やや多く、燒土(1cm以下)多く含む

3. 黑褐色土

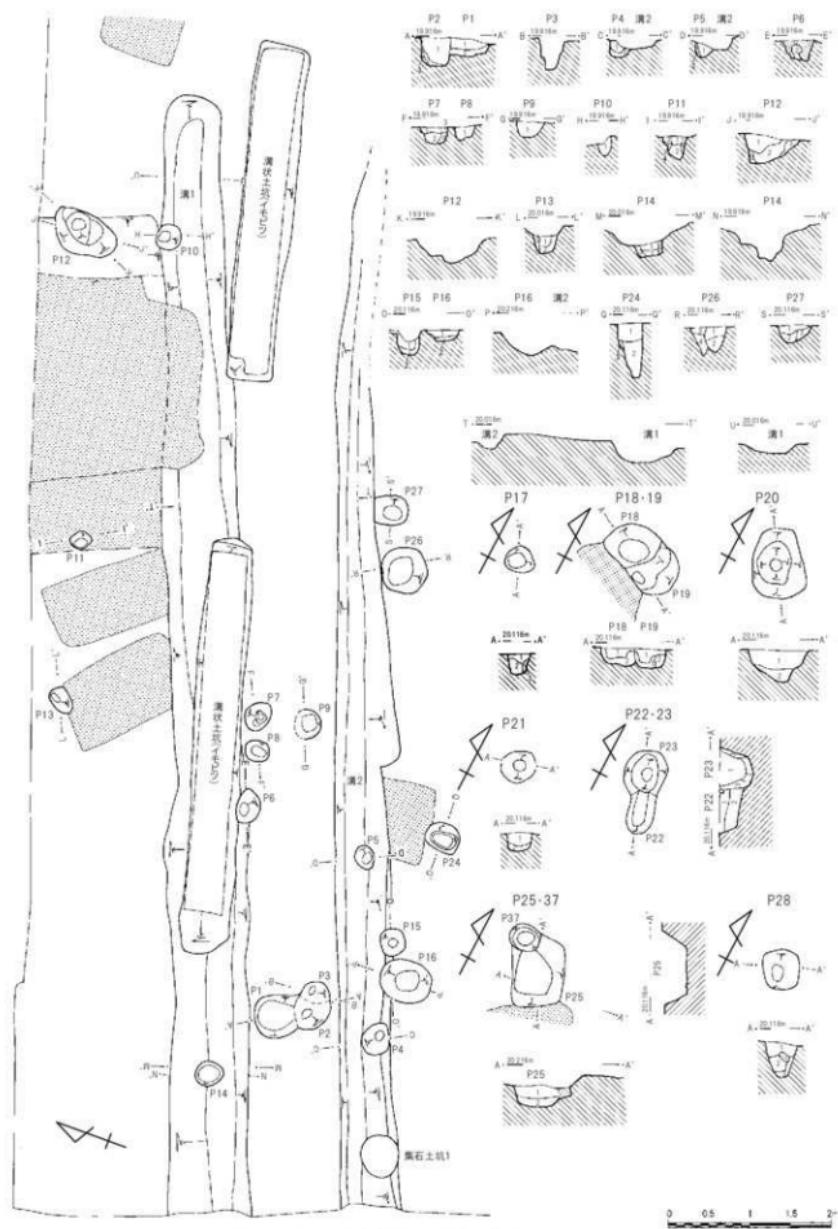
1. 黑褐色土 細り強、粘性有、炉外側の充填土、1mm以下ロームやや多く、炭化物(1mm以下)少し含む

第57図 西ノ原遺跡第147地点172号住居跡・炉・掘方・集石土坑(1/30)、土坑・ピット(1/60)

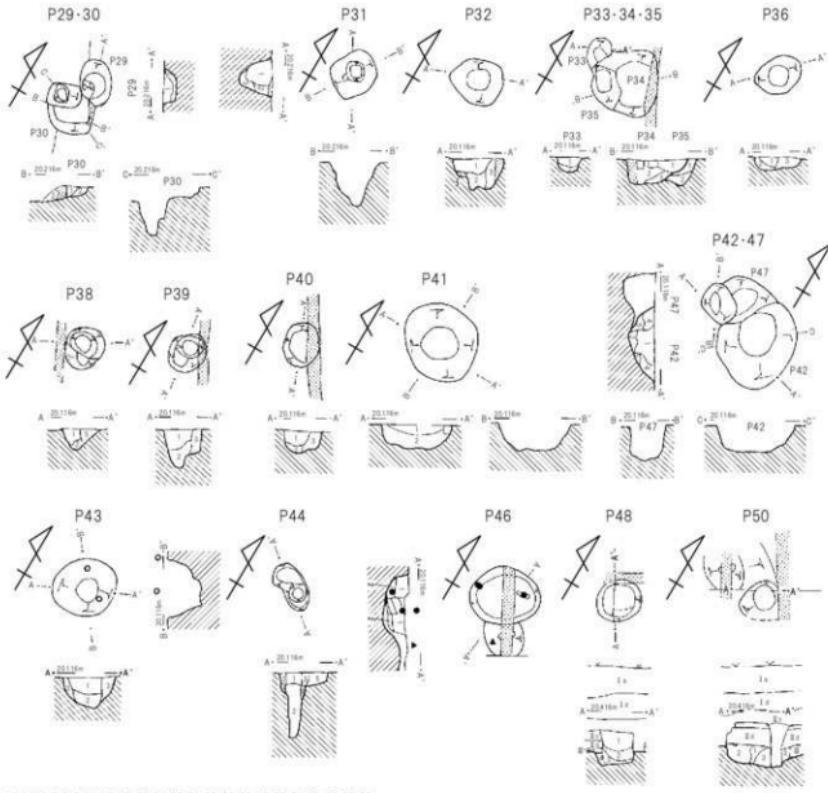
148地点



第58図 西ノ原遺跡第147・148地点遺構外遺物出土状況図(1780)



第59図 西ノ原遺跡第147地点ピット・溝(1/60)



ピット1-4-5-8-9-14-15-17-20-21-22-24-29-30-33-46-60-61-63-66-67-68

1組オリーブ褐色土 細り強、粘性有、ローム粒(3mm以下)僅かに含む

2組オリーブ褐色土 細り強、粘性有、色調1層より暗く、ロームブロックうら斑状に、ローム粒(5mm以下)少し含む

3組オリーブ褐色土 細り強、粘性有、ローム粒多く含む

ピット2-6-12-16-18-23-27-28-31-36-41-42-43-50-58-72

1組オリーブ褐色土 細り強、粘性有、ローム粒(2mm以下)僅かに含む

2組オリーブ褐色土 細り強、粘性有、ラッサ根状にローム土を含む

3組オリーブ褐色土 細り強、粘性有、ローム粒(1cm)・ローム粒(3mm以下)をやや多く含む

4組オリーブ褐色土 細り強、粘性有、ローム粒(3mm以下)を僅かに含む

5組オリーブ褐色土 細り強、粘性有、色調1層より暗く、ロームブロックうら斑状に、ローム粒(5mm以下)少し含む

ピット2-10-11-13-38

1組オリーブ褐色土 細り強、粘性有、ローム粒(2mm以下)少し含む

2組オリーブ褐色土 細り強、粘性有、色調1層より暗く、ロームブロック(5mm)・ローム粒(3mm以下)少し含む

3組オリーブ褐色土 細り強、粘性有、ローム粒(3mm以下)やや多く含む

4組オリーブ褐色土 細り強、粘性有、ローム粒(3mm以下)やや多く含む

5組オリーブ褐色土 細り強、粘性有、色調1層より暗く、ローム粒(2mm以下)少し含む

6組オリーブ褐色土 細り強、粘性有、ローム粒(2mm以下)やや多く含む

7組オリーブ褐色土 細り強、粘性有、色調1層より暗く、ローム粒(2mm以下)少し含む

ピット2-9-10-11-12-13-14-15-16-17-18-19-20-21-22-23-24-25-26-27-28-29-30-31-32-33-34-35-36-37-38-39-40-41-42-43-44-45-46-47-48-49-50-51-52-53-54-55-56-57-58-59-60-61-62-63-64-65-66-67-68-69-70-71-73

1組褐色土 細り強、粘性有、ロームブロック(5~10mm)・ローム粒(2mm以下)少し含む、色調は2層より暗く、包合層のオリーブ褐色土に近い

2組褐色土 細り強、粘性有、ロームブロック(5~20mm)・ローム粒(2mm以下)やや多く含む、P56-71などで此處で発見

2' 褐色土 細り強、粘性有、2層よりロームブロック、もしくは斑状にローム土を多く含む

3組オリーブ褐色土 細り強、粘性有、ラッサ根状にローム土・ローム粒(1mm以下)少し含む

4組褐色土 細り強、粘性有、ロームブロック(5~10mm)多く含む

5組オリーブ褐色土 細り強、粘性有、ラッサ根状にロームブロック多く含む

ピット25-34-35

1組オリーブ褐色土 細り強、粘性有、ローム粒(5mm以下)・炭化物(2mm以下)少し含む

2組オリーブ褐色土 細り強、粘性有、ロームブロック(1cm大)やや多く含む

3組オリーブ褐色土 細り強、粘性有、ローム粒(3mm以下)僅かに含む

4組オリーブ褐色土 細り強、粘性有、色調3層より暗く、ロームブロックうら斑状に、ローム粒(5mm以下)少し含む

ピット26-32-37

1組オリーブ褐色土 細り強、粘性有、炭化物(2mm以下)少し含む

2重褐色土 細り強、粘性有、炭化物(2mm以下)・斑状のロームブロックやや多く含む

3組オリーブ褐色土 細り強、粘性有、ローム粒(1mm以下)僅かに含む

4組オリーブ褐色土 細り強、粘性有、ロームブロック(1cm)・ローム粒(3mm以下)やや多く含む

ピット28

1重褐色土 細り強、粘性有、鐵(2mm以下)やや多く含む

2重褐色土 細り強、粘性有、鐵(3mm以下)やや多く含む

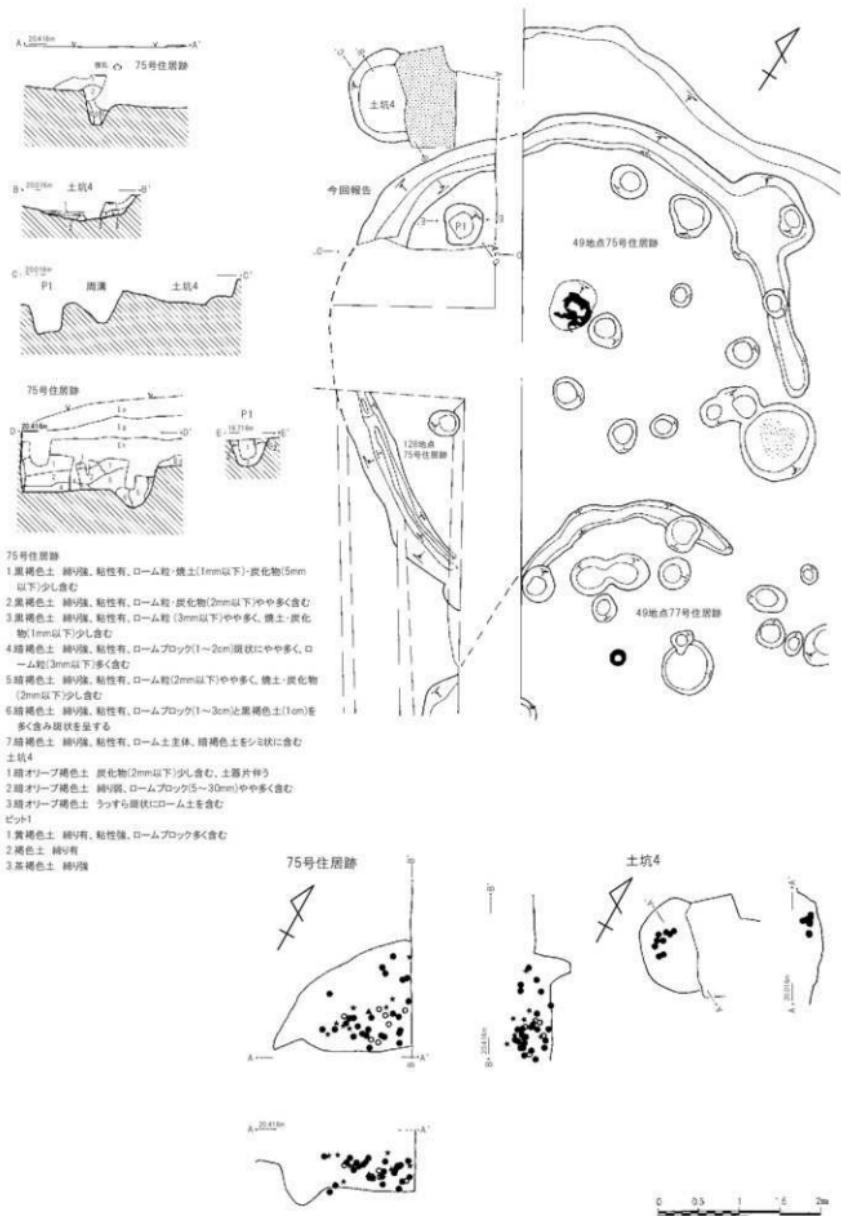
3暗褐色土 細り強、粘性有、ロームブロック(1cm大)多く、鐵(2mm以下)少し、斑状に黒褐

色土壤を含む

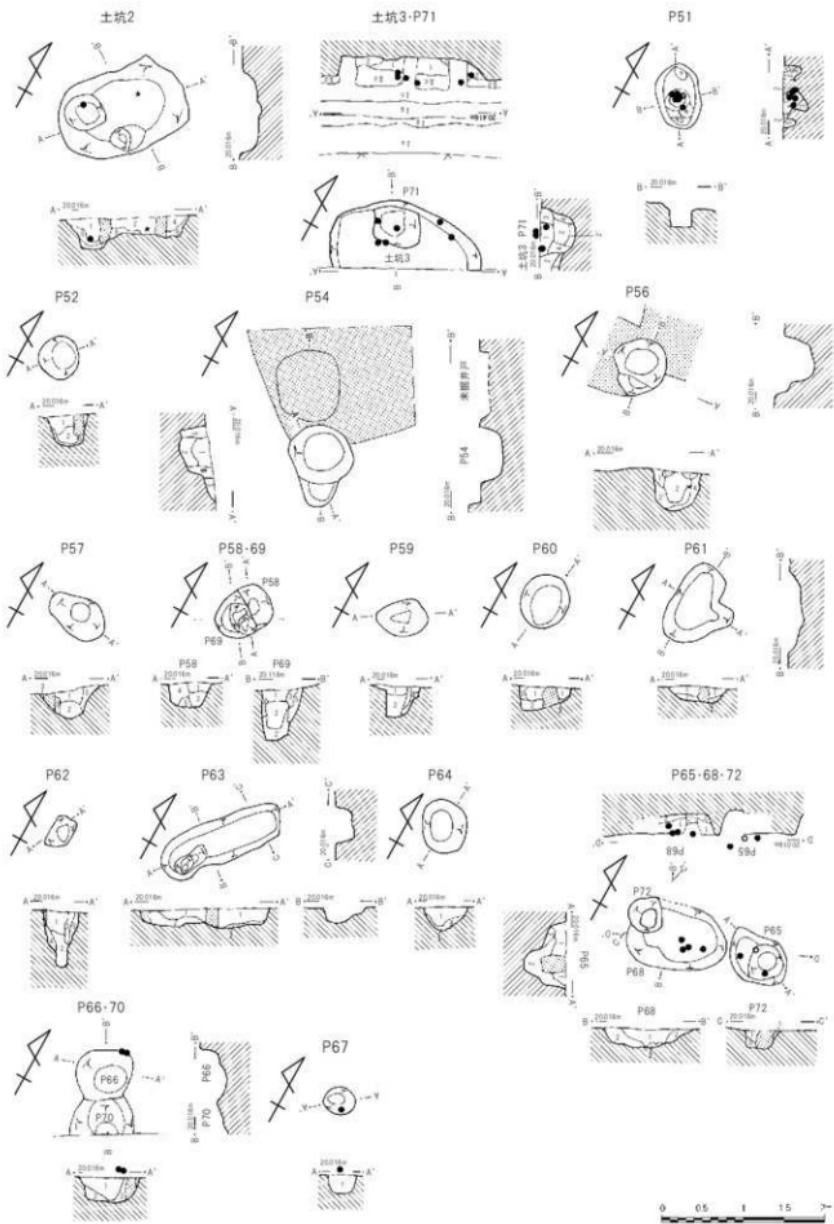
4組オリーブ褐色土 細り強、粘性有、ロームブロック(5~10mm)、鐵土・炭化物(1mm以下)少し含む

(3層にて層り込むような堆積)

第60図 西ノ原遺跡第148地点 ピット・溝(1/60)



第61図 西ノ原遺跡第148地点 75号住居跡・土坑・ピット・遺物出土状況図(1/60)



第62図 西ノ原遺跡第148地点土坑・ピット(1/60)

集石土坑2は147地点の調査区中央に位置する。

加曾利E II式の土器片が出土した。時期は出土遺物から縄文時代と思われる。

#### ④土坑・ピット

土坑4基、ピット71基検出した。

#### ⑤溝

2条検出した。いずれも東西方向の溝で、土地境に重なる。1.15m離れて平行する。

溝1は147・148調査区北側で16m検出した。上幅35~55cm、下幅15~20cm、確認面からの深さ11~18cmである。

溝2は147・148調査区北側で14m検出した。溝状土坑(イモビツ)に埋される。上幅70~95cm、下幅30~55cm、確認面からの深さ13~28cmである。

第37表 西ノ原遺跡第147・148地点 ピット一覧表(単位cm)

No.	平面形態	確認面	底面	深さ	備考
P1	円形	61×50	34×30	73.9	
P2	不明				
P3	不明	41×(34)	15×10	40.9	
P4	方形	37×(25)	10×7	36.9	
P5	円形	37×34	11×10	25.8	
P6	円形	28×22	11×8	21.6	
P7	円形	43×29	18×10	25.3	
P8	方形	33×31	8×6	37.4	
P9	円形	30×25	19×11	18.2	
P10	方形	36×32	20×18	25.3	
P11	方形	30×29	15×13	26.3	
P12	方形	23×21	12×12	39.8	
P13	円形	84×51	17×14	36.2	
P14	方形	35×22	12×6	46.8	
P15	円形	34×30	25×21	26.6	
P16	方形	32×30	11×11	33.6	
P17	方形	64×50	30×24	24.0	
P18	方形	33×33	20×19	28.4	
P19	不明	57×(55)	37×29	26.3	
P20	方形	60×(46)	18×10	25.2	
P21	円形	86×70	11×10	42.3	
P22	不明	43×39	16×15	23.5	
P23	不明	(54)×32	(43)×15	31.6	
P24	方形	51×(51)	19×12	42.5	
P25	方形	41×34	25×15	58.0	
P26	方形	90×63	52×45	35.4	
P27	円形	57×56	31×29	32.6	
P28	方形	42×37	23×16	22.9	
P29	方形	50×45	19×13	48.7	
P30	不明	57×39	8×3	33.6	
P31	方形	59×57	16×12	59.6	
P32	方形	57×49	17×14	55.1	
P33	方形	65×55	28×25	40.2	
P34	不明	35×(26)	(17)×14	19.4	
P35	不明	82×(76)	58×(41)	33.2	
P36	円形	(59)×(33)	27×17	32.5	
P37	円形	60×43	25×25	21.6	
P38	円形	37×33	23×18	39.3	
P39	円形	53×47	21×18	30.5	
P40	円形	50×45	19×19	53.4	
P41	円形	54×43	40×20	31.2	
P42	円形	96×89	47×41	32.4	
P43	(円形)	104×93	55×45	34.2	
P44	ひょうたん形	77×71	29×29	44.1	
P45	方形	62×30	15×13	83.2	
P46	円形	28×23	15×11	67.4	
P47	円形	75×74	60×50	26.9	
P48	方形	47×36	29×14	47.0	
P49	円形	55×52	40×40	14.9	
P50	不明	22×20	12×8	27.7	
P51	円形	53×50	30×27	23.3	
P52	円形	80×51	24×18	32.1	
P53	欠壊	53×48	34×28	40.4	
P54	ひょうたん形	40×35	23×13	25.2	
P55	欠壊	101×70	49×46	42.0	
P56	方形	65×65	38×31	48.9	
P57	円形	76×48	23×22	43.6	
P58	不明	55×(29)	22×13	32.1	
P59	方形	55×45	24×15	45.4	
P60	円形	69×59	52×34	32.2	
P61	不整形	43×27	4×3	17.6	
P62	方形	160×55	11×7	32.9	
P63	円形	66×52	38×27	32.4	
P64	円形	86×63	23×23	53.7	
P65	円形	69×61	41×33	32.2	
P66	円形	40×35	23×13	25.2	
P67	円形	123×83	92×60	25.4	
P68	円形	55×(43)	19×9	68.2	
P69	不明	80×(42)	27×(15)	45.2	
P70	方形	58×48	31×28	20.2	
P71	方形	43×41	23×20	25.7	
P72	方形	23×20	14×7	16.9	

第33表 西ノ原遺跡第147地点172号住居跡ピット一覧表(単位cm)

No.	平面形態	確認面	底面	深さ	備考
P1	円形	47×41	4×4	32.9	

第35表 西ノ原遺跡第148地点75号住居跡ピット一覧表(単位cm)

No.	平面形態	確認面	底面	深さ	備考
P1	方形	50×46	37×29	40.2	

第36表 西ノ原遺跡第148地点土坑一覧表(単位cm)

No.	平面形態	確認面	底面	深さ	備考
土坑1	円形	187×147	140×124	38.6	
土坑2	楕円形	158×104	106×67	32.2	
土坑3	不明	184×(85)	157×77	32.5	
土坑4	不明	115×(69)	86×(57)	33.1	

## 172号住居跡出土遺物

1は、1/4現存、2は3/4現存。2の不足箇所を1で補い組み合わせて炉体土器として使われたもの。1は口径29cm。Lrの燃糸文を施した後、粘土紐で口縁部文様帯の上下の区画を貼り付け、その間に5字状文と十字状文を貼り付けたもの。2は口径37cm。地文はLrの燃糸文。粘土紐で口縁部文様帯を上下区画し、その間、渦巻きあるいは5字状の文様を貼り付けたもの。口縁部に図示左半分に突出部がある。突出部は下部の文様が接する箇所に付けられ、現存では4ヶ所に認められ、欠損部にも想定され、全体では5ヶ所（5単位）になるのは確実である。

3は、2004年度調査によって、出土した土器と今回の調査で出土した土器が接合し、全形が判明した。口縁部2/5、胴部1/2現存。口径39.5cm。地文はLRの単節。口唇部は1cmほど外側にくの字状に突出させ古い段階の要素であるが、全体に丸みがあつて名残がうかがえる。口縁部文様帯は図示正面の半渦巻き文と図示左端の渦巻き文は、上向きに張り出ず「張出渦巻文」である。この「張出渦巻文」は、2ヶ所しか現存しないが、ちょうど全周の1/5に配置されていることから5単位の土器文様と推察してみた。胴部文様は、隆帯とその脇に波状平行沈線文による「U」字文を施し、その中央に隆帯で上部を弓なり十字文で組んだ懸垂文を加えている。この「U」字文は、全く同じ文様構成で2/3の胴部に2ヶ所見られることから、胴部文様は3単位文様と推察される。

覆土から勝坂式末期から加曾利E II式の土器破片が出土している。4・5は勝坂式末の土器で、4は、口縁部と胴部を隆帯で区画し、斜めの刻みを施したもの、5は、口縁部文様帯を丸い工具で押圧した棒状隆帯をめぐらせたもので、当地域の地域性の強い土器。6は、加曾利E I式で口縁部文様に渦巻き文で。7は口縁部文様帯中央に当たる渦巻き文の連続で、地文に燃糸文Lrを施している。8、9は上記の土器の胴部破片で非常に細かい燃糸文Lrを施している。10は、口縁部文様を沈線で重ね渦巻き文、いわゆるジャーラー土器と言っていたものである。

11、12は、加曾利E II式の古段階の連弧文土器。いずれも地文が条線である。11は口縁部内側に隆帯を加飾して「フ」の字状にしたもの、12は連弧文が流れている。

13・14は、加曾利E I式の浅鉢形土器。13は沈

線で平行線を描き、沈線文と同じ刻みを施す、14は器面表面が非常に研磨され、渦巻き文がながらかに施文されている。

15は底部に近い土器で、隆帯の脇に沈線でナゾリが施されたもの、16・17は底部破片で、16は燃糸文Lrが施す。

18は、打製石斧。椎形完形。長さ10.4cm、最大幅6.2cm、最大厚1.6cm重さ126g。左側侧面には大きく自然面が残り、右図には横剥ぎの第一次剥離痕が残る。側面調整は、細かく施され、両側面の紐ずれ使用痕が顕著である。石質は、ホルンフェルスである。

19は、自然石を利用した敲き石である。長さ11cm、最大幅4.8cm、最大厚3.2cm、重さ289g。右側面には、圓面中央部に図示したように平坦な磨り面がある。石質は、硬質砂岩である。

## 住居外出土土器

20は、172号住居跡の北西部の壁外で、二重の段がついたピット46に隣接した箇所からまとめて出土したものを復元した。加曾利E II式で住居跡よりも新しい。口径25cm（1/2現存）。丸く太い沈線で文様が付けられ、地文はRLの単節縦回転である。口縁部文様は渦巻きと梢円文の組み合わせによる。現存部に3個の渦巻き文が認められる。このうち2個の渦巻きが内から外へ右巻き、他の1個は内から外へ左巻きである。全体では5単位となると推察される。懸垂文上端は「U」字状に連結している。風化が激しく器面内面の剥落から炉体土器に使われたものが廃棄されたか。集石土坑1出土遺物

1は、加曾利E I式、口縁部から胴部にかけての土器で、胴部の粘土紐による大きな渦巻き文がうかがえる。地文に燃糸文Lr。

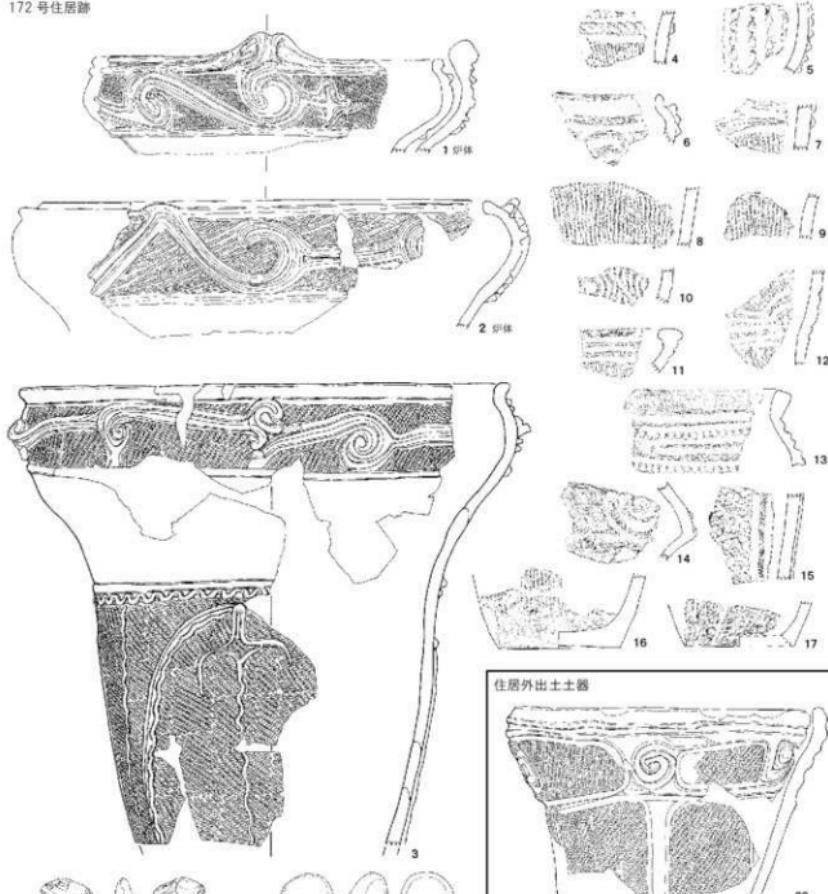
## 土坑1出土遺物

1は、加曾利E I式。胴部下半で、地文に燃糸文Lr。半截竹管による懸垂文で、二重に描いたもの。横位にも連結している。

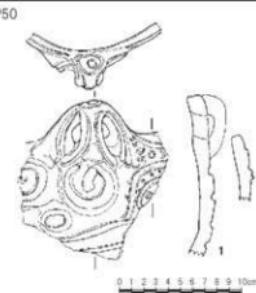
## ピット50出土遺物

1は、椎形になる、唐草文系の土器。色調濃い赤茶色。突起は加曾利E I式の172号住居出土の炉体土器1に似る。その下に単独の渦巻き文を付ける。口縁部上方に竹管を垂直に押して円形文を加えている。器面の外面は磨かれているため観察できないが、内面には、白色の小砂利が多量に混じるのが観察される。

172号住居跡



集石土坑 1



第63図 西ノ原遺跡第147地点172号住居跡・集石土坑・土坑・ピット出土遺物(1/4)

## 遺構外出土遺物

遺構外からは、勝坂期から加曾利E III式まで出土している。いずれも小片である。1は、勝坂式の胴部破片。胴部の文様を隆帯により区画し、隆帯は大きく耳状に隆起して刻みが付けられている。2は、勝坂式土器。キャリバー状の器形でRLの単節を斜め回転し、条が縦になる。内面は竹管工具で抉られている。3は、曾利系の土器、胴部下半で隆帯による蛇行懸垂文が付く。蛇行沈線は半截竹管工具で帶の側面を交互に押圧したもの。4はキャリバーの器形に沈線で重ね渦巻き文をつけたもの、5は、大形の有孔鉢付き土器かもしれないが不明。大きな二重の渦巻き文の間を、半截竹管状の工具で交互に斜め下方から上方に向けて刺突したもの。

6は、打製石斧である。上半部は欠損している。上部に若干のくびれがある短冊形。刃部は丸く調整されている。最大幅5.2cm、厚さ1.3cm。石質は、片岩である。

7は、大形石匙と思われる。図左側に大きな自然面を残し、側面にくびれを施して上端につまみ部を作る。長さ8.2cm最大幅5.3cm、重さ86g。石質は、

ホルンフェルスである。

8は、自然石を利用した敲き石である。長さ9.5cm、最大幅4.3cm、最大厚3.3cm、重さ230g。下端部全面に敲き痕がある。石質は、硬質砂岩である。

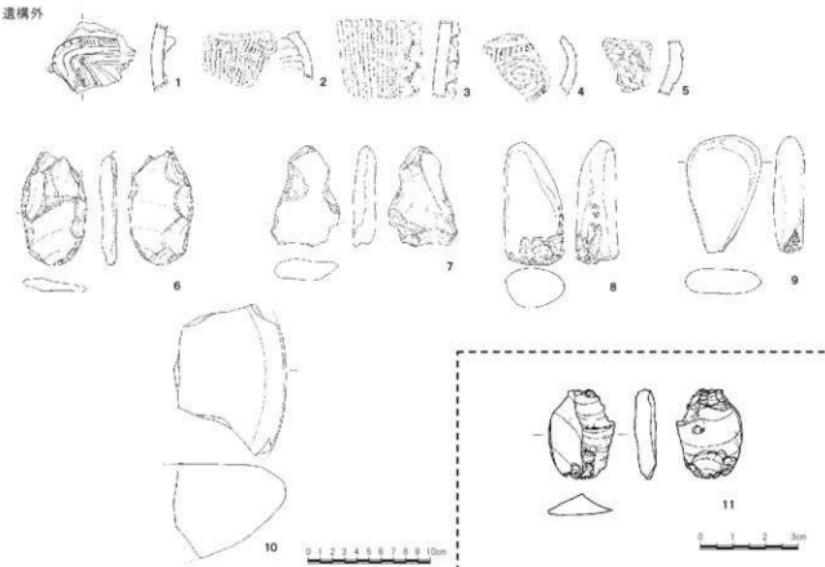
9は、自然石で、下端部に敲き痕がある敲き石である。長さ9.3cm、最大幅6.0cm、最大厚2.2cm重さ197g。石質は、硬質砂岩である。

10は、石皿の破片である。石皿表面は、微かにくぼんでいる。石質は、閃綠岩である。

11は、剥片である。石質は、気泡が多い黒曜石である。調整途中で破棄したものか。

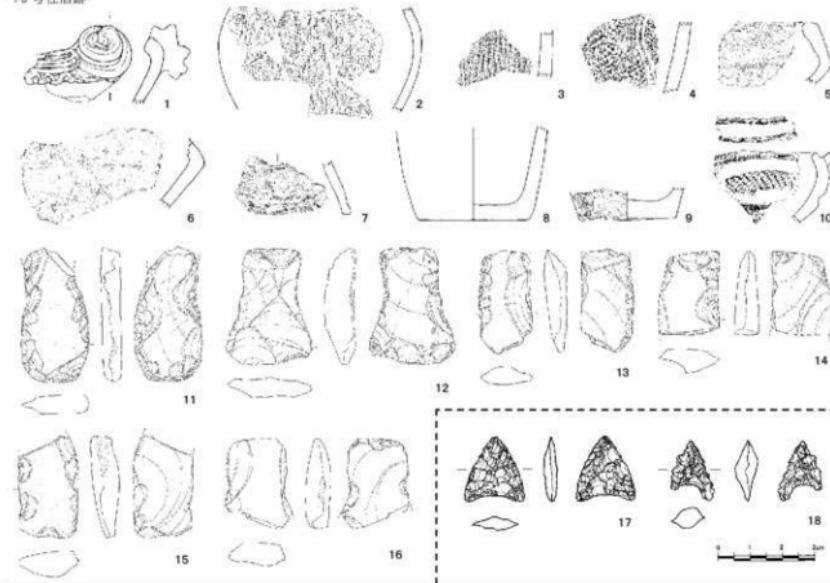
## 75号住居跡出土遺物

1は、口縁部文様帯が上半部に集中し、粘土紐による渦巻き文と交互刺突文をほどこされたもので勝坂末期の土器。2は、胴部上半の土器で口縁部が欠。条縁を縦に施文のみの土器、勝坂式土器。3は勝坂式土器。単節RLを斜め下方に回転し、条が縦になったもの。4は、加曾利E I式の胴部破片、地文はRLの単節。半截竹管による緩い蛇行懸垂文がつく。5・6は無文の浅鉢形土器。勝坂期。7は、台付き土器の台の部分。無文で台の下端に沿って突出させたもの。8・

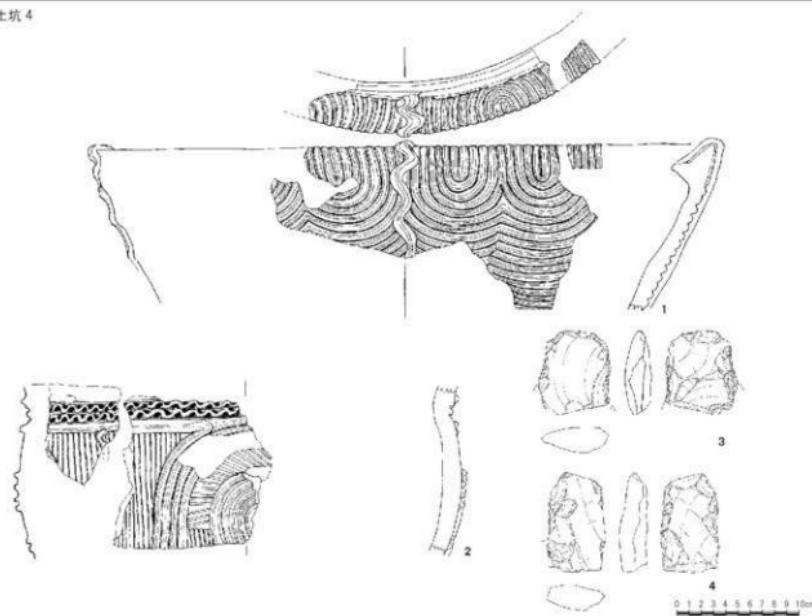


第64図 西ノ原遺跡第147地点遺構外出土遺物(2/3・1/4)

## 75号住居跡



## 土坑4



第65図 西ノ原遺跡第148地点75号住居跡・土坑4出土遺物(2/3・1/4)

9は底部の破片。8はよく磨かれた無文である。9はLrの捺糸文が施されている。

10は、加曾利E II式土器、口縁部に太い沈線横円文がつき、口脣部外側に粘土紐を貼り緩い波状口縁をつくる。

11は、短冊形打製石斧。上端部欠損。石質は硬質砂岩。最大幅は、5.5 cm、最大厚が1.6 cm。図右側に平坦な自然面が残る。右図のように、第一次剥離は横剥ぎである。

12は、撮形石斧で完形。刃部部最大幅7.1 cm、長さ9.5 cm、くびれ部厚さ2.4 cm、重さ161g。くびれ部幅は、4.3 cm。石質は、ホルンフェルス。

13は、短冊形打製石斧。刃部先端、上端が欠損。くびれ部幅4.2 cm、くびれ部厚さ1.8 cm。石質は、硬質砂岩。

14は、短冊形打製石斧。先端が欠損。石質は、硬質砂岩。残存幅5.0 cm、片面に自然面が残る。

15は、若干くびれのある短冊形打製石斧。側面の紐ずれ痕は、摩耗が激しい。石質は、ホルンフェルスである。くびれ部最大幅4.8 cm、くびれ部厚さ2.2 cm。

16は、撮形打製石斧である。刃部欠損。両側面には、若干のくびれがある。石質は、硬質砂岩。くびれ部幅5.0 cm。

17は、石鎌。完形。長さ1.9 cm、最大幅1.8 cm、

厚さ0.4 cm、重さ1g。石質は黒曜石。両側面にはゆるいカーブがあり、下端が尖っている。ゆるいカーブを成した2 mmの抉りがある。

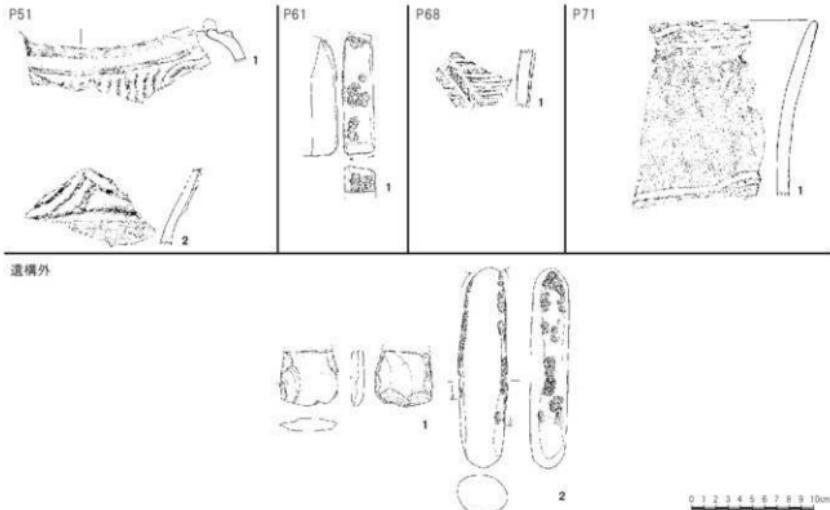
18は、石鎌。一部欠損。長さ1.8 cm、最大幅1.3 cm、厚さ0.7 cm、重さ0.82 g。石質は黒曜石。片側はゆるくカーブし、右図の右下端は欠損しているらしい。右図側面は、剥離による凹凸が激しい。推定抉り部は、5 mmである。

#### 土坑4出土遺物

大形土器の破片が1個体分出土している。1は、口径51 cm（現存部1/3）、口縁部は1/2ほどあるが接合しない。曾利II式土器で、半截竹管の工具で重弧文の文様がつく。重弧文は内面で交互に連結する。口縁部から4単位の蛇行懸垂文が付けられている。胎土は砂粒を多く含む。色調外面黒褐色、内面明茶色で器厚は1.5 mmほどあって厚い。2は、1と同一個体であるが接合しない。胴径37 cm（推定）。大型渦巻き文が4本の粘土紐を貼り付けたもの。地文は半截竹管により施文されている。

3は、撮形打製石斧。刃部欠損。石質は、ホルンフェルス。片側は大きな剥離面である。くびれ部幅5.5 cm、くびれ部厚さ2.2 cm。

4は短冊形打製石斧。刃部欠損。石質は、ホルンフェルス。くびれ部最大幅は4.8 cm、くびれ部厚さは2.2 cm。



第66図 西ノ原遺跡第148地点ピット・遺構外出土遺物(1/4)

### ピット51出土遺物

1は、渦巻き文を中心にして沈線で渦巻き文に連続弧線を加えたいわゆるブラジャー土器で、右端に突起が付いている。2は、加曾利E1式のキャリバー形の土器で、無文部と口縁部文様帶の境の土器は破片。

### ピット61出土遺物

1は敲き石。半欠品。側面と上端に敲き痕がある。長さ9.5cm。石質は、硬質砂岩。

### ピット68出土遺物

1は勝坂式土器でコの字状の隆帯に細かい刻みと、沈線が加わったもの。

### ピット71出土遺物

1は、加曾利EII式土器。地文に縦に全面6本単位の条線で、口縁部直下と胴部に横位に2本の沈線を加えたもの。連弧文土器の一種。

### 遺構外出土遺物

1は、短冊形打製石斧。刃部の破片。石質は、ホルンフェルス。

2は、敲き石完形。長さ16.3cm。370.6g。側面に敲き痕あり。石質は、角閃岩。

### V 西ノ原遺跡第149地点

#### (1) 調査の概要

調査は事務所建設に伴うもので、原因者より「埋蔵文化財事前協議書」が2010年12月7日付けでふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は遺跡の東部に位置し、145地点の南東部に隣接するため、申請者と協議の結果、遺構の存在を確認するために試掘調査を実施した。

試掘調査は2011年2月7日から2月10日まで、幅約2mのトレンチを3本設定し、重機で表土除去後、人力による表面精査を行った。調査の結果、近世以降の溝1本を検出した。遺構確認面までの深さは約40cmである。旧石器時代の確認調査は行っていない。写真撮影・全測図作成等記録保存を行ったうえ埋め戻し、調査を終了した。

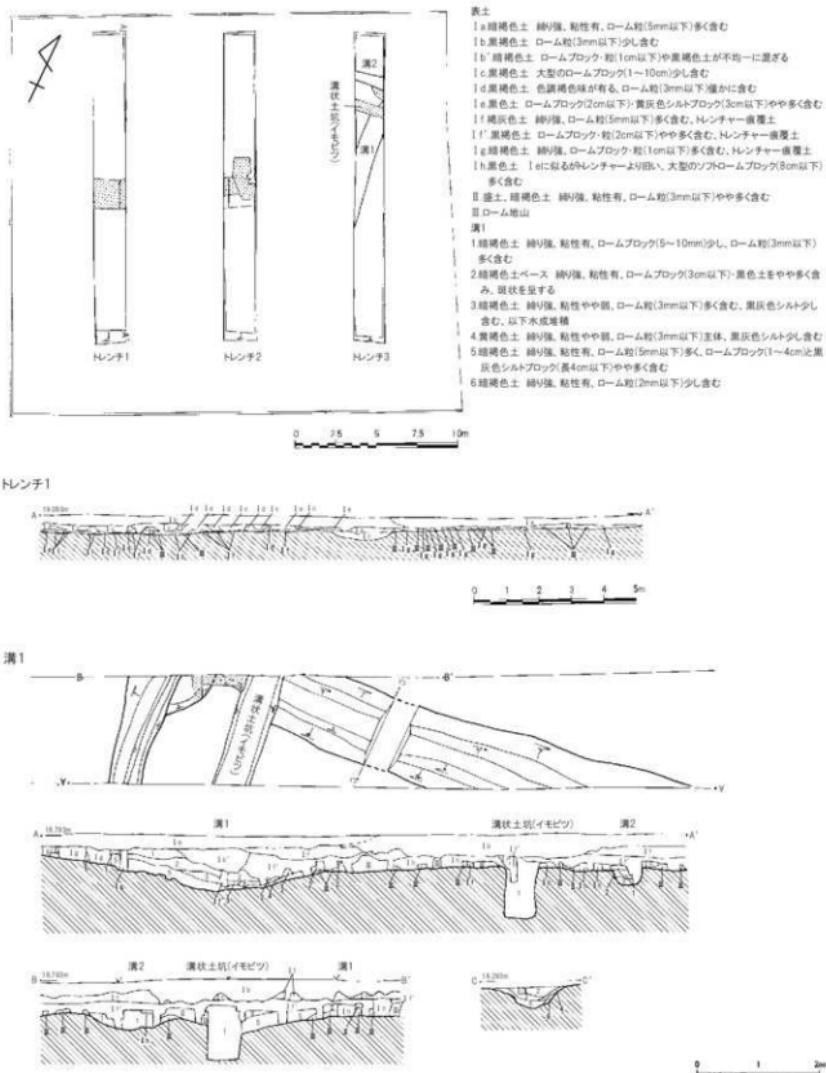
#### (2) 遺構と遺物

##### ①溝

東西方向の溝と南北方向の溝を検出している。いずれも1957年以前の土地境と位置が一致しており、近世以降の土地境の溝である。

溝1は南北方向の溝で、南側の145地点で検出した溝2と連なる。「西ノ原公園」(1872年)で記載された村道と重なるが、この村道は公園に紙を貼って消されている。東西方向の溝状土坑(イモビツ)に壊される。溝の上幅は120cm、下幅は25~40cm、断面形状は緩やかに立ち上がる「U」字形で、深さは確認面から30cmである。

溝2は東西方向の溝で土地の境と重なる。溝の上幅は55cm、下幅は10cm、断面形状は「U」字形で、深さは確認面から20cmである。



第67図 西ノ原遺跡第149地点遺構配置図(1/300)、土層図(1/150)、溝(1/80)

## 第11章 神明後遺跡の調査

### I 遺跡の立地と環境

神明後遺跡は、東武東上線ふじみ野駅の東約300m、さかい川の谷頭部から約1.500m下った右岸に位置し、標高12～16m、現谷底との比高差は1.5mを測る。さかい川は本遺跡付近から崖を形成し始め、本遺跡をのせる南側台地は急斜面、対岸の北側は緩やかな斜面を形成している。

周辺の遺跡は、上流に中沢前遺跡、下流に淨禪寺跡遺跡、苗間東久保遺跡が隣接し、さかい川の対岸には富士見市の外記塚遺跡がある。

遺跡周辺は古くからの集落があり、現在でも大きな屋敷地が多く大きな開発もなかったが、ふじみ野駅の開設に伴い徐々に再開発が進みつつある。

本遺跡の最初の調査は1987年に大井町史編纂事業の一環として行われた。その後1993年に新駅へ延びる道路をはじめ、2013年12月現在50地点で試掘調査および発掘調査が行われている。

これまでの調査で縄文時代中期後半～後期前半の住居跡、奈良時代から平安時代の住居跡、中世の建物跡などの遺構を検出した。

### II 神明後遺跡第42地点

#### (1) 調査の概要

調査は宅地造成に伴うもので、原因者より「埋蔵文

化財事前協議書」が2010年5月20日付けてふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は遺跡範囲の隣接地であるが、申請者と協議の結果、遺構範囲を確認するために試掘調査を実施した。

試掘調査は同年6月1日から2日まで、2×2mのグリッド11ヶ所を設定し、人力による表土除去と表面精査を行ったが遺構遺物は確認されなかつた。遺構確認面までの深さは約60cmである。旧石器時代の確認調査は行ってない。写真撮影・全測図作成等記録保存を行ったうえ埋め戻し、調査を終了した。

### III 神明後遺跡第43地点

#### (1) 調査の概要

調査は個人住宅建設に伴うもので、原因者より「埋蔵文化財事前協議書」が2010年9月6日付けてふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は遺跡の中央部に位置するため、申請者と協議の結果、遺構の存在を確認するために試掘調査を実施した。

試掘調査は2010年10月20日から22日まで、幅約1.5mのトレーナーを3本設定し、重機で表土除去後、人力による表面精査を行った結果、遺構を確認した。遺構確認面までの深さは約40～50cmで、盛土等による遺構の保存が困難なため、補助事業の対応で10月22日本調査を行った。柵列状に並ぶ近世以降のビッ



第68図 神明後遺跡の地形と調査区（1/4,000）

ト7基を検出した。旧石器時代の確認調査は行っていない。写真撮影・全測図作成など記録保存を行ったうえ埋め戻し、調査を終了した。

## (2) 遺構と遺物

### ①ビット

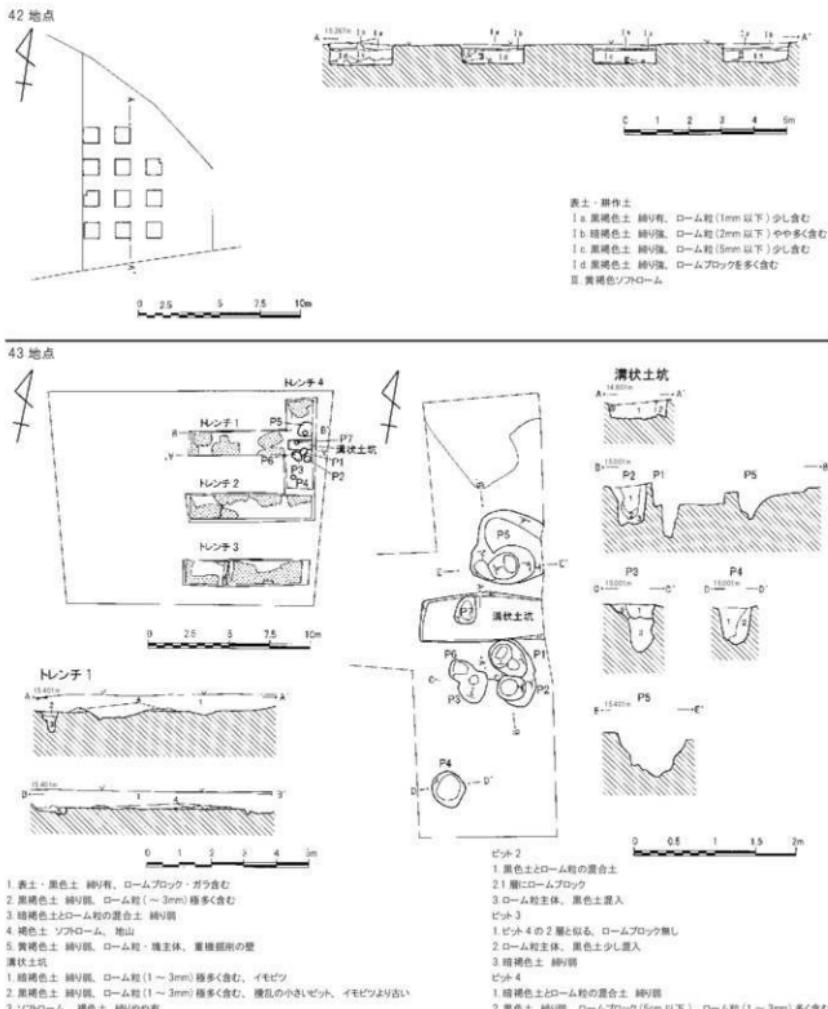
調査区北東部でビットを7基検出した。柵列状に並ぶ。軟質の土で近世以降と思われる。

第39表 神明後遺跡第43地点遺構一覧表(単位cm)

No.	平面形態	確認面	底面	深さ	備考
P1	楕円形	52×38	16×10	66.0	
P2	方形	35×30	21×20	48.7	
P3	不明	41×(35)	12×10	61.1	
P4	方形	45×40	31×30	47.0	
P5	不明	92×(89)	22×15	56.8	
P6	不明	(28)×28	17×16	40.8	
P7	方形	34×25	24×15	24.2	
講状土坑	不明	(151)×58	(148)×53	24.2	

第38表 神明後遺跡調査一覧表

地点	所在地	調査期間( )は試掘調査	面積(m <sup>2</sup> )	調査原因	確認された遺構と遺物	所収報告書
1	苗園 281-4	(1993.5.6～11)	615	個人住宅	遺構なし。平安時代瓦器部片、陶器片	町内蔵
2	苗園 295-2299.3	(1993.5.12～20)	1,688	遺構築造	護とし穴1、平安住居跡1軒(41号)、施主土坑1、中世近世建物跡、地下式窓1、井戸1、植	町内蔵
3	苗園 309-12	(1995.3.24～29) (1995.4.3～5.19)	200	分譲住宅	縄文文化期1号(12号)、状面2、理費1、土坑2、ビット34個	町内蔵
4	苗園 302	(1996.6.17～19)	703	物販	遺構なし。縄文土器片	町内蔵
5	苗園神明後 395-5	(1997.3.15)1997.3.15～4.2	80	個人住宅	縄文文化期1号(5号)、土坑5、礫、陶	町内蔵
6	苗園 255-227-2	(1997.9.29～30)	150	個人住宅	土坑1、土器部・石器片	町内蔵
7	苗園 260	(1998.6.1～2)	1,460	個人住宅	追出塗1、窓1	町内蔵
8	苗園 235-1	(1998.7.13～24)	458	共同住宅	縄文土器片	町内蔵
9	苗園 310-1	(1998.9.1～11)1998.9.14～10.15	219	共同住宅	土坑1、井戸2、施主窓1、落とし穴1、施主土坑2、近世土坑1、井戸1、井戸2、井戸3、ビット33個	町内蔵
10	苗園 298-4	(1999.9.6)	44	個人住宅	遺構なし。縄文土器片	町内蔵
11	苗園 366	(1999.10.21)1999.10.22～26	239	個人住宅	土坑17、ビット7個	町内蔵
12	苗園 282-2・5	(2000.3.6)	211	共同住宅	遺構無し	町内蔵
13	苗園 302-1	(2000.4.17～19)	694	個人住宅	土坑12、ビット	町内X
14	苗園 252-2	(2000.8.18～23)	357	共同住宅	土坑1、近世建物柱跡1脚、溝2、井戸1、櫛河、ビット38個	町内X
15	苗園 203-15	(2001.4.11)2001.4.12～13	163	個人住宅	集石右岸1(阿五台形)	町内X
16	苗園 309-14	(2001.7.23～24)2001.7.25～9.3	165	個人住宅	縄文文化期4、土坑13、溝2、地下式窓1、堅穴状遺構1、ビット38個	町内X
17	苗園 369-1	(2002.3.28)	581	個人住宅	近世溝	町内X
18	苗園 304-1.303-6	(2002.5.15～25)2002.5.27～6.21	672	共同住宅	縄文文化期10(58～12号)、土坑、古代・中世織跡	町内X
19	苗園 264-4	(2002.9.18～20)	216	個人住宅	切削痕、溝4	町内X
20	苗園 293-11	(2003.1.14～15)	143	個人住宅	中世遺跡2、ビット2個	町内X
21	苗園 283-4	(2003.1.10～30)	674	地造成	ビット1、井戸1、近世地下式窓2、土坑1	町内X
22	苗園 235-2・3	(2003.7.8～29)	430	共同住宅	井戸1、土坑10、ビット38、江戸後期陶器	町内X
23	苗園 253	(2004.4.9)	62	個人住宅	地下第1、残窓	町内X
24	苗園神明後 293-4・10	(2004.9.30～10.7)	148	個人住宅	遺構・遺物無し	町内X
25	苗園 295-1	(2004.9.30～10.7)	660	賃借併用住宅	遺構・遺物無し	町内X
26	苗園神明後 301.303-3・5・4	(2005.6.1～8)	689	分譲住宅	縄文文化期11(13号)、中世地下式窓、近世土坑5、溝	調査18集
27	苗園 248-2.249-1	(2005.6.15～30)	385	共同住宅	縄文文化期10(8号)、11(4号)	調査18集
28	苗園神明後 306-1	(2006.5.8～31)	2,171	宅地造成	中世中期10(11(5～25号)、集石23、土坑5、落とし穴1、砂穴3、ビット1、古墳・中世織跡1	砂内3
29	苗園神明後 303-21・24	(2006.6.29～10.5)	136	個人住宅	ビット1、古墳・中世織跡1	砂内3
30	苗園神明後 303-1	(2006.5.8～19)2006.12.14～19	101	個人住宅	ビット12	砂内3
31	苗園神明後 284	(2007.8.3～7)	499	個人住宅	土坑2	砂内4
32	苗園神明後 247-2	(2008.3.13)	136	個人住宅	近・現代廻流	砂内4
33a	苗園 240-2	(2008.4.25～5.16)	298	個人住宅	落とし穴1、中世織跡6、井戸2、土坑38、ビット16個	砂内6
33b	苗園 240-2	(2008.4.25～5.16)	357	分譲住宅	落とし穴1、中世織跡1、堅穴6、井戸1、堅穴状遺構1、土坑9	砂内6
34	苗園神明後 283-1.289-4・1	(2008.4.30～5.15)	1,693	個人住宅	縄文中期住居跡1(2号)、落とし穴1、集石3、ビット1	砂内5
35	苗園神明後 293-4・20	(2008.8.1)	247	個人住宅	遺構・遺物無し	砂内6
36	苗園神明後 293-3	(2008.9.2)	165	個人住宅	ビット1	砂内6
37	苗園 258-1.0～1	(2009.4.13)2009.4.15～30	120	個人住宅	縄文中期住居跡1	砂内8
38	苗園神明後 293-1.292-13	(2009.7.6～7)2009.7.8～16	265	個人住宅	中古鉄道1	砂内8
39	苗園神明後 264-1	(2009.8.5～12)2009.8.24～9.1	378	共同住宅	中世遺跡2、ビット28、落とし穴1	砂内7
40	苗園 309-1	(2009.11.9～16)	156	個人住宅	縄文中期住居1、中世地下式窓2、井戸1、堅穴状遺構1、土坑9	砂内8
41	苗園神明後 298-1.299-1の一部	(2010.5.25～31)	486	共同住宅	縄文中期住居土坑1、中世の側立柱建物跡、方形突穴状遺構16、溝5、木棺1、ビット214、木調査(40m)	砂内9
42	苗園神明後 380-3	(2010.6.1～20)	312	宅地造成	遺構・遺物無し。(隣接地)	砂内10
43	苗園 292-14	(2010.10.20～22)2010.10.22	107	個人住宅	中世・近世期ビット2、木調査	未報告
44	苗園神明後 367-1.368-1の一部	(2011.7.20)2011.7.11～13	1,535	個人住宅	落とし穴1、土器・陶片	未報告
45	苗園神明後 235-9	(2011.12.5)	200	個人住宅	遺構無し	未報告
46	苗園神明後 235-6	(2012.4.9～10)	233	個人住宅	縄文土坑1、土器片	未報告
47	苗園神明後 227-2	(2012.4.24)2012.4.25～5.8	340	個人住宅	縄文中期住居土坑3、縄文土器片	未報告
48	苗園神明後 315-1の一部	(2012.5.12)2012.5.14～14	171	個人住宅	井戸2、溝、土坑、ビット、板磚、カワラケ、近世陶器部、石	未報告



第69図 神明後遺跡第42・43地点遺構配置図(1/300)、土層図(1/150)、溝状土坑・ビット(1/60)

## 第12章 清禅寺跡遺跡の調査

### I 遺跡の立地と環境

清禅寺跡遺跡は、東武東上線ふじみ野駅の東約600m、清禅寺川の湧水地南側から右岸の台地上に位置する。標高12~14mで現谷底との比高差は2mを測る。清禅寺川はさかい川と砂川堀の間を東流し、さかい川に合流する。さかい川はやがて砂川堀に合流して新河岸川へと注ぐ。

周辺の遺跡は北西に神明後遺跡、北側に苗間東久保遺跡が隣接する。本遺跡は1989年に苗間東久保遺跡の一部を、清禅寺川を境に分割して登録した。

遺跡周辺は市街化が進み、残された畠地も周辺の区画整理の影響で開発が増加している。

2013年12月現在39地点で試掘調査及び発掘調査が行われ、繩文時代早期の炉穴多数、前期住居跡1軒、中期住居跡1軒、中・近世の薬研状の堀や、遺跡名の由来である清禅寺墓域から土壙墓157基、一字一石約76,000点が出土している。旧苗間村の清禅寺は江戸時代に建立されたが、幕末に焼失して以来再建されていない。

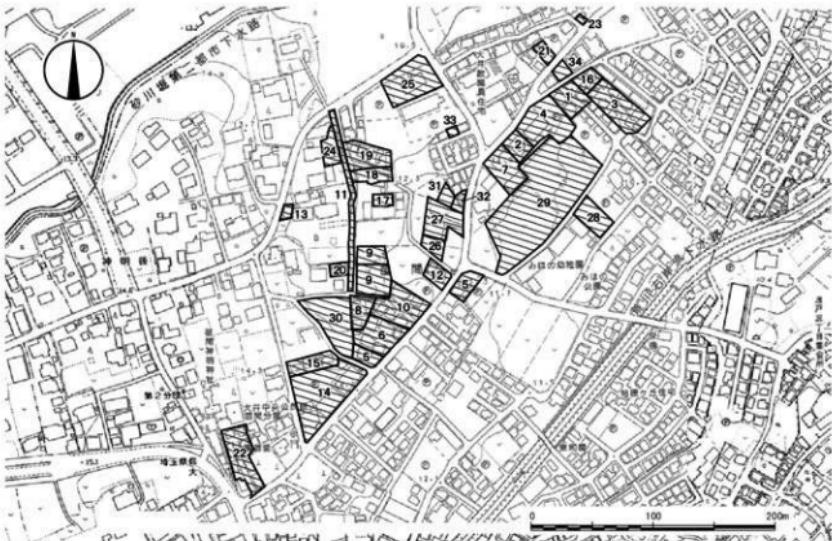
### II 清禅寺跡遺跡第33地点

#### (1) 調査の概要

調査は個人住宅建設に伴うもので、原因者より「埋蔵文化財事前協議書」が2010年7月28日付でふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は遺跡の中央部に位置するため、申請者と協議の結果、遺構の存在を確認するために試掘調査を実施した。

試掘調査は2010年8月6日に、ブロック崩設置予定箇所へ幅約0.7mのトレーナーを1本設定し、重機で表土除去後、人力による表面精査を行った結果、遺構を確認した。遺構確認面までの深さは約35cmで、盛土等による遺構の保存が困難なため、補助事業の対応で10月22日本調査を行った。土坑1基を検出した。

なお、住宅建築部分は60cmの盛土を行い、保存措置をとることになった。旧石器時代の確認調査は行っていない。写真撮影・全測図作成など記録保存を行ったうえ埋め戻し、調査を終了した。



第70図 清禅寺跡遺跡の地形と調査区(1/4,000)

## (2) 遺構と遺物

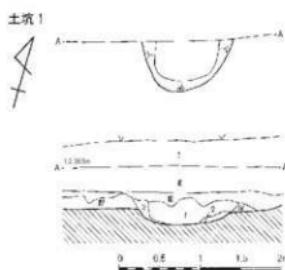
## ① 土坑

調査区南東部に土坑を1基検出した。ブロック設置個所のみ調査のため、土坑北半分は未検出である。

上端東西110cm、下端80cm、確認面からの深さ14cm、繩文土器が1点出土している。

第40表 清禅寺跡遺跡調査一覧表

地点	所在地	調査期間 ( )は試掘調査	面積 (m <sup>2</sup> )	調査原因	確認された遺構と遺物	所収報告書
1	清禅寺久保579	1979.4.3～4.21	605	個人住宅	清禅寺東久保1地古として報告済み 砂穴10、土坑14、繩文早期後半・中期	東京都総研I
2	清禅寺久保573	1982.4.1～4.3	396	個人住宅	清禅寺東久保1地古として報告済み 繩文土器	東京都総研II
3	清禅寺久保581	1984.7.20～7.21	320	個人住宅	清禅寺東久保12地點を清禅寺3地點とする 繩文土器	未報告
4	清禅寺明後346-1	1989.11.15～11.25	150	開発予定地	砂穴10、土坑7、ビット14、 繩文早期後半・中期	東京都総研IV
5	清禅寺374-9	1991.8.28～9.3	100	個人住宅	繩文なし、植物なし	町内遺跡群I
6	清禅寺358-1	1991.9.21～12.26	826	個人住宅	繩文なし、植物なし	町内遺跡群I
7	清禅寺久保573-4	1992.10.20～11.20	831	個人住宅	砂穴8、井戸13、埴1、繩文草～中期	調査会報告V集
8	清禅寺357-4	(1994.9.20～9.27)	615	宅地分譲	繩文なし、切削痕	町内遺跡群IV
9	清禅寺353	(1994.10.18～2007.5.22) ～24	1,266	農地改良	土坑、溝、繩文土器、磁器	町内遺跡群IV、市内A
10	清禅寺356-1	1994.10.31～11.2	999	宅地分譲	世紀土壌層、石材埋納土壌、 六道鉢、口口山削形	調査会報告12集
11	清禅寺352-1 他	(1995.1.9～2.3)	572	遺跡	南北口	町内遺跡群II
12	清禅寺35-95	1995.9.25～10.21	140	個人住宅	野外炉、遺物集中3、ビット16、溝5、 繩文中期土器、磁器	町内遺跡群V
13	清禅寺314-2	(1996.1.8～12.9)	101	個人住宅	土坑13、ビット11、井戸1、溝2、 繩文早中期、陶器	町内遺跡群V
14	清禅寺360.1.362-2	(1996.6.3～6.12) 1996.6.18～7.11	2,178	個人住宅	繩文1、溝6.1、溝4、ビット231、 右石器、繩文中期、陶器断片	町内遺跡群II
15	清禅寺3624.4～5	(1996.6.3～6.12) 1996.7.12～8.2	494	分譲住宅	砂穴7	町内遺跡群II
16	清禅寺579-1	1997.11.10～12.19	291	個人住宅	清文住居1、砂穴14、ビット61、土坑16、溝4、繩文早期後半、前期、中期	町内遺跡群III
17	清禅寺345.2～10	(1998.9.29～10.25)	877	個人住宅	繩文なし、繩文早期後半、中期後半	町内遺跡群III
18	清禅寺373.5～8.377.5～3～4	(1999.5.26～6.24) (1999.6.25～8.3)	599	個人住宅	砂穴8、集石3、土坑13、ビット27、溝 繩文後期後半、土坑8	町内遺跡群IV
19	清禅寺明後345-4	1999.8.9～	703	分譲住宅	砂穴1、集石2、硬土4、土坑22、井戸2、溝8、堆立5、 繩文早中期土器、石器、中近世鉄器、板鏡	調査会報告V集
20	清禅寺明後354-1	(2001.10.26～10.29)	223	遺跡	繩文なし、近世鉄器	町内遺跡群IX
21	清禅寺久保591.3.592.7	(2001.11.19～11.20)	182	個人住宅	繩文なし、植物なし	町内遺跡群IX
22	清禅寺373.5～8.377.5～3～4	(2002.4.23～5.14)	935	分譲住宅	土坑1、ビット4、溝、植物なし	町内遺跡群IV
23	清禅寺592-1	(2003.4.28)	100	個人住宅	ビット2、溝、植物なし	町内遺跡群IV
24	清禅寺明後346.1～2の一部	(2004.8.30～8.31)	391	個人住宅	繩文なし、植物なし	町内遺跡群IV
25	清禅寺339.1～2	(2004.9.22～10.12)	721	分譲住宅	ビット2	町内遺跡群IV
26	清禅寺明後354.2の一部	(2005.3.3～3.8) 2006.4.17～28.6.7～15	216	分譲住宅	砂穴10、土坑8、ビット21、溝1、繩文中期片 繩文なし、近世鉄器	市内遺跡群3
27	清禅寺明後354-2	(2005.12.1～2006.1.22)	696	新規道路施設	砂坑1、砂穴15、埋糞2、土坑11、 分譲住宅	市内遺跡群2
28	清禅字久保719.7.720-1	(2007.1.23)	2,478	施設改修工事	溝2	市内遺跡群3
29	清禅寺570.1～2.571.1～2.575	(2007.8.7～9.21) 2007.9.25～11.6	4,920	分譲住宅	砾石柱建物跡3、井戸15、土坑15、堆1、溝17、陶器、板鏡他	市内遺跡群4
30	清禅寺359-1	(2007.9.14～10.9) 2007.10.9～11.2	1,298	分譲住宅	基壇5、木炭窯1、土坑15、溝2、陶器、板鏡他	市内遺跡群4
31	清禅字神明後342.14～源 3.5	(2007.2.19～2007.2.19～ 3.5)	171	個人住宅	砂坑1、砂穴1、土坑1、ビット26、繩文土器、石器	市内遺跡群4
32	清 禅 字 神 明 後 340.17.342.10.15.	(2007.2.25～3.4)	188	個人住宅	砂坑1、ビット1、繩文土器	市内遺跡群4
33	清禅字神明後340.21	(2010.8.6)	76	個人住宅	土坑1	市内遺跡群10



- I. 暗褐色土、紳少有、粘性有、ローム粒(2mm以下)多量に含む、  
燒土(2mm以下)・炭化物(5mm大)少し含む
- II. 暗褐色土、紳少有、粘性有、量豊か黒い、ローム粒(2mm以下)  
多量、燒土(2mm以下)・炭化物(5mm大)少し含む
- III. 黑色土、紳少有、粘性有、黒色土ベースシミ付に暗灰黑色土  
(1cm以下)シミ付に多量に含む
- IV. 黑褐色土、紳少有、粘性有、ソフロム地山(ロームシミ付)  
燒土の混合
- V. 黑褐色土、紳少有、粘性有、ローム粒・燒土(1mm以下)少し  
含む、焼石・土器出土(より縄文早期)
- 2. 暗褐色土、紳少有、粘性有、暗褐色土と黒褐色土を斑状に含む、  
シミローム(1mm以下)・燒土少し含む

第71図 清禅寺跡遺跡第33地点遺構配置図(1/300)、土坑(1/60)

## 第13章 小田久保遺跡の調査

### I 遺跡の立地と環境

小田久保遺跡は、東武東上線ふじみ野駅の南西約1.3km、砂川堀の左岸、標高23～28mに位置する。本遺跡をのせる台地は緩やかな斜面を形成するが、対岸の南側台地は急傾斜をなす。

周辺の遺跡は、砂川堀を挟んだ南側台地上に旧石器時代の石器・礫群を検出した西台遺跡が、本遺跡の東側、微高地の突端には縄文時代前期住居を検出した大井氏館跡遺跡がある。

本遺跡は市街化調整区域のため比較的武藏野の面影を残す農村地帯だが、区画整理事業とふじみ野駅の開設により、ここ数年開発の波が押し寄せつつある。

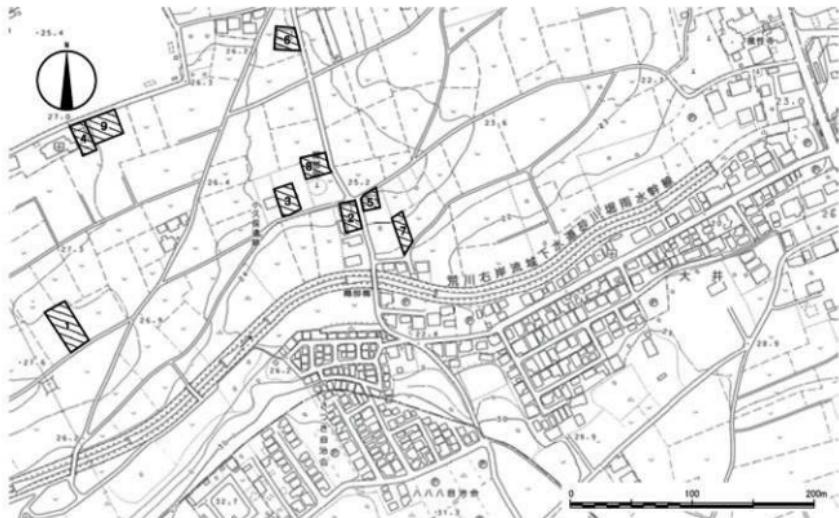
1990年に最初の試掘調査が行われて以来、過去の調査では数点の縄文土器片を確認しているだけであったが、2003年と2004年の調査において本遺跡では初の住居跡を検出したことにより、本遺跡が縄文時代中期の集落である事が明らかとなりつつある。今後は集落の分布や範囲の解明が待たれる。分布調査や発掘調査から遺跡の時期は旧石器時代、縄文時代早期から中期、中世である。2013年12月現在、9ヶ所で調査を行っている。

### II 小田久保遺跡第9地点

#### (1) 調査の概要

調査は個人住宅建設に伴うもので、原因者より「埋蔵文化財事前協議書」が2011年1月7日付でふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は遺跡の西部、砂川堀へ下る北斜面に位置している。申請者と協議の結果、遺構の存在を確認するために試掘調査を実施した。

試掘調査は2011年3月8日に幅約1.5mのトレンチ4本を設定し、重機による表土除去後、人力による表面精査を行ったが、遺構遺物は確認されなかった。遺構確認面までの深さは約25～35cmである。旧石器時代の確認調査は行っていない。写真撮影・全測図作成等記録保存を行ったうえ埋め戻し、調査を終了した。

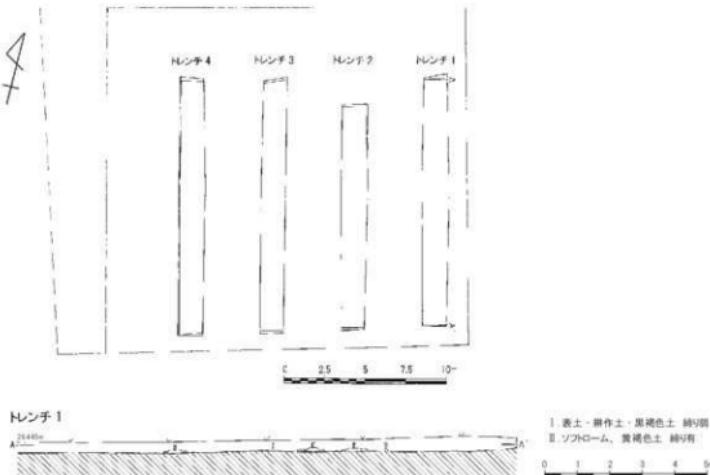


第72図 小田久保遺跡の地形と調査区(1/4,000)

第41表 小田久保遺跡調査一覧表

地點	所在地	調査期間 ( )は試掘調査	面積 (m <sup>2</sup> )	調査原因	確認された遺構と遺物	所轄報告書
1	大井1223-3	(1990.10.12 ~ 18)	694	資材販賣	遺構なし、縄文中期土器片	東X I
2	大井1249-1	(1993.9.21 ~ 10.1)	498	個人住宅	遺構なし、縄文中期土器片、石器	町内Ⅲ
3	大井1214-3	(1994.6.7)	330	個人住宅	遺構なし、縄文中期土器片、石器	町内IV
4	大井1185-5	(1997.6.24 ~ 26)	271	分譲住宅	土坑1	町内V
5	大井字西原1023	(2003.8.18, 19) 2003.8.20 ~ 22	165	個人住宅	縄文中期住居跡1、縄文土器・石器	町内X II
6	大井字小田久保 1207-5	(2004.10.26 ~ 10.27)2004.10.28 ~ 11.13	306	個人住宅	縄文中期住居跡1、集石土坑1、土坑2、ピット8、 縄文土器・石器	町内X II
7	大井字西原 1023-9.8	(2008.5.19 ~ 21)	333	個人住宅	遺構・遺物なし	市内6
8	大井字小田久保 1211-1	(2010.3.3 ~ 9)	421	個人住宅	縄文時代土坑5、ピット8、近世以降根切り溝9、 縄文土器・石器、泥面子	市内8
9	大井字小田久保 1185-1	(2010.3.9)	536	個人住宅	遺構・遺物なし	市内10

\*東：大井町東部遺跡群、町：大井町町内遺跡群、町資：大井町史資料編1、調査：大井町遺跡調査会報告、市：ふじみ野市市内遺跡群



第73図 小田久保遺跡第9地点調査区域図(1/300)、土層図(1/150)

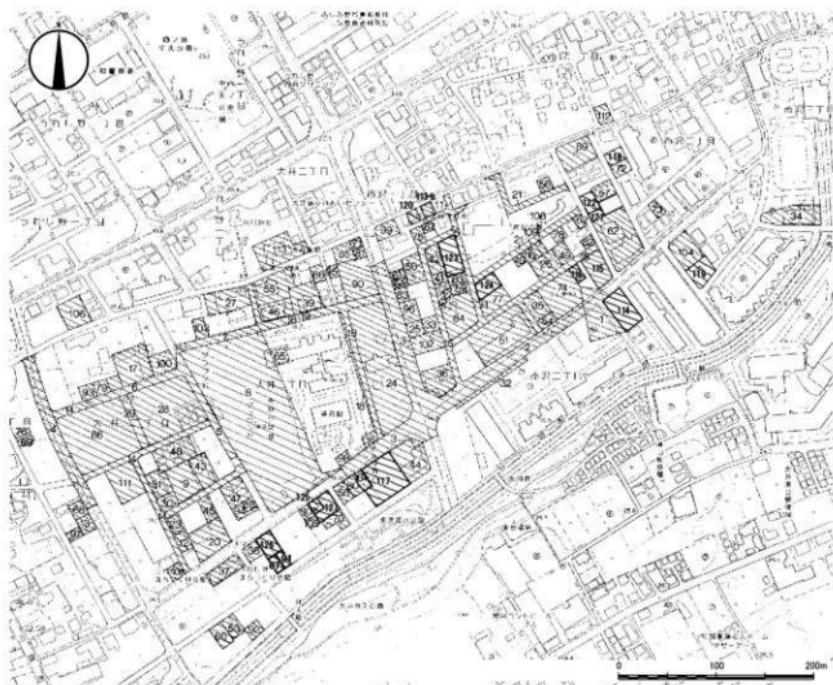
### I 遺跡の立地と環境

本村遺跡は、東武東上線ふじみ野駅の南西約800m、砂川堀の左岸で標高15～20mに位置する。遺跡内には旧砂川の流路であった埋没河川が幾筋も認められ、それに取り残されたように微高地が存在する。砂川堀は狭山丘陵外縁に湧水を成し、武藏野台地上を南西から北東に流れて新河岸川に合流する。

砂川堀の流域には多くの遺跡で、旧石器時代からの人々の活動の跡をみることが出来る。現在においても砂川の果たす役割は当時にも増して大きいものであるが、残念ながらその役割は大きく異なり、用水機能としての砂川から排水機能の砂川堀と言うのが現在の状況である。市内を流れる砂川堀も河川改修により、その姿を都市下水路に変え、往時を忍ばせる面影は残されていない。

周辺の遺跡では、砂川堀を挟んで縄文時代中期の大集落と奈良平安時代の製鉄関連遺跡である東台遺跡、旧石器時代の大井戸上遺跡と西台遺跡が位置する。左岸には旧石器時代～縄文時代の小田久保遺跡、旧石器時代～近世の大井氏館跡遺跡が位置する。本遺跡が中世から近世にかけての中心的な集落とするならば、大井氏館跡遺跡は近世川越街道整備以後の中心的な宿場および集落とみることができる。いずれにしても、町内における砂川堀流域の本村遺跡周辺は旧石器時代から現代にかけて良好な生活・住環境であったことがわかる。

2013年12月現在127地点で調査を行い、旧石器時代の礫群・石器集中、縄文時代の落とし穴・炉穴、中世～近世の掘立柱建物跡・方形堅穴状遺構・井戸・溝・柵列・地下式壙・茶毬跡などを多数検出している。



第74図 本村遺跡の地形と調査区（1/5,000）

第42表 本村遺跡調査一覧表

番号	測量地	測量範囲	面積(㎡)	調査回数	確認された遺構・遺物	測定直
86	大字2.10.1~4.14	200903.15~6.29	5,743	2回目調査	柱穴、木棺蓋、中世・廃瓦、建物跡、柱頭1、柱頭2、地下式坑2、土坑1、土窓1、壁1、土窓1、土窓2、土窓3、土窓4、壁2、柱頭2、ビット30	土窓15 柱頭15
87	大字2.12.2	200903.31~8.8	165	個人目次	柱頭2、建物跡、柱頭1、土窓2	柱窓2
88	大字2.13.6	200906.27~7.3	154	個人目次	柱頭2	柱窓2
89	大字2.11.3.2	200907.19~8.1	326	分譲目次	鏡文、扇形1、イモビツ	柱窓2
90	大字2.7.4.5	200908.31~9.22	540	個人目次	鏡文、扇形1、瓦片	柱窓2
91	大字2.12.2	200909.25~27	371	個人目次	柱頭2、建物跡	柱窓2
92	大字2.4.13	200910.10	231	個人目次	柱頭2、建物跡	柱窓2
93	大字2.1.1	200910.18~11.1	482	個人目次	柱頭2、柱頭1、土窓1、ビット1	柱窓2
94	大字2.7.8.8	200911.2~26	857	個人目次	柱頭2、廻転窓、柱頭1、土窓1、ビット1、柱頭2、廻転窓	柱窓2
95	大字2.2.10	200911.8~9	413	個人目次	柱頭2、廻転窓	柱窓2
96	大字2.6.5	200911.10~13	998	個人目次	柱頭2、廻転窓	柱窓2
97	大字2.7.3.1	200911.13~15	413	個人目次	柱頭2、廻転窓	柱窓2
98	大字2.9.3	200911.17~18	117	学校専用地	廻転2	柱窓2
99	山田2.1	200912.7~31	200	個人目次	柱頭2、廻転2、石面柱1、中世・土坑2、廻転2	土窓15
100	大字2.20.7	200912.18~26	465	個人目次	柱頭2、廻転窓	柱窓2
101	大字2.8.1.3	200912.30~1.14	217	個人目次	柱頭2、廻転窓	柱窓2
102	大字2.8	200912.11~200912.20	1,264	個人目次	廻転2、扇形2、古石柱頭・扇形1、柱窓4、廻転1、廻転2、廻転3	柱窓15
103	大字2.14.3	200912.13~18	233	個人目次	柱頭1、ビット1	柱窓2
104	大字2.3.4.1	200913.14~30	804	個人目次	鏡文、扇形1、中世・廻転窓、廻転2、柱頭2、土窓4、ビット36	柱窓2
105	大字2.12.4	200913.8~9	131	個人目次	柱頭2	柱窓2
106	大字2.1.11	200913.7~9	115	個人目次	柱頭2、廻転窓	柱窓2
107	大字2.12.4	200913.7~9	130	個人目次	廻転1、土窓1、ビット1	柱窓2
108	大字2.6.25	200913.17~22	108	個人目次	ビット1	柱窓2
109	大字2.6.26	200913.18~23	114	個人目次	柱頭2、廻転窓	柱窓2
110	大字2.6.27	200914.04~18	101	個人目次	柱頭2、廻転窓	柱窓2
111	大字2.16.2	200911.21~12.11	1,033	分譲目次	鏡文、柱頭2、廻転木版2、中世・廻転1、地下式坑2、土坑1、木棺蓋1、木棺蓋2、柱頭1、柱頭2、廻転1、ビット10	柱窓2
112	大字2.17.18	200904.27	280	個人目次	柱頭2、廻転窓	柱窓2
113	大字2.4.8	200908.22	1,051	分譲専用地	柱頭2、廻転窓	柱窓2
114	大字2.2.3	200905.9~10	273	個人目次	廻転2、廻転	柱窓2
115	大字2.3.1.2	200910.19~28	129	個人目次	柱頭2、廻転窓	柱窓2
116	大字2.20.10	200911.21~2009.1.20	219	個人目次	柱頭2、廻転窓、柱頭1、土窓1、ビット1、廻転2、廻転3	柱窓2
117	大字2.1.1.1~4	200905.22~6.14	1,487	分譲目次	廻転2、柱頭2、廻転	柱窓2
118	大字2.12.13	200905.24~25	803	個人目次	柱頭2、廻転2、廻転	柱窓2
119	大字2.3.24	200906.4~25	530	個人目次	柱頭2、廻転2、柱頭1、土窓1(B)、ビット58	柱窓2
120	大字2.2.3	200908.18	143	個人目次	柱頭2、廻転窓	柱窓2
121	大字2.1.10	200904.22	130	個人目次	柱頭2、廻転窓	柱窓2
122	大字2.1.26.27	200905.27~6.3	301	分譲専用地	柱頭2、廻転2、廻転	柱窓2
123	大字2.3.2.2	200905.28~6.1	803	分譲専用地(410.06)	柱頭2、廻転窓	柱窓2
124	大字2.6.1	2010.01.8~120	429	定期調査(DOB)	柱頭2、廻転1	柱窓2
125	大字2.12.17	2010.03.2	143	個人目次	柱頭2、廻転2	柱窓2
126	大字2.12.2	2010.03.4~6	913	個人目次	柱頭2、廻転2	柱窓2
127	大字2.12.16, 18	2010.03.4~8	417	分譲目次	柱頭2、廻転2	柱窓2

大字=大井町(調査済全部)、大字=大井町(未調査)、廻転=廻転跡、柱頭=柱頭跡、柱窓=柱窓跡

## II 本村遺跡第123地点

### (1) 調査の概要

調査は宅地造成に伴うもので、原因者より「埋蔵文化財事前協議書」が2010年5月31日付けでふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は遺跡の中央部に位置し、かつて「フルドウ」(古堂)と呼ばれていた場所の近くである。申請者と協議の結果、遺構の存在を確認するために試掘調査を実施した。

試掘調査は2010年7月5日から9日まで、幅約1~2mのトレンチ4本を設定し、重機による表土除去後、人力による表面精査を行った。その結果、ほぼ全面で現地表面から約130cmの深さまで土取りが行われており攪乱されていた。特に調査区の南と北が著しい。中央部分は区画整理前の土地境のため地山の残りはいい。遺構・遺物は確認されず工事による掘削が遺跡に影響を与えないため、写真撮影・全測図作成等記録保存を行ったうえ埋め戻し、調査を終了した。なお旧石器時代の確認調査は行っていない。

## III 本村遺跡第124地点

### (1) 調査の概要

調査は宅地造成に伴うもので、原因者より「埋蔵文化財事前協議書」が2010年5月31日付けでふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は遺跡の中央部に位置している。申請者と協議の結果、遺構の存在を確認するために試掘調査を実施した。

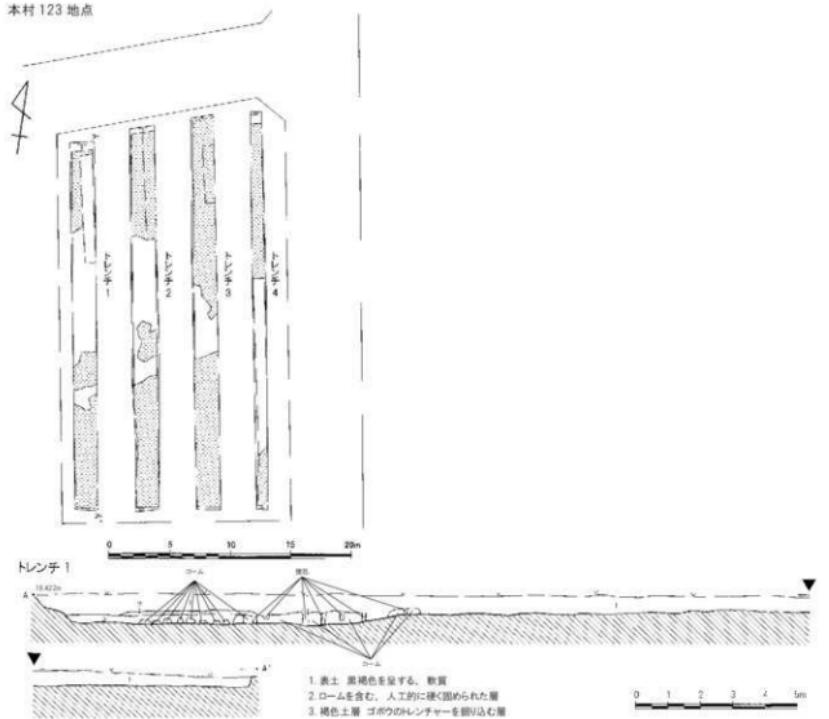
試掘調査は2010年7月8日から12日まで、幅約2mのトレンチ2本を設定し、重機による表土除去後、人力による表面精査を行った。その結果、ほぼ全面で現地表面から約100cmの深さまで土取りが行われており盛土されていた。中世と思われる土坑1基を確認したため調査し、写真撮影・全測図作成等記録保存を行ったうえ埋め戻し、調査を終了した。なお旧石器時代の確認調査は行っていない。

### (2) 遺構・遺物

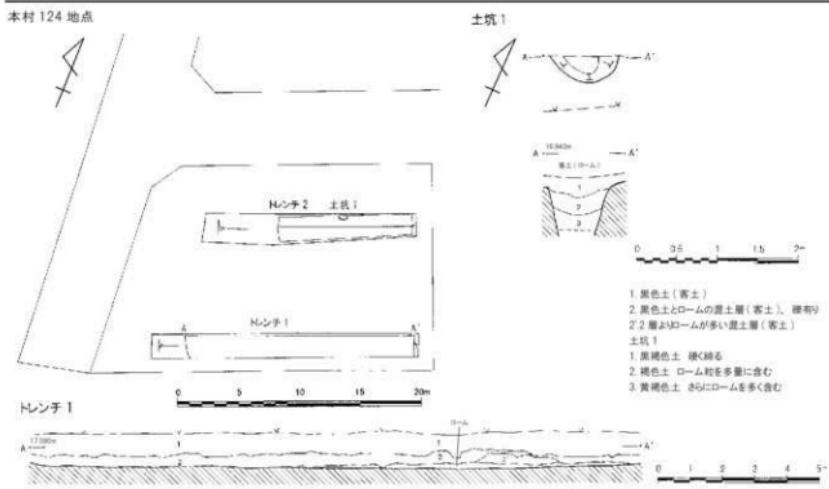
#### ① 土坑

調査区北側に土坑を1基検出した。土坑北半分と底面は未調査である。上端東西85cm、下端38cm、確認面からの深さ60cmまで掘削した

本村123地点



本村124地点



第75図 本村遺跡第123・124地点遺構配置図(1/400)、土層図(1/150)、土坑(1/60)

#### IV 本村遺跡第125地点

##### (1) 調査の概要

調査は個人住宅建設に伴うもので、原因者より「埋蔵文化財事前協議書」が2010年8月23日付でふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は遺跡の南部に位置している。申請者と協議の結果、遺構の存在を確認するために試掘調査を実施した。

試掘調査は2010年9月6日に、幅約1.5mのトレーニング2本を設定し、重機による表土除去後、人力による表面精査を行った。その結果、南側で砂川の旧流路と思われる黒色土堆積を確認したが、他に遺構・遺物は検出しなかった。遺構確認面までの深さは約50～70cmである。旧石器時代の確認調査は行っていない。写真撮影・全測図作成等記録保存を行ったうえ埋め戻し、調査を終了した。

#### V 本村遺跡第126地点

##### (1) 調査の概要

調査は個人住宅建設に伴うもので、原因者より「埋蔵文化財事前協議書」が2010年8月11日付でふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は遺跡の南部に位置している。申請者と協議の結果、遺構の存在を確認するために試掘調査を実施した。

試掘調査は2010年10月4日から6日まで、幅約1～2mのトレーニング4本を設定し、重機による表土除去後、人力による表面精査を行った。その結果、区画整理で廃止となった用水路跡を確認した。また、地山は黒色であり、砂川の自然流路にあたる。他に遺構・遺物は検出しなかった。遺構確認面までの深さは約50～100cmである。旧石器時代の確認調査は行っていない。写真撮影・全測図作成等記録保存を行ったうえ埋め戻し、調査を終了した。

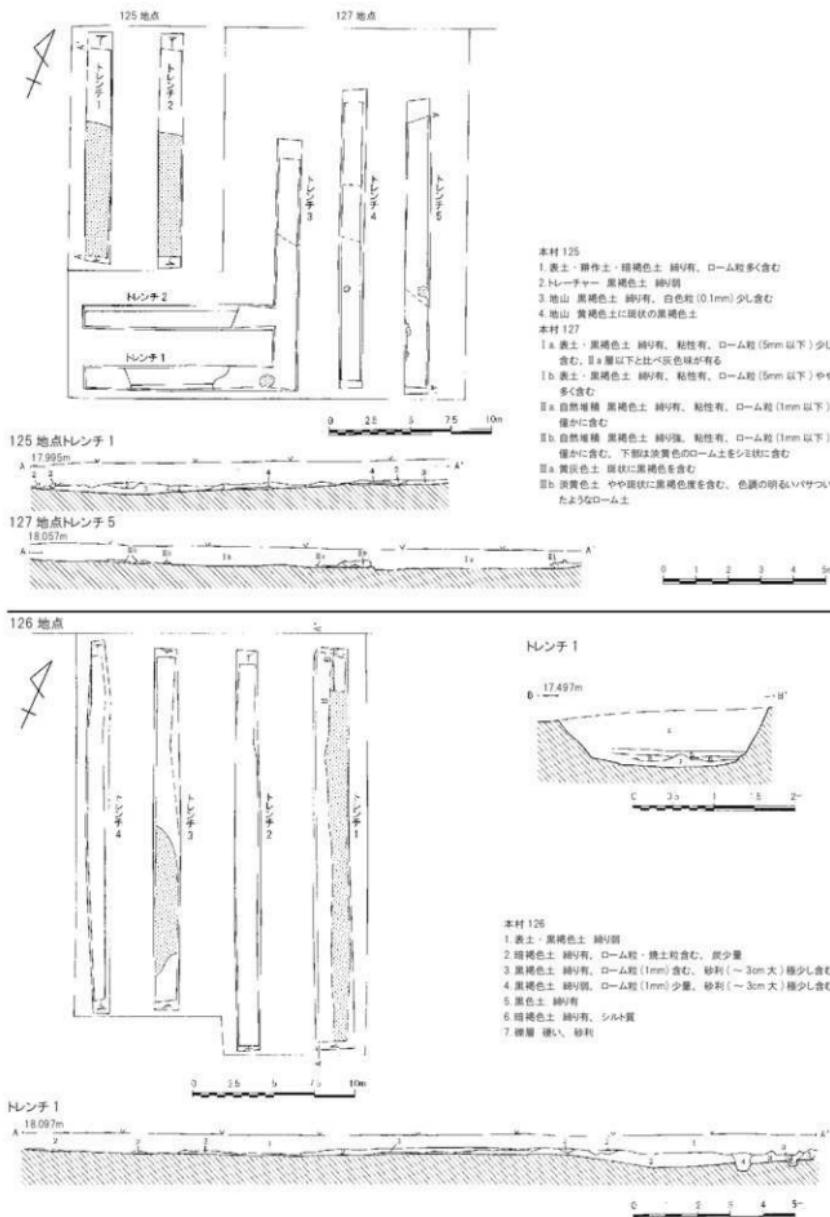
#### VI 本村遺跡第127地点

##### (1) 調査の概要

調査は分譲住宅建設に伴うもので、原因者より「埋蔵文化財事前協議書」が2010年9月9日付でふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は遺跡の南部に位置し、125地点の東側に位置している。申請者と協議の結果、遺構の存在を確認するために試掘調査を実施した。

試掘調査は2010年11月4日から8日まで、幅約1.5mのトレーニング5本を設定し、重機による表土除去後、

人力による表面精査を行った。その結果、砂川の旧流路と思われる黒色土堆積を確認したが、他に遺構・遺物は検出しなかった。遺構確認面までの深さは約50～70cmである。旧石器時代の確認調査は行っていない。写真撮影・全測図作成等記録保存を行ったうえ埋め戻し、調査を終了した。



第76図 本村遺跡第125・126・127地点遺構配置図(1/300)、土層図(1/150・1/60)





北野遺跡第 19 地点トレンチ 1



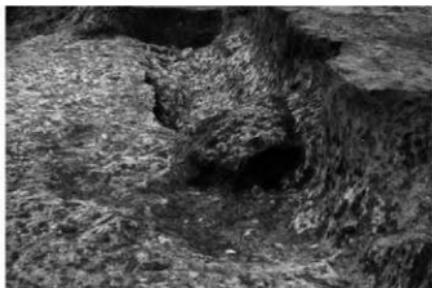
北野遺跡第 19 地点トレンチ 2



川崎遺跡第 32 地点全景



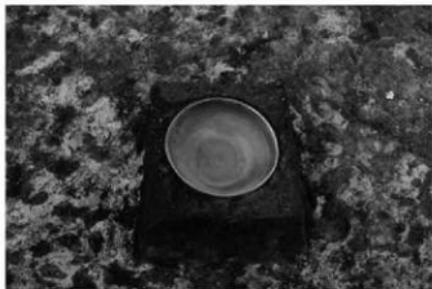
川崎遺跡第 32 地点 H65 号住居跡全景



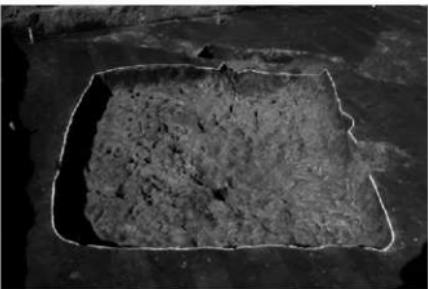
川崎遺跡第 32 地点 H65 号住居跡階段状遺構



川崎遺跡第 32 地点 H65 号住居跡竈



川崎遺跡第 32 地点 H65 号住居跡遺物出土状況



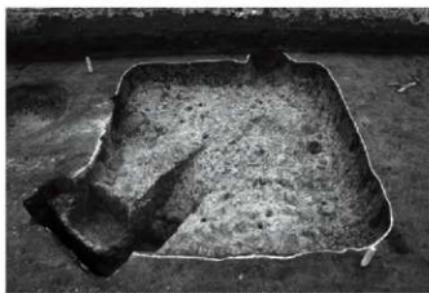
川崎遺跡第 32 地点 H65 号住居跡掘方



川崎遺跡第32地点 H66号住居跡全景



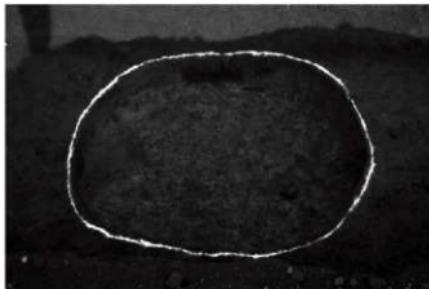
川崎遺跡第32地点 H66号住居跡竪



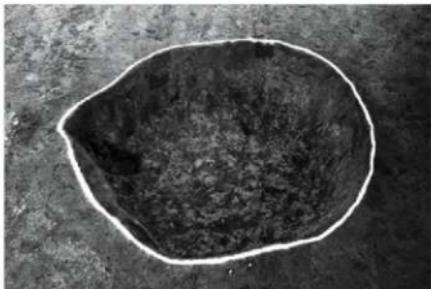
川崎遺跡第32地点 H66号住居跡掘方



川崎遺跡第32地点 H67号住居跡全景



川崎遺跡第32地点土坑1



川崎遺跡第32地点土坑2

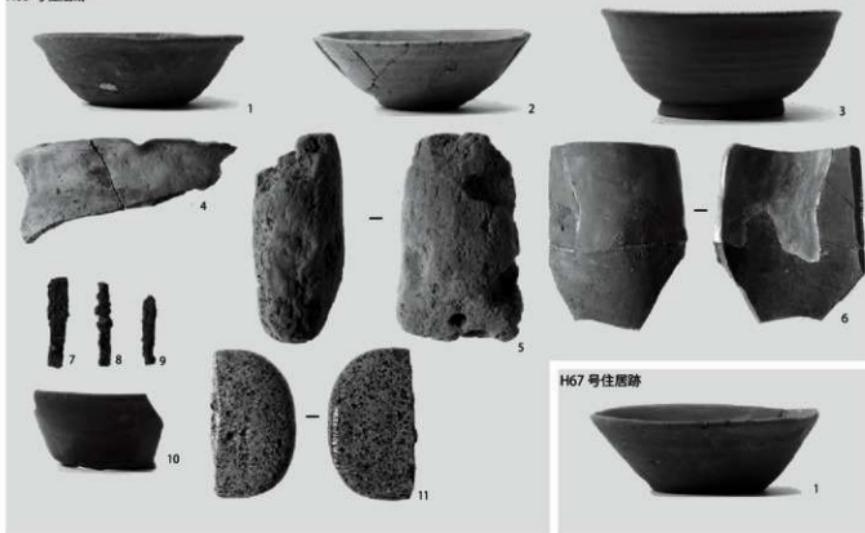


川崎遺跡第32地点土坑3

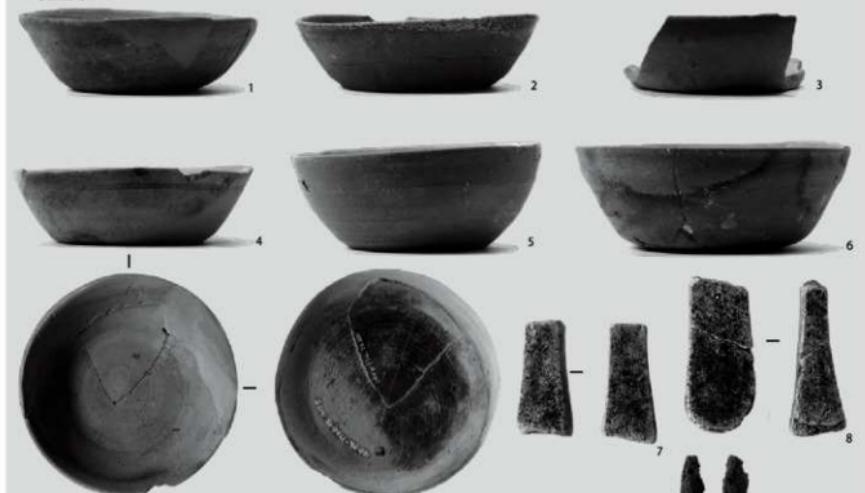


川崎遺跡第32地点調査風景

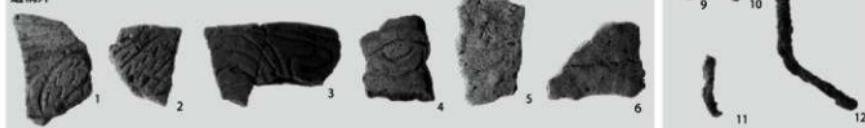
## H65号住居跡



## H66号住居跡



## 遺模外





滝遺跡第 17 地点全景



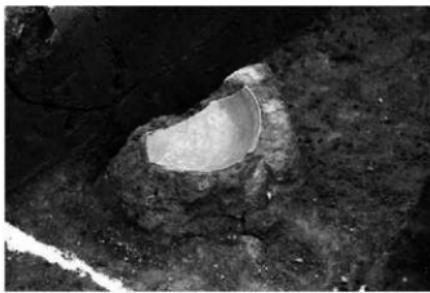
滝遺跡第 17 地点 H23・25 号住跡全景(東から)



滝遺跡第 17 地点 H23・25 号住跡全景(南から)



滝遺跡第 17 地点遺物出土状況



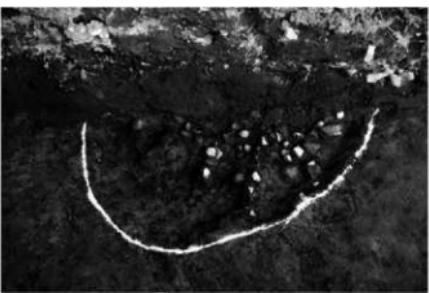
滝遺跡第 17 地点 H25 号住跡遺物出土状況



滝遺跡第 17 地点 H26 号住跡遺物出土状況



滝遺跡第 17 地点 H27 号住跡全景



滝遺跡第 17 地点集石土坑 1



淹遺跡第17地点井戸1



淹遺跡第17地点土坑1



淹遺跡第17地点土坑2・P20



淹遺跡第17地点土坑3



淹遺跡第17地点溝1

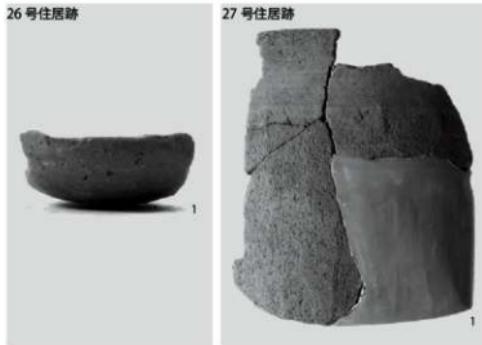


淹遺跡第17地点出土遺物

25号住居跡



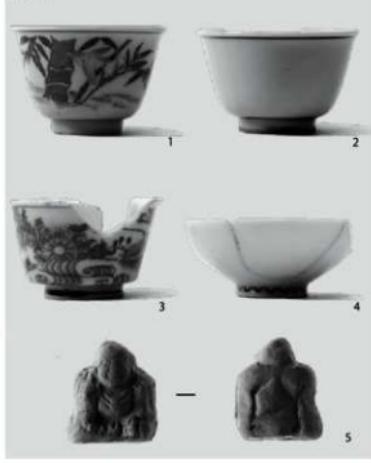
26号住居跡



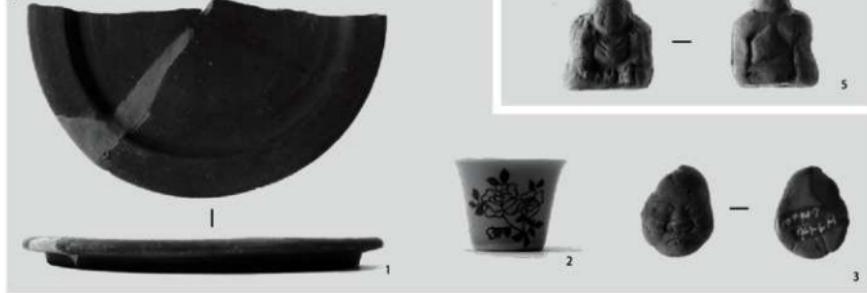
27号住居跡



土坑3



造模外



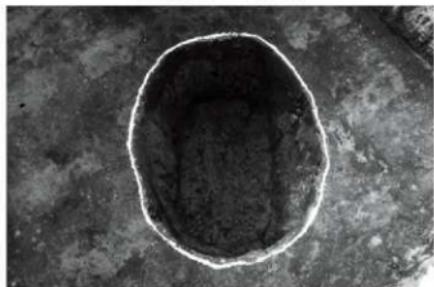
滻遺跡第 17 地点出土遺物



松山遺跡第 51 地点全景



松山遺跡第 52 地点全景



松山遺跡第 52 地点落とし穴



松山遺跡第 52 地点溝



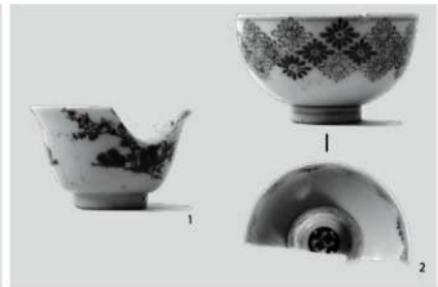
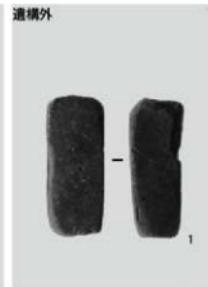
松山遺跡第 53 地点全景



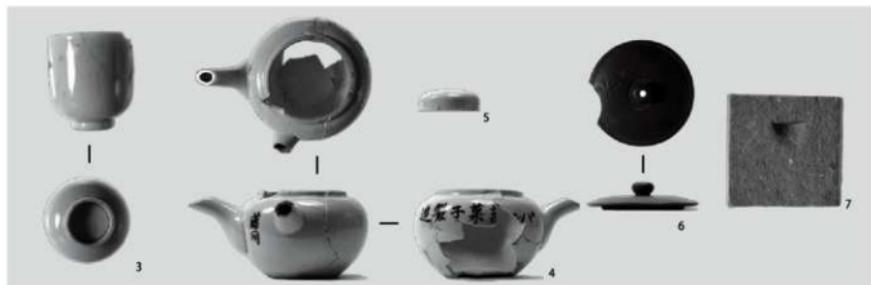
松山遺跡第 53 地点穴藏



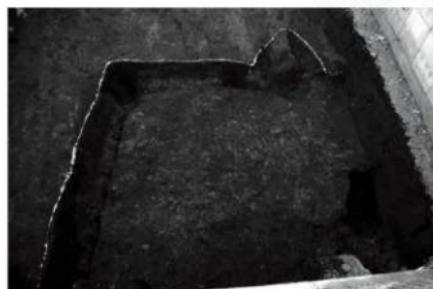
松山遺跡第 52 地点出土遺物



松山遺跡第 53 地点遺構外出土遺物



松山遺跡第 53 地点遺構外出土遺物



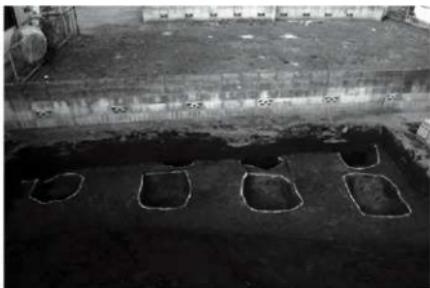
松山遺跡第 55 地点 H40 号住居跡



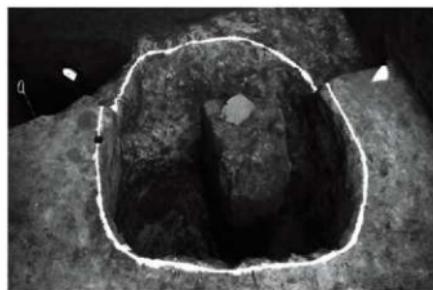
松山遺跡第 55 地点 H40 号住居跡掘方



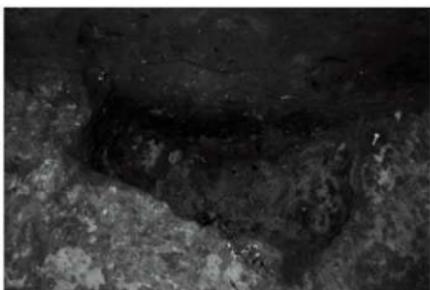
松山遺跡第 55 地点 H40 号住居跡竈



松山遺跡第 55 地点掘立柱建物跡



松山遺跡第 55 地点掘立柱建物跡ビット 1 遺物出土状況



松山遺跡第 55 地点 H40 号住居跡土坑 1



H40号住居跡



松山遺跡第 55 地点調査風景



土坑 1



松山遺跡 55 地点出土遺物



東久保遺跡第 69 地点



駒林遺跡第 11 地点トレンチ 2



駒林遺跡第 11 地点トレンチ 3



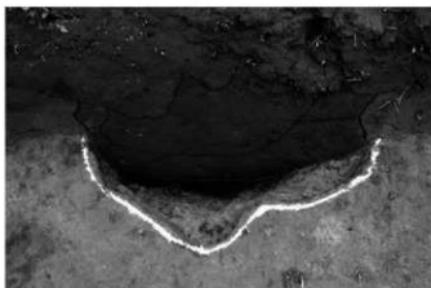
駒林遺跡第 12 地点溝 1



駒林遺跡第 13 地点全景



駒林遺跡第 13 地点ピット群



駒林遺跡第 13 地点土坑 1



駒林遺跡第 13 地点土坑 2



駒林遺跡第 14 地点全景



駒林遺跡第 14 地点土坑 1



駒林遺跡第 15 地点土坑 1



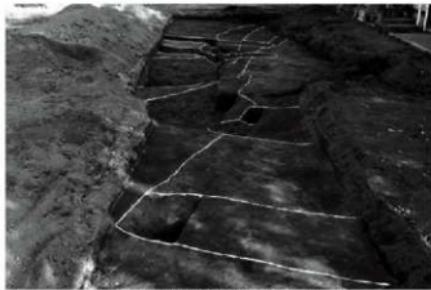
駒林遺跡第 15 地点調査風景



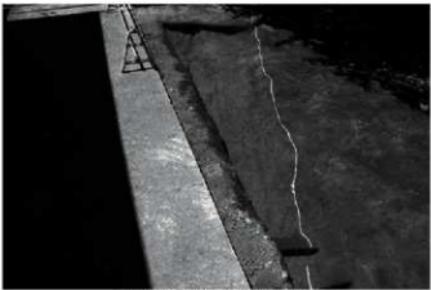
東中学校西遺跡第34地点



東久保南遺跡第38地点



西ノ原遺跡第145地点溝1・2・4



西ノ原遺跡第145地点溝3



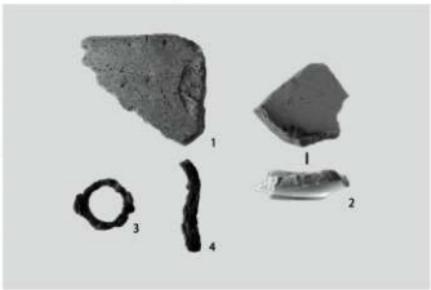
西ノ原遺跡第145地点溝5



西ノ原遺跡第146地点



西ノ原遺跡第146地点溝



西ノ原遺跡」第146地点出土遺物



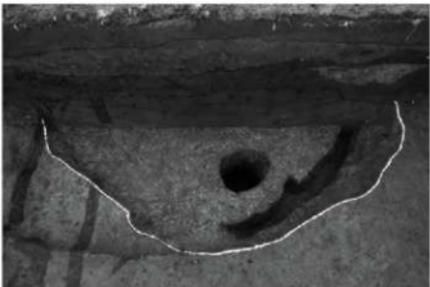
西ノ原遺跡第 147 地点中央部全景



西ノ原遺跡第 147 地点南側全景



西ノ原遺跡第 147 地点 172 号住居跡全景



西ノ原遺跡第 147 地点 172 号住居跡土層



西ノ原遺跡第 147 地点 172 号住居跡炉



西ノ原遺跡第 147 地点集石土坑 2(ピット 37)



西ノ原遺跡第 147 地点集石土坑 1



西ノ原遺跡第 147 地点 172 号住居跡出土遺物

172号住居跡



住居外出土土器



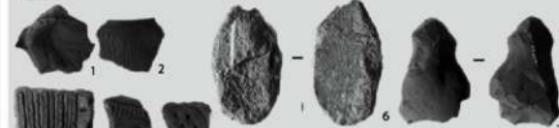
集石土坑1



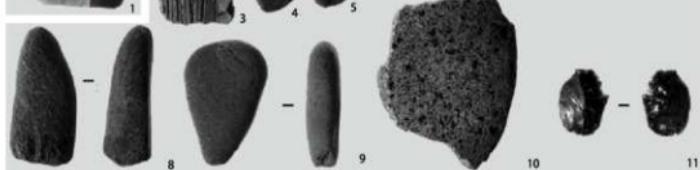
土坑1



遺構外



P50



西ノ原遺跡第147地点出土遺物



西ノ原遺跡第148地点全景中央



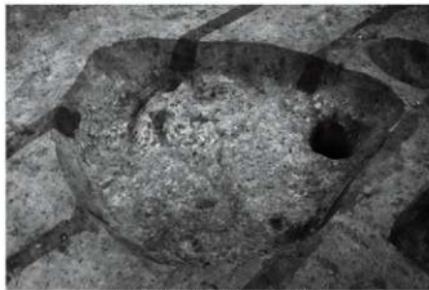
西ノ原遺跡第148地点全景南



西ノ原遺跡第 148 地点 75 号住居跡



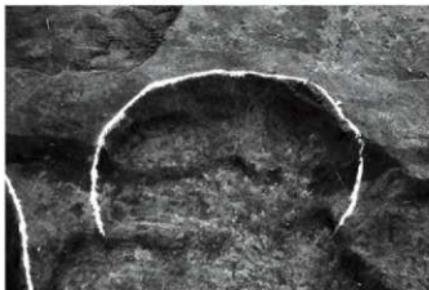
西ノ原遺跡第 147・148 地点溝 1・2



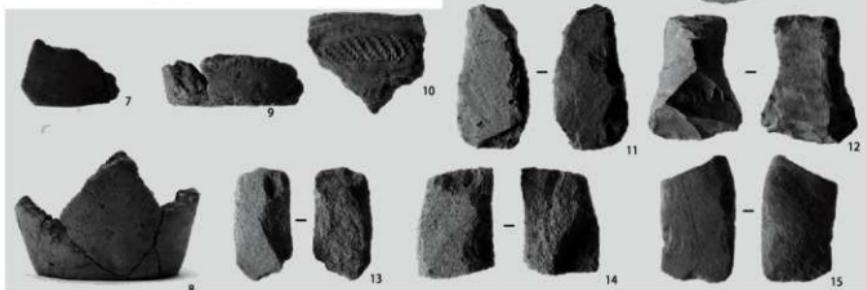
西ノ原遺跡第 148 地点土坑 1



西ノ原遺跡第 148 地点土坑 3

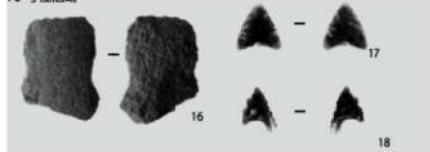


西ノ原遺跡第 148 地点土坑 4



西ノ原遺跡第 148 地点 75 号住居跡出土遺物

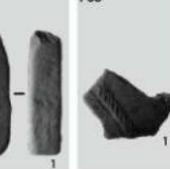
75号住居跡



P51



P61



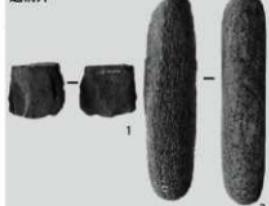
P68



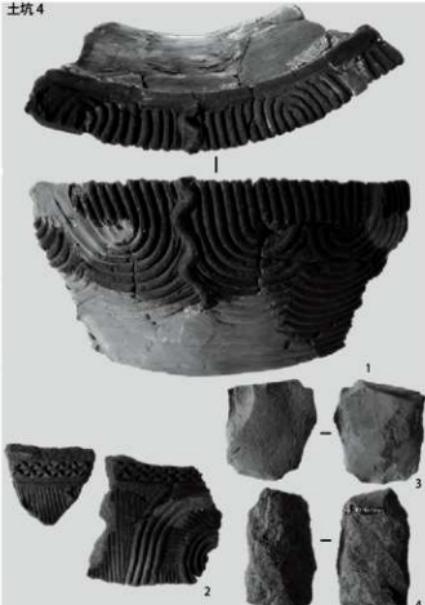
P71



遺構外



土坑4



西ノ原遺跡第148地点75号住居跡、土坑4、P51、P61、P68、P71、遺構外出土遺物



西ノ原遺跡第149地点



神明後遺跡第43地点全景



神明後遺跡第43地点ピット



浄禪寺跡遺跡第33地点



小田久保遺跡第9地点



本村遺跡第123地点トレンチ3完掘



本村遺跡第124地点トレンチ2土坑プラン



本村遺跡第124地点トレンチ2北壁



本村遺跡第125地点



本村遺跡第126地点



本村遺跡第127地点

## 報告書抄録

書名	市内遺跡群 10	シリーズ名	ふじみ野市埋蔵文化財調査報告第 11 集												
編集者	高崎直成	著者	篠森健一・高崎直成												
編集機関	ふじみ野市教育委員会	所在地	〒 356-8501 ふじみ野市福岡一丁目 1 番 1 号 TEL 049 (261) 2611												
発行日	2014 年(平成 26 年)3 月 25 日														
所取遺跡地点名	<table border="1"> <tr> <td>所在地</td> <td>街町コード</td> <td>北緯</td> <td>調査開始</td> <td>調査面積</td> </tr> <tr> <td></td> <td>遺跡コード</td> <td>東経</td> <td>調査終了</td> <td>調査担当者</td> </tr> </table>					所在地	街町コード	北緯	調査開始	調査面積		遺跡コード	東経	調査終了	調査担当者
所在地	街町コード	北緯	調査開始	調査面積											
	遺跡コード	東経	調査終了	調査担当者											
種別 // 主な時代・主な遺構・主な遺物															
特記事項															
かわさき 川崎遺跡第 32 地点	埼玉県ふじみ野市川崎字宮脇 140 の一部	112453 25-003	35° 51' 05" 139° 31' 31"	20110224 20110325	163 個人住宅建設 越村篤										
	集落跡 // 奈良・平安時代 / 住居跡 3 軒、土坑 3 基・土師器、須恵器														
たき 滝遺跡第 17 地点	埼玉県ふじみ野市滝 3 丁目 3-6-3-144	112453 25-008	35° 52' 49" 139° 31' 47"	20100506 20100618	197 分譲住宅建設 越村篤										
	集落跡 // 奈良・平安時代 / 住居跡 5 軒、井戸 1 基、土坑 4 基、溝 1 条、集石土坑 1・縄文土器、奈良・平安時代須恵器・土師器														
まつやま 松山遺跡第 52 地点	縄文時代の包含層の上に、奈良平安時代住居跡を確認。新河岸川の微高地上で古代から現在まで土地利用が継続して行われていた事が判明し貴重。														
	埼玉県ふじみ野市築地 2 丁目 2-1 1-11	112453 25-010	35° 52' 23" 139° 31' 49"	20100826 20100903	322 分譲住宅建設 越村篤										
まつやま 松山遺跡第 53 地点	集落の間に位置するため大規模な遺構は確認されなかったが、縄文時代と思しき落とし穴を検出し、概期の土地利用を研究する上で貴重な発見となった。														
	埼玉県ふじみ野市築地 3 丁目 1-11	112453 25-010	35° 52' 20" 139° 31' 45"	20100910 20100921	90 個人住宅建設 越村篤										
まつやま 松山遺跡第 55 地点	集落跡 // 近代以降の溝 4 条、穴藏 1 基														
	集落の間に位置するため大規模な遺構は確認されなかったが、近現代の穴藏を検出し、概期の土地利用を研究する上で貴重な発見となった。														
まつやま 松山遺跡第 55 地点	埼玉県ふじみ野市松山 2 丁目 4-24 の一部	112453 25-010	35° 52' 21" 139° 31' 45"	20110117 20110131	226 個人住宅建設 高崎直成										
	集落跡 // 奈良・平安時代 / 住居跡 1 軒、掘立柱建物跡 1 棟・土師器、須恵器														
こまばやし 駒林遺跡第 12 地点	奈良平安時代の掘立柱建物跡は、集落の配置を知る上で貴重である。														
	埼玉県ふじみ野市駒林元町 258-2 722-1,3,4	112453 25-013	35° 52' 00" 139° 31' 36"	20100714 20100714	30 個人住宅建設 坪田幹男										
こまばやし 駒林遺跡第 13 地点	集落跡 // 中世以降 溝 1 条														
	東西 300 m、南北 160 m の範囲で「コ」字型に配置すると思われる溝跡の一部を確認。遺跡の範囲と時代を知る上で貴重。														
こまばやし 駒林遺跡第 145 地点	埼玉県ふじみ野市新駒林 3 丁目 4-1-10	112453 30-001	35° 52' 12" 139° 31' 35"	20100727 20100729	96 共同住宅建設 越村篤										
	集落跡 // 近世 土坑 2 基、ピット 11 基・縄文土器、近世丸瓦														
にのはら 西ノ原遺跡第 145 地点	遺跡の範囲を知る上で貴重。														
	埼玉県ふじみ野市うれし野 2 丁目 4-1-10	112453 30-001	35° 51' 23" 139° 31' 19"	20100723 20100825	564 農協事務所・農産物直売所 高崎直成										
集落跡 // 近世以降の溝 5 条															
縄文時代中期環状集落の南部にあたり、集落の範囲を見極める上で貴重である。															



---

ふじみ野市埋蔵文化財調査報告 第11集

## 埼玉県ふじみ野市 市内遺跡群 10

2014年3月20日印刷

2014年3月31日発行

発 行 ふじみ野市教育委員会

〒356-8555 埼玉県ふじみ野市福岡1丁目1番1号

TEL 049-220-2088

FAX 049-266-6271

印 刷 関 東 図 書 株 式 会 社

---

